工事完成図書の電子納品要領(案)

機械設備工事編

平成２０年４月

横浜市

－ 目　次 －

1　適用 ---- 4
2　用語の定義 ---- 5
3　フォルダ構成 ---- 8
4　成果品の管理項目 ---- 16
4-1 工事管理項目 ---- 16
4-2 打合せ簿管理項目 ---- 23
4-3 施工計画書管理項目 ---- 26
4-4 実施仕様書管理項目 ---- 27
4-5 計算書管理項目 ---- 29
4-6 施工図面管理項目 ---- 30
4-7 機器図管理項目 ---- 32
4-8 施工管理記録書管理項目 ---- 34
4-9 取扱説明書管理項目 ---- 36
4-10 その他管理項目 ---- 38
5　ファイル形式 ---- 40
6　ファイルの命名規則 ---- 42
7　電子媒体 ---- 50
7-1 電子媒体 ---- 50
7-2 電子媒体の表記規則 ---- 51
7-3 成果品が複数枚に渡る場合の措置 ---- 52
8　その他留意事項 ---- 53
8-1 ウイルス対策 ---- 53
8-2 使用文字 ---- 54
8-3 オリジナルファイルの電子化について ---- 55
8-4 電子化が困難な資料の取り扱い ---- 56

属資料１　管理ファイルのＤＴＤ ---- 57
付属資料２　管理ファイルのＸＭＬ記入例 ---- 79
付属資料３　図面・書類等の格納例 ---- 93
付属資料４　場所情報の記入方法 ---- 104
付属資料５　ＸＭＬ文書作成における留意点 ---- 113

はじめに

横浜市の公共事業における各種情報の電子化や電子納品の導入にあたり、電子納品要領、基準、ガイドライン等（以下「基準類」という。）の策定が必要となるが、効率性やコストなど公共事業のＩＴ化（CALS/EC）の趣旨を鑑み、次の理由から、国土交通省等が定める基準類を適用することを原則とする。

・本市以外とのデータ交換の容易性（ex.地質データ等：将来）
・受注者（成果物作成者）が複数の基準を理解することが不要
・国土交通省の基準類に適合したアプリケーションソフトウェア（電子納品支援等）の利用が可能
・国が現在検討している次世代 CALS/EC や将来検討する施策・システム等への適用性
・本市独自策定時の労力、コストの縮減
・基準類の全国的な利用により基準自体の精度向上が期待できる
・多くの自治体が同様の考えにより国の基準類を適用（予定）している

なお、国の基準類は、土木系、営繕系、農林水産省系など複数あるが、それぞれ本市の業務（業種）に適合する基準を適用する。

本基準においては、

国土交通省「工事完成図書の電子納品要領（案）機械設備工事編」
（平成 18 年 3 月）

を基本に、管理項目の登録事項等を横浜市版として理解しやすく表現したものであり、

本基準を実運用し、成果品の利活用に問題等を生じる場合には、基準類の見直し検討を適時行うこととしているので、事務局あて情報提供をお願いする。

表１　横浜市版基準類と国土交通省版基準類との比較

			国土交通省		横　浜　市
設計	土木		土木設計業務等の電子納品要領(案) 平成 16 年 6 月	→	設計業務等の電子納品要領(案) 土木編
		電気通信	土木設計業務等の電子納品要領(案) 電気通信設備編　平成 16 年 6 月	→	設計業務等の電子納品要領(案) 電気通信設備編
		機　械	土木設計業務等の電子納品要領(案) 機械設備工事編　平成 18 年 3 月	→	設計業務等の電子納品要領(案) 機械設備工事編
	建　築		建築設計業務等電子納品要領(案) (平成 14 年 11 月改訂版)	→	設計業務等の電子納品要領(案) 建築編・建築設備編
工事	土木		工事完成図書の電子納品要領(案) 平成 16 年 6 月	→	工事完成図書の電子納品要領(案) 土木編
		電気通信	工事完成図書の電子納品要領(案) 電気通信設備編　平成 16 年 6 月	→	工事完成図書の電子納品要領(案) 電気通信設備編
		機　械	**工事完成図書の電子納品要領(案) 機械設備工事編　平成 18 年 3 月**	**→**	**工事完成図書の電子納品要領(案) 機械設備工事編**
	建　築		営繕工事電子納品要領(案) (平成 14 年 11 月改訂版)	→	工事完成図書の電子納品要領(案) 建築編・建築設備編
図面	土木		CAD 製図基準(案) 平成 16 年 6 月	→	CAD 製図基準(案) 土木編
		電気通信	CAD 製図基準(案) 電気通信設備編　平成 16 年 6 月	→	CAD 製図基準(案) 電気通信設備編
		機　械	CAD 製図基準(案) 機械設備工事編　平成 18 年 3 月	→	CAD 製図基準(案) 機械設備工事編
	建　築		建築 CAD 図面作成要領(案) (平成 14 年 11 月改訂版)	→	CAD 製図基準(案) 建築編・建築設備編
地質調査			地質・土質調査成果電子納品要領(案) 平成 16 年 6 月	→	地質・土質調査成果電子納品要領(案) (未策定)
デジタル写真	土　木		デジタル写真管理情報基準(案) 平成 18 年 1 月	→	デジタル写真管理情報基準(案) ・　土木編・電気通信設備編・機械設備工事編 ・　建築編・建築設備編
	建　築		・　(工事写真の撮り方) ・　営繕工事電子納品要領(案) (平成 14 年 11 月改訂版) 7-3 工事写真の取扱い		
測　量			測量成果電子納品要領(案) 平成 16 年 6 月		測量成果電子納品要領(案) (未策定)
運用ガイドライン	土木		電子納品運用ガイドライン(案) 平成 16 年 10 月	→	電子納品運用ガイドライン(案) 土木編
		電気通信	電子納品運用ガイドライン(案) 電気通信設備編　平成 16 年 5 月	→	電子納品運用ガイドライン(案) 電気通信設備編
		機　械	電子納品運用ガイドライン(案) 機械設備工事編　平成 18 年 3 月	→	電子納品運用ガイドライン(案) 機械設備工事編
	建　築		官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン(案)(平成 14 年 11 月改訂版)	→	電子納品運用ガイドライン(案) 建築編・建築設備編

表２　横浜市版基準類と成果品種別との対応

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th rowspan="2">電子納品全体に関する事項</th><th colspan="5">各々成果品に関する事項</th></tr>
<tr><th>文書類</th><th>図面類</th><th>写真類</th><th>地質調査</th><th>測量</th></tr>
<tr><td>設計業務
測量調査
地質・土質
調査</td><td>設計業務等の電子納品要領(案)
土木編
電気通信設備編
機械設備工編
建築編建築設備編</td><td>設計業務等の電子納品要領(案)
土木編
電気通信設備編機械設備工編
建築編、建築設備編</td><td rowspan="2">CAD製図基準(案)
土木編
電気通信設備編
機械設備工事編
建築編、建築設備編</td><td rowspan="2">デジタル写真管理情報基準(案)</td><td>地質・土質調査成果電子納品要領(案)
(未策定)</td><td>測量成果電子納品要領（案）
(未策定)</td></tr>
<tr><td>工事</td><td>工事完成図書の電子納品要領（案）
土木編
電気通信設備編
機械設備工事編
建築編、建築設備編</td><td>工事完成図書の電子納品要領（案）
土木編
電気通信設備編
機械設備工事編
建築編、建築設備編</td><td>－</td><td>－</td></tr>
</table>

1 適用

本要領は、横浜市における機械設備工事（建築設備を除く）において規定される資料の中から、電子的手段によって発注者に引き渡す書類（以下、電子成果品という）の電子データの形式の標準を定めたものである。

- 各工事において適用されている規定と、本要領の規定との間に差異がある場合は、監督員の指示に従う。

2 用語の定義

「工事完成図書の電子納品要領(案)機械設備工事編」に使用する用語は機械工事共通仕様書のとおりとし、それ以外の用語は次に定めるところとする。

(1) 「施工計画書」

「施工計画書」とは、工事着手前に請負人から提出される施工計画に関する文書及びそれの添付資料(文書、図面、写真)をいう。

(2) 「打合せ簿」

「打合せ簿」とは、施工中に発注者～請負人間で交換される下記に示す項目に関する文書(鑑)及びそれの添付資料(文書、図面、写真)をいう。

1)「指示」

監督員が請負人に対し、工事の施工上必要な事項について書面により示し、実施させることをいう。

2)「承諾」

契約図書で示した事項について、発注者若しくは監督員又は 請負人若しくは現場代理人が書面により同意することをいう。

3)「協議」

書面により契約図書の協議事項について、発注者と請負人が対等の立場で合議し、結論を得ることをいう。

4)「提出」

請負人が監督員に対し工事に係る書面又はその他の資料を説明し、差し出すことをいう。

5)「提示」

請負人が監督員に対し工事に係る書面又はその他の資料を示し、説明することをいう。

6)「報告」

請負人が監督員に対し、工事の状況又は結果について書面により知らせることをいう。

7)「通知」

監督員が請負人に対し、又は請負人が監督員に対し、工事の施工に関する事項について、書面により知らせることをいう。

(3) 「発注図」「施工図」「施工図面」「完成図書」

1)「発注図」

発注図とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更又は追加された設計図及び設計図のもととなる設計計算書等をいう。ただし、詳細設計を含む工事においては契約図書及び監督員の指示に従って作成したものを発注図とすることができる。ただし、本要領（案）で設計計算書等は対象外とする。

2)「施工図」

施工図とは、設計図書及び実施仕様書に基づき、請負人が作成する製作及び据付上必要となる図面のうち、当該設備に限り使用権を発注者に移譲したものをいう。

3)「施工図面」

施工図面とは、上記 2)で示す施工図の中で、ＣＡＤ図面で作成されたものをいう。

4)「完成図書」

完成図書とは、工事完成時に提出する実施仕様書、計算書、施工図、機器図、施工管理記録書、取扱説明書をいう。これらの書類は上記と同じ名前の各々のフォルダに電子納品される。また、それらの書類の詳細は以下のとおりとする。

B 実施仕様書:設計図書に基づき請負人が仕様を明確にするために作成する書面をいう。

B 計算書：設計図書及び実施仕様書に基づき、請負人が作成する施工図にかかわる、強度、機能、数量（必要時）の計算書をいう。

B 施工図：設計図書及び実施仕様書に基づき、請負人が作成する製作及び据付上必要となる図面をいう。

B 機器図：請負人が製作・購入する機器図をいう。

B 施工管理記録書：品質管理（試験成績書等)、出来形管理、工程管理に関したものをいう。

B 取扱説明書：設備全体及び機器単体の取扱説明書、及びサービス体制表をいう。

(4) 「工事写真」

「工事写真」とは、施工管理の手段として、各工事の施工段階及び工事完成後明視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害写真等を写真管理基準（案）により撮影したものである。なお、工事写真の電子データは「デジタル写真管理情報基準(案)

土木編・電気通信設備編・機械設備工事編」の規定に基づき作成するものとする。

(5) 「品質管理資料」と「出来形管理資料」

「品質管理資料」とは、製品の製作及び据付の必要な段階において、出来ばえ及び規格値を管理する資料をいう。

「出来形管理資料」とは、製品完成後の形状寸法、機能等について設計値と実測値を対比して製品の出来上がり状態を管理する資料をいう。

(6) 「その他資料」

「工事履行報告書」と「段階確認書」等とする。

3 フォルダ構成

電子的手段により引き渡される成果品は、図 3-1～図 3-5 に示すフォルダ構成とする。

電子媒体のルート直下に「DRAWINGS」、「MEET」、「PLAN」、「DRAWINGF」、「K_BOOK」、「PHOTO」、「OTHRS」、「K_LDR」のフォルダ及び工事管理ファイルを置く。各管理ファイルを規定する DTD 及び XSL ファイルも該当フォルダに格納する(図 3-1～3-5 参照)。ただし、XSL ファイルの格納は任意とする。

「K_BOOK」フォルダには、「B_SPC」、「B_CHECK」、「B_INST」「B_DEVICE」、「B_EXAM」、「B_MANUAL」サブフォルダを置く。

格納する電子データファイルがないフォルダは作成しなくてもよい。

各フォルダ及びサブフォルダに格納するファイルは、以下の通りとする。

1「DRAWINGS」フォルダには、発注図の電子データファイルを「CAD 製図基準（案）機械設備工事編」に従い格納する。「SPEC」サブフォルダには、特記仕様書オリジナルファイルを格納する。「DRAWINGS」フォルダに格納する図面管理ファイル及び発注図は、発注者より電子データとして提出されたものを格納し、請負人側にて新たに電子データの作成を行う必要はない。DTD 及び XSL ファイルもこのフォルダに格納する。

2「MEET」フォルダには、打合せ簿管理ファイルを格納する。DTD 及び XSL ファイルもこのフォルダに格納する。ただし、XSL ファイルの格納は任意とする。「ORG」サブフォルダには、打合せ簿オリジナルファイル、品質管理オリジナルファイル、出来形管理オリジナルファイルを格納する。

3「PLAN」フォルダには、施工計画書管理ファイルを格納する。DTD 及び XSL ファイルもこのフォルダに格納する。ただし、XSL ファイルの格納は任意とする。「ORG」サブフォルダには、施工計画書オリジナルファイルを格納する。

4「DRAWINGF」フォルダには図面管理ファイルと施工図面・完成図ファイルを「CAD 製図基準(案)機械設備工事編」に従い格納する。DTD 及び XSL ファイルもこのフォルダに格納する。ただし、XSL ファイルの格納は任意とする。

なお、「DRAWINGF」サブフォルダに格納する CAD データの形式については、付属資料 3 を参照のこと。

5「K_BOOK」フォルダでは、管理ファイルをそれぞれのサブフォルダに置く。DTD 及び XSL ファイルもこのフォルダに格納する。ただし、XSL ファイルの格納は任意とする。

・「B_SPC」サブフォルダには実施仕様書管理ファイルと実施仕様書ファイルを格納する。

・「B_CHECK」サブフォルダには計算書管理ファイルと計算書ファイル、検討書ファイル、数量表ファイル（必要時）を格納する。

・「B_INST」サブフォルダには施工図面管理ファイルと施工図面ファイルを格納する。

・「B_DEVICE」サブフォルダには機器図管理ファイルと機器図ファイルを格納する。

・「B_EXAM」サブフォルダには施工管理記録書管理ファイルと品質ファイル（試験成績書等）、出来形ファイル、工程ファイル等を格納する。

・「B_MANUAL」サブフォルダには取扱説明書管理ファイルと取扱説明書ファイル、サービス体制ファイルを格納する。

6「PHOTO」フォルダには、工事写真の電子データファイルを「デジタル写真管理情報基準（案）土木編・電気通信設備編・機械設備工事編」に従い格納する。

7「OTHRS」フォルダは、監督員の承諾を得て作成することができ、作成する際は、その他の管理ファイルを格納する。DTD 及び XSL ファイルもこのフォルダに格納する。ただし、XSL ファイルの格納は任意とする。「ORGnnn」サブフォルダは監督員の承諾を得て複数作成することができ、各工事の特性に応じたデータ等を格納する。「ORGnnn」サブフォルダの「nnn」は数字を示しており、連番とする。

8「K_LDR」フォルダは、台帳管理ファイルと施設台帳ファイル・機器台帳ファイルを格納する。ただし、本フォルダは任意扱いとし、必要に応じて受発注者協議のうえ記入する。記入の際は、本要領 P18「成果品の管理項目－工事管理項目」の「施設情報－台帳フォルダ」を参考とし記入のうえ、詳細は「電子納品要領(案)機械設備工事編　施設機器コード」（国土交通省）を参照とする。

フォルダ作成上の留意事項は次の通りとする。

・フォルダ名称は、半角英数大文字とする。

・フォルダの順番は、例示であり、表示の順番はこれによるものではない。

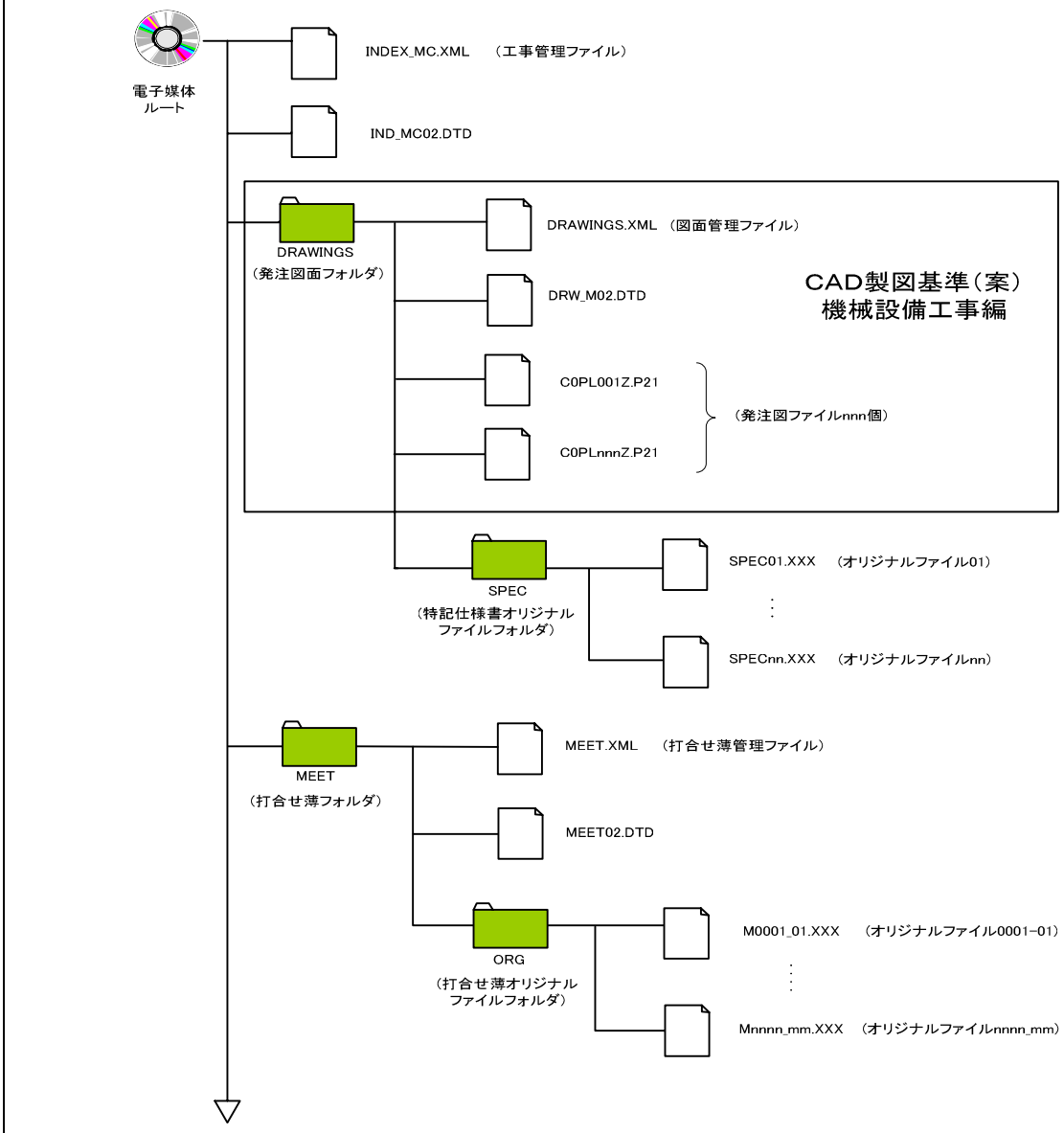


図 3-1　**フォルダ構成**（1/5）

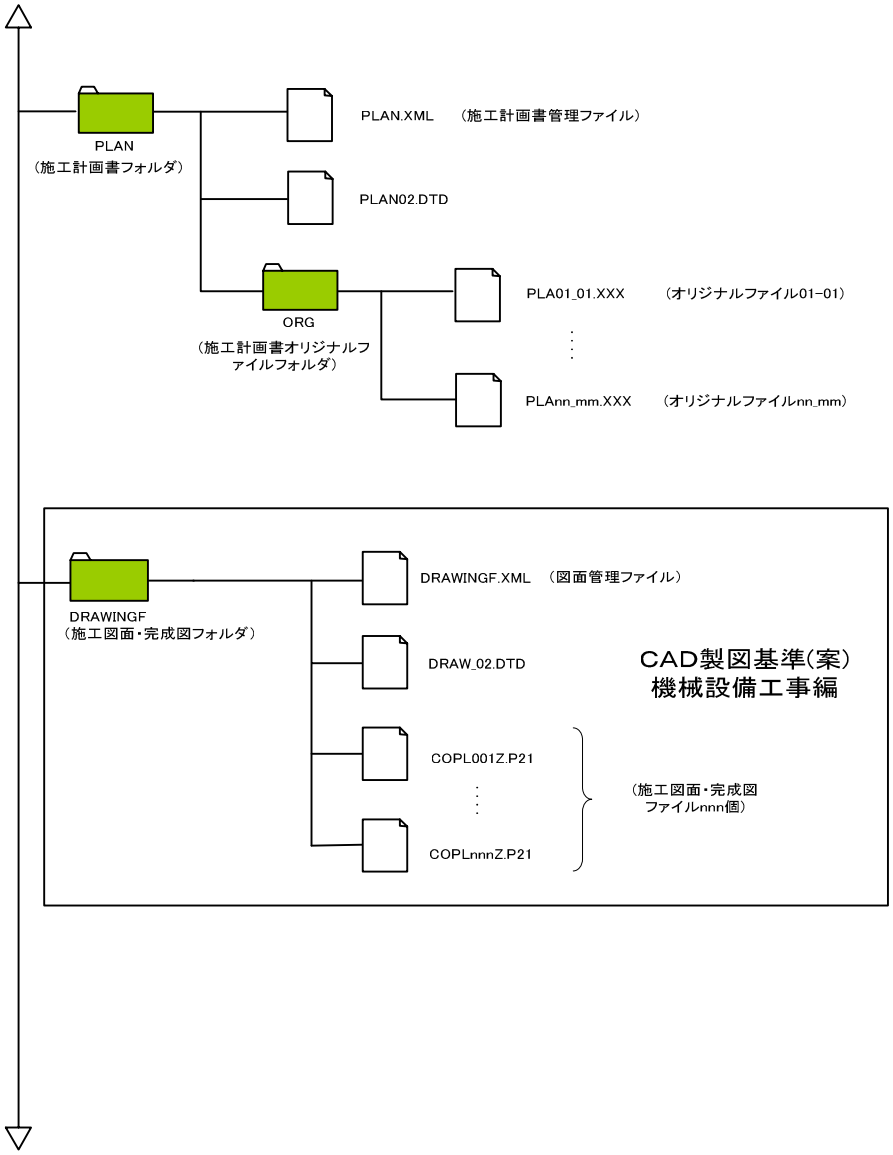


図 3-2　フォルダ構成図（2/5）

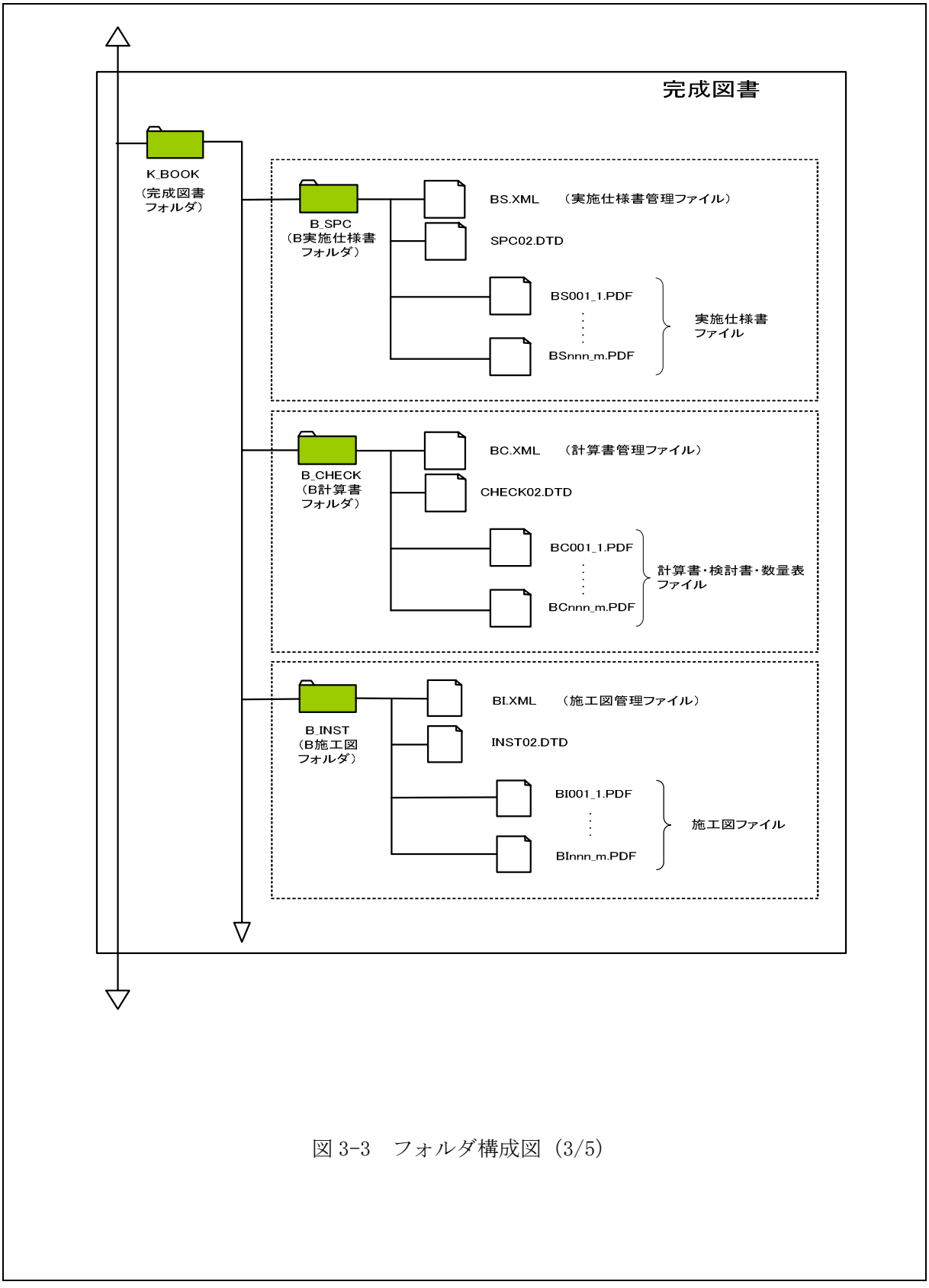


図 3-3　フォルダ構成図（3/5）

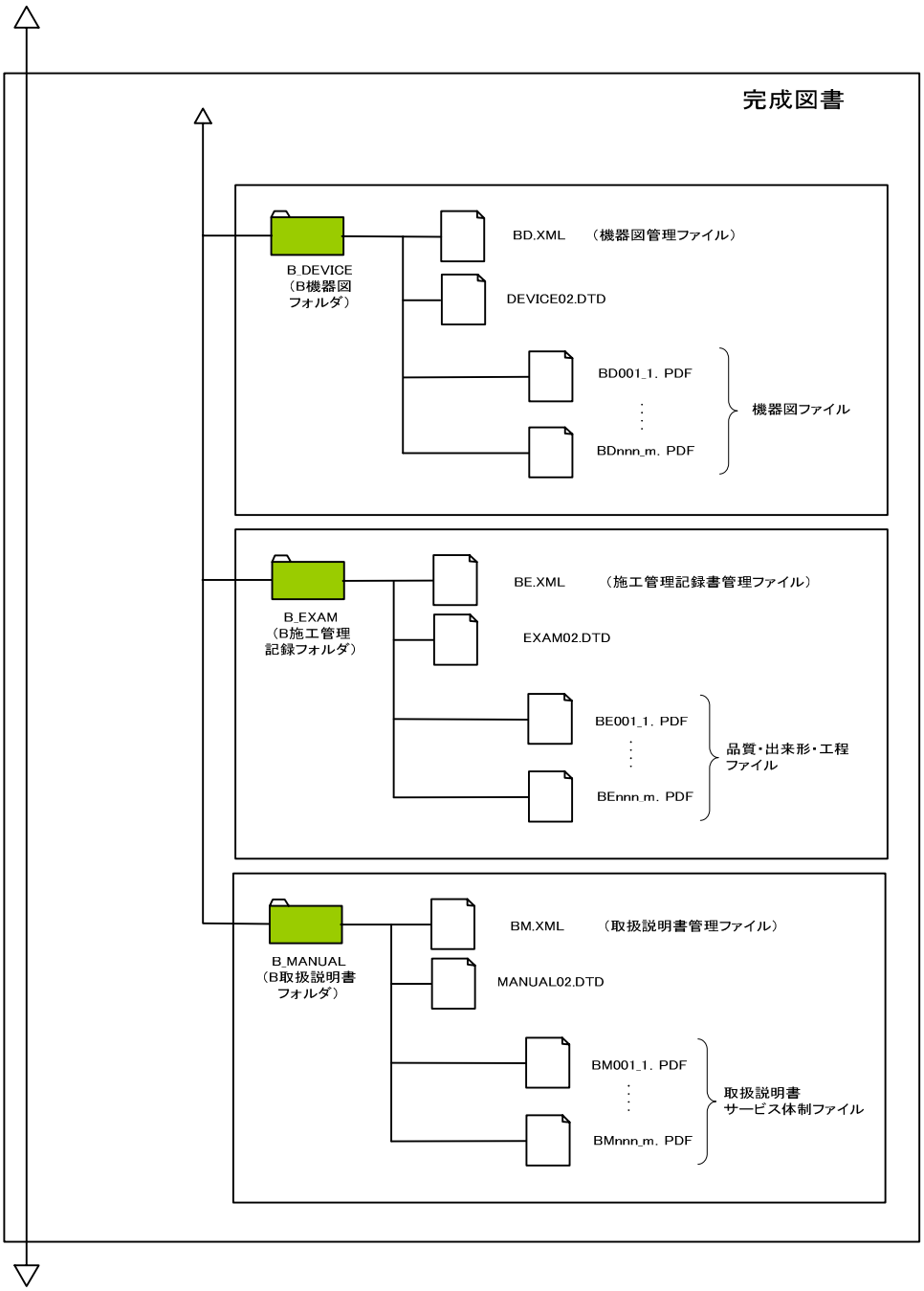


図 3-4　フォルダ構成図（4/5）

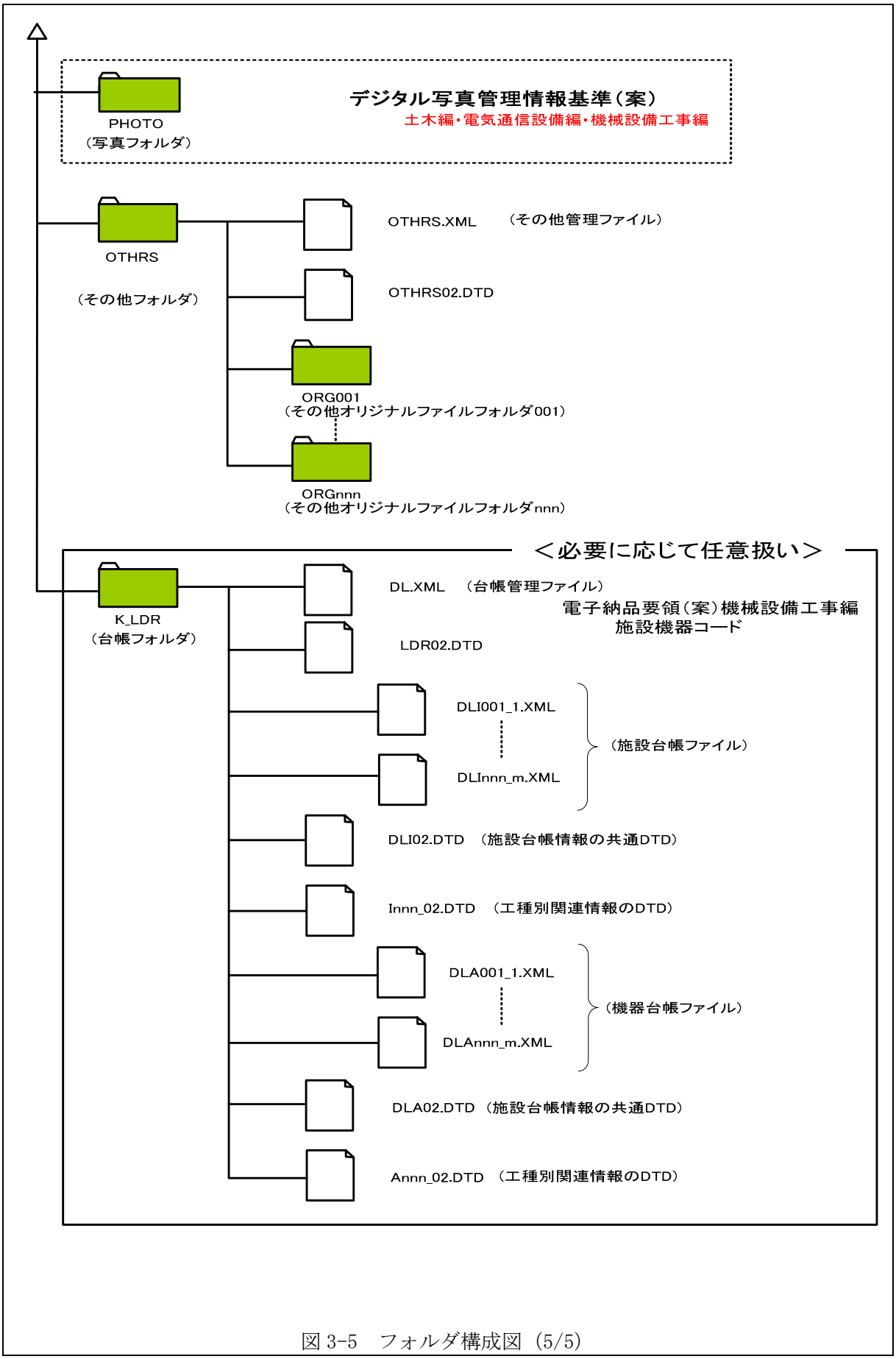


図 3-5　フォルダ構成図（5/5）

【解説】

(1)　「ＤＲＡＷＩＮＧＦ」フォルダ（施工図面・完成図フォルダ）

当該設備に限り使用権を発注者に移譲した施工図面の電子データファイルを「CAD 製図基準(案)機械設備工事編」に従い格納する。

(2)　Ｋ_ＢＯＯＫフォルダ（完成図書フォルダ）

「K_BOOK」フォルダの各サブフォルダには、PDF 形式でファイルを格納する。なお、各サブフォルダに格納する図面・書類等の範囲は付属資料３を参照のこと。

(3)　ＯＴＨＲＳフォルダ（その他フォルダ）

・「ＯＴＨＲＳ」フォルダは、監督員の承諾を得て作成することができ、作成する際は、その他管理ファイルを格納する。「ORG」サブフォルダは、監督員の承諾を得て複数作成することができ、個別分野の維持管理システムへの登録データ等、各工事の特性に応じたデータを格納する。

・「ＯＲＧ」サブフォルダ内には任意でフォルダを作成することができるが、階層は、「7-1 電子媒体」の CD-R の理論フォーマットの制約からルートから数えて最大８階層までとなることに注意する。

・「ＯＴＨＲＳ」フォルダは、電子成果品として不必要なデータを格納してはならない。

(4)　Ｋ_ＬＤＲフォルダ（台帳ファイル）

1)　台帳管理ファイル

「Ｋ_ＬＤＲ」フォルダに格納する「台帳管理ファイル」は、「管理台帳項目」（台帳の属性を表すデータ）をＸＭＬ文書で記入したファイルである。

なお、「ＬＤＲ０２．ＤＴＤ」もこのフォルダに格納する。

台帳管理ファイルとは、今後、維持管理において必要となるデータで、ＸＭＬ文書で記入したファイルである。台帳管理ファイルは任意扱いとし、必要に応じて受発注協議のうえ記入する。

2)　台帳ファイル

「施設台帳」ファイル、「機器台帳」ファイルをＸＭＬで格納する。

なお、「ＤＬＩ０２．ＤＴＤ」「ＤＬＡ０２．ＤＴＤ」もこのフォルダに格納するものとする。

4 成果品の管理項目

4-1 工事管理項目

電子成果品に格納する工事管理ファイル（INDEX_MC.XML）に記入する工事管理項目は、下表に示す通りである。

工事管理項目（1/3）

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
基礎情報	メディア番号	提出した電子媒体の通し番号を記入する。単一の電子媒体であれば 1 となる。	半角数字	8	□	◎
	メディア総枚数	提出した電子媒体の総枚数を記入する。	半角数字	8	□	◎
	適用要領基準	電子成果品の作成で適用した要領・基準の版（「機械 200603-01」で固定）を記入する。（分野：機械、西暦年：2006、月：03、版：01）	全角文字 半角英数字	30	▲	◎
	発注図フォルダ名	発注図を格納するために「DRAWINGS」フォルダを作成した場合は（DRAWINGS で固定）を記入する。	半角英数大文字	127	▲	○
	特記仕様書オリジナルファイルフォルダ名	特記仕様書を格納するために「SPEC」フォルダを作成した場合はフォルダ名称（DRAWINGS/SPEC で固定）を記入する。	半角英数大文字	127	▲	○
	打合せ簿フォルダ名	打合せ簿を格納するために「MEET」フォルダを作成した場合はフォルダ名称（MEETで固定）を記入する。	半角英数大文字	127	▲	○
	打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名	打合せ簿オリジナルファイルを格納するフォルダ名称（MEET/ORG で固定）を記入する。	半角英数大文字	127	▲	○
	施工計画書フォルダ名	施工計画書を格納するために「PLAN」フォルダを作成した場合はフォルダ名称（PLAN で固定）を記入する。	半角英数大文字	127	▲	○
	施工計画書オリジナルファイルフォルダ名	施工計画書オリジナルファイルを格納するフォルダ名称（PLAN/ORG で固定）を記入する。	半角英数大文字	127	▲	○
	施工図面・完成図フォルダ名	施工図面・完成図を格納するために「DRAWINGF」フォルダを作成した場合はフォルダ名称（DRAWINGFで固定）を記入する。	半角英数大文字	127	▲	○
	完成図書フォルダ名	完成図書を格納するために「K_BOOK」フォルダを作成した場合はフォルダ名称（K_BOOK で固定）を記入する。	半角英数大文字	127	▲	○
	B 実施仕様書フォルダ名	B 実施仕様書管理ファイルと実施仕様書ファイルを格納するフォルダ名称（K_BOOK/B_SPC で固定）を記入する。	半角英数大文字	127	▲	○
	B 計算書フォルダ名	B 計算書管理ファイルと計算書・検討書・数量表ファイルを格納するフォルダ名称（K_BOOK/B_CHECK で固定）を記入する。	半角英数大文字	127	▲	○
	B 施工図面フォルダ名	B 施工図面管理ファイルと施工図ファイルを格納するフォルダ名称（K_BOOK/B_INST で固定）を記入する。	半角英数大文字	127	▲	○
	B 機器図フォルダ名	B 機器図管理ファイルと機器図ファイルを格納するフォルダ名称（K_BOOK/B_DEVICE で固定）を記入する。	半角英数大文字	127	▲	○
	B 施工管理記録書フォルダ名	B 施工管理記録書管理ファイルと施工管理記録書ファイルを格納するフォルダ名称（K_BOOK/B_EXAM で固定）を記入する。	半角英数大文字	127	▲	○
	B 取扱説明書フォルダ名	B 取扱説明書管理ファイルと取扱説明書・サービス体制ファイルを格納するフォルダ名称（K_BOOK/B_MANUAL で固定）を記入する。	半角英数大文字	127	▲	○

工事管理項目（2/3）

分類・項目名			記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
基礎情報	写真フォルダ名		写真を格納するために[PHOTO]フォルダを作成した場合はフォルダ名称(PHOTO で固定)を記入する。	半角英数大文字	127	▲	○
	その他フォルダ名		その他資料を格納するために「OTHRS」フォルダを作成した場合はフォルダ名称(OTHRS で固定)を記入する。	半角英数大文字	127	▲	○
	その他オリジナルフォルダ情報	その他オリジナルファイルフォルダ名	その他オリジナルファイルを格納するフォルダ名称(OTHRS/ORG001～nnn)を記入する。(nnn は連番を示す)。その他オリジナルフォルダがある場合は必ず記入する。	半角英数大文字	127	▲	◎
		その他オリジナルファイルフォルダ日本語名	その他オリジナルファイルを格納するフォルダの日本語名称を記入する。	全角文字 半角英数字	127	▲	◎
	台帳フォルダ名		台帳管理ファイルと施設台帳、機器台帳ファイルを格納するフォルダ名(K_LDRで固定)を記入する。	半角英数大文字	127	▲	○
工事件名等	発注年度		工事の発注年度を西暦4桁で記入する。	半角数字	4	□	◎
	工事番号		横浜市の電子入札システムと同一の契約番号(10桁)にする。 (10桁の内訳＝西暦2桁＋局区コード3桁＋種別1桁＋番号4桁)	半角数字	127	□	◎
	工事名称		契約図書に記載されている正式の工事名称を記入する。	全角文字 半角英数字	127	■	◎
	施工金額		CORINSの「請負金額」に従って記入する。	半角数字	16	■	◎
	工事情報システムバージョン番号※2		管理項目の記入で参照している CORINS のマニュアル(コード表)のバージョン(システムのバージョン)を記入する。	半角数字	12	□	○
	工事分野 ※2		CORINS の「工事の分野」に従って記入する。	全角文字 半角英数字	16	■	◎
	工事業種 ※2		CORINS の「工事の業種」に従って記入する。	全角文字 半角英数字	16	■	◎
	工種・工法形式※	工種 ※2	CORINS の「工種、工法・型式」の「工種」を記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	■	◎
		工法型式 ※2	CORINS の「工種、工法・型式」の「工法・型式」を記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	■	◎
	住所情報※	住所コード ※2	該当地域の住所コードを CORINS 表より選択し、記入する。該当がない場合は「99999」とする。応。(複数記入可)	半角数字	5	□	◎
		住所 (施工場所) ※2	該当地域の住所を記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	工期開始日		工期の開始日を CCYY-MM-DD 方式(西暦年月日)で記入する。月日が 1 桁の数の場合"0"を付加して、必ず 10 桁で記入する。 (CCYY:西暦の年数、MM:月、DD:日)	半角数字 － (HYPHEN-MINES)	10	■	◎
	工期終了日		工期の終了日を CCYY-MM-DD 方式(西暦年月日)で記入する。月日が 1 桁の数の場合"0"を付加して、必ず 10 桁で記入する。 (CCYY:西暦の年数、MM:月、DD:日)	半角数字 － (HYPHEN-MINES)	10	■	◎
	工事内容		工事概要及び主工種とその数量を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎

工事管理項目（3/3）

分類・項目名				記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
場所情報※1	測地系			日本測地系、世界測地系（日本測地系2000）の区分コードを記入する。日本測地系は「00」、世界測地系（日本測地系2000）は「01」を記入する。	半角数字	2	□	○
	水系・路線情報※	対象水系路線名		CORINSの路線・水系名等に従って記入する。複数の路線水系にまたがる場合、関連する路線水系名を記入する。当該情報が複数ある場合の記入方法は付属資料4を参照のこと。	全角文字 半角英数字	127	■	○
		現道- 旧道区分		「現道:1」、「旧道:2」、「新道:3」、「未調査:0」のいずれかを記入する。	半角数字	1	□	○
		対象河川コード		「河川コード仕様書(案)」に準拠し発注者が指示する河川コードを記入する。	半角数字	10	□	○
		左右岸上下線コード		河川の左岸・右岸の別または道路の上下線の別を示す左右岸上下線コードを記入する。（複数記入可）	半角数字	2	□	○
		測点情報※	起点側測点-n	（自）n＋m　nを4桁で記入する。	半角数字	4	□	○
			起点側測点-m	（自）n＋m　mを3桁で記入する。	半角数字	3	□	○
			終点側測点-n	（至）n＋m　nを4桁で記入する。	半角数字	4	□	○
			終点側測点-m	（至）n＋m　mを3桁で記入する。	半角数字	3	□	○
		距離標情報※	起点側距離標-n	（自）n＋m　nを3桁で記入する。	半角数字	3	□	○
			起点側距離標-m	（自）n＋m　mを3桁で記入する。	半角数字	3	□	○
			終点側距離標-n	（至）n＋m　nを3桁で記入する。	半角数字	3	□	○
			終点側距離標-m	（至）n＋m　mを3桁で記入する。	半角数字	3	□	○
	境界座標情報	西側境界座標経度		対象領域の最西端の外側境界の経度を記入する。　度(3桁)　分(2桁)　秒(2桁) 対象領域が西経の場合は頭文字に-(HYPHEN-MINES)を記入する。該当がない場合は「99999999」とする。	半角数字 - (HYPHEN-MINES)	8	□	○
		東側境界座標経度		対象領域の最東端の外側境界の経度を記入する。　度(3桁)　分(2桁)　秒(2桁) 対象領域が西経の場合は頭文字に-(HYPHEN-MINES)を記入する。該当がない場合は「99999999」とする。	半角数字 - (HYPHEN-MINES)	8	□	○
		北側境界座標緯度		対象領域の最北端の外側境界の緯度を記入する。　度(3桁)　分(2桁)　秒(2桁) 対象領域が南緯の場合は頭文字に-(HYPHEN-MINES)を記入する。該当がない場合は「99999999」とする。	半角数字 - (HYPHEN-MINES)	8	□	○
		南側境界座標緯度		対象領域の最南端の外側境界の緯度を記入する。　度(3桁)　分(2桁)　秒(2桁) 対象領域が南緯の場合は頭文字に-(HYPHEN-MINES)を記入する。該当がない場合は「99999999」とする。	半角数字 - (HYPHEN-MINES)	8	□	○
施設情報	台帳フォルダ			台帳フォルダ(施設機器コード)の有無について記入する。(0:なし、1:あり)「施設機器コード」を参照する。	半角数字	1	□	◎
発注者情報	発注者-大分類			横浜市を記入する。(CORINS の「発注機関名・中分類」に対応)	全角文字 半角英数字	16	■	◎
	発注者-中分類			局・区名を記入する。 (CORINS の「発注機関名・小分類」に対応)	全角文字 半角英数字	32	■	◎
	発注者-小分類			工事監督を行う課名等を記入する。(CORINS の「発注機関名・細分類」に対応)	全角文字 半角英数字	16	■	◎
	発注者機関コード ※2			発注者機関コードを CORINS コード表から選択して記入する。	半角数字	8	■	◎
請負者情報	請負者名			請負人の正式名称を記入する。(CORINS の「請負会社名」に対応)	全角文字 半角英数字	127	■	◎
	請負者コード			横浜市が定める請負人コード(7桁)を記入する。	半角数字	32	□	○
予備				特記事項がある場合に記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトメーカ用 TAG				ソフトウェアメーカが管理のために使用する。 (複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

【記入者】■：CORINS から出力される CFD ファイル(CORINS 提出用ディスクのファイルフォーマット)から取り込むことが可能な項目。
□：電子成果品作成者が記入する項目。
▲：電子成果品作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】◎：必須記入。
○:条件付き必須記入。(データが分かる場合及び発注者からの指示があった場合に入力)
△：任意記入。

※1. 複数記入可能な項目は、必要な回数繰り返す。
※2. 500 万円未満の CORINS 登録対象外工事についても、CORINS で定める入力規則に従って入力する。

【解説】

(1) 基礎事項

- 工事管理項目は、成果品の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- 工事管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- 付属資料 1 に管理ファイルの DTD、付属資料 2 に管理ファイルの XML 記入例を示す。
- CORINS(COnstruction Records Information Service：コリンズ)は、「工事実績と技術者のデータベース」であり、公共工事の一般競争入札方式等の入札・契約手続きを支援する。

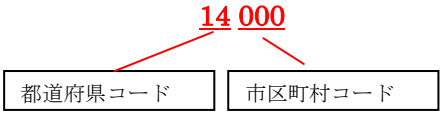
(2) 場所に関わる情報の記入 (詳細は付属資料 4 参照)

1)「住所コード」(必須記入項目)

住所コードは工事対象地域が位置する都道府県または市区町村を表し、CORINS のコード表※1 を参考に記入する。工事対象地域が複数の市区町村にまたがる場合は、該当する市区町村コードを記入する(複数記入可能)。工事対象地域の境界が判定し難い場合は、わかる範囲で記入する。特定の地域に該当しない工事については、「99999」(対象地域なし)を記入する。

住所コードを都道府県レベルで表す場合は、全 5 桁の住所コードのうち市区町村コード部(下 3 桁)を「000」として記入する。

(例) 神奈川県全域を表す住所コード：



※1）CORINS の施工場所コード表を指す。JIS X0402（市区町村コード：3 ケタ）に準拠し、JIS X0401（都道府県コード：2 ケタ）を組み合わせ、5 ケタ記入としている。ただし、「海外」を示すコードは異なるコード体系が採用されているため注意すること（CORINS では「50」（固定）と JIS X0304（国名コード）の「3 数字コード」を組み合わせによる 5 桁のコード）。

2)「住所」（必須記入項目）

住所は設計図書等に明示されている履行場所の住所、地名（○○事務所管内、○○川流域など）を含め、該当地域の住所を記入する（複数記入可能）。文字コードは全角文字・半角英数字を標準とし、全角英数字は用いない。また、原則として住所に俗称は用いない。

3)場所情報

場所情報については、特定の場所・地域によらない工事を除き「境界座標」を記入する。水系・路線により場所が示される工事おいては「測点」または「距離標」のいずれかを記入することができる。また、「測点」及び「距離標」は「対象水路系路線名」、「河川対象コード（複数記入可）」の件数に対応して複数記入することができる。

(A)　測点（条件付き必須記入項目）

工事対象となる起点側測点及び終点側測点を測点番号（n）及び測点からの距離（m）の組み合わせで記入する（複数記入可能）。

(B)　対象水系路線名

対象水系路線名は、対象水系路線名の情報がある場合に記入する。

(C)　現道-旧道区分

現道-旧道区分は、「道路管理関係デジタル道路地図データベース標準　第 3.0 版　平成 15 年 4 月　財団法人　日本デジタル道路地図協会」に準拠し、「現道：1」、「旧道：2」、「未調査：3」のいづれかを記入する。

(D)　対象河川コード

対象河川コードは「河川コード仕様書(案)国土交通省河川局」に準拠し発注者が支持する河川コードを記入する。(複数記入可)。なお、河川コードを記入する場合は左右岸コードを併せて記入する。

(E)　左右岸上下線コード

場所情報として距離標を記入する場合は、河川の左岸・右岸等の別または道路の上下線の別を示す左右岸上下線コードを記入する。

(河川)00：不明、01：右岸、02：左岸、03：中州、99：その他

(道路)00：不明、10：上り線、20：下り線、30：上下線共通、99：その他

＊左右岸コードは「河川基盤地図ガイドライン(案)　第 2.1 版　平成 13 年 12 月　国土交通省河川局河川計画課」に準拠している。

＊上下線コードは「道路管理関係デジタル道路地図データベース標準　第 3.0 版　平成 15 年 4 月　財団法人　日本デジタル道路地図協会」に基づき左右岸コードとのコードの重複を避けるため「0」を付加して桁上げしている。

＊「99：その他」は水部・河川敷部外、車道部外等の場合に適用する。

(F)距離標（条件付き必須記入項目）

工事対象となる起点側距離標及び終点側距離標について、起点側からの距離「○○○km」「△△△m」を各々「距離標-n」及び「距離標-m」として記入する（複数記入可能)。

(G)境界座標（条件付き必須記入項目）

「境界座標」は世界測地系に準拠する。その範囲は対象範囲を囲む矩形の領域を示し、西側及び東側の経度と北側及び南側の緯度を各々度（3 桁）分（2 桁）秒（2 桁）で表される 7 桁の数値を記入する。特定の地域に該当しない工事については、「99999999」（対象地域なし）を各項目に記入する。「境界座標」は「対象領域の外側」を記入する。なお、対象領域が南緯及び西経の場合は頭文字に「－」(HYPHEN-MINES)を記入する。

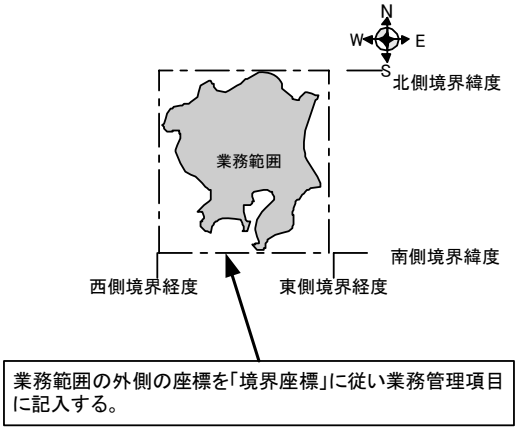


図 4-1　境界座標が示す範囲

〈境界座標の取得精度について〉

成果品の「工事管理ファイル」の管理項目に記入する境界座標の精度は、工事範囲にもよるが百 m 程度を目安とする（ちなみに、経緯度の 1 秒は地上距離で約 30m に相当する）。なお、工事範囲が大きくなれば一般に精度も粗くなるが、可能な範囲の精度で取得することが望ましい。

4-2 打合せ簿管理項目

電子成果品に格納する打合せ簿管理ファイル（MEET.XML）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

打合せ管理項目

分類	項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
打合せ簿情報 ※	シリアル番号		打合せ簿の通し番号を記入する。連番を原則とするが、やむを得ない理由で中抜け（欠番）してもよい。12番目を。“00012”のように0を付けて表現してはいけない。	半角数字	15	□	◎
		上位打合せ簿シリアル番号	当該打合せ簿が派生した上位にあたる打合せ簿のシリアル番号を記入する。（本項目はシリアル番号の属性として保持）	半角英数字	15	□	○
		下位打合せ簿シリアル番号	当該打合せ簿が派生した下位にあたる打合せ簿のシリアル番号を記入する。（本項目はシリアル番号の属性として保持）	半角英数字	15	□	○
	打合せ簿種類		打合せ簿の種類を記入する。（「指示」「承諾」「協議」「提出」「提示」「報告」「通知」）	全角文字 半角英数字	16	□	◎
	打合せ簿名称		打合せ簿の標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	管理区分		「施工管理」「安全管理」「出来形管理」「品質管理」「出来高管理」「原価管理」「工程管理」「写真管理」を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	○
	関連資料	図面ファイル名	関連する図面がある場合は、図面管理項目の「図面ファイル名」を記入する。（複数記入可）	半角英数 大文字	12	□	△
		シリアル番号	関連する写真がある場合は、写真管理項目の「シリアル番号」を記入する。（複数記入可）	半角数字	7	□	△
	作成者		打合せ簿の作成者を記入する。（現場代理人、主任技術者、監督員など）	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	提出先		打合せ簿の提出先（発注者、請負人）を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	発行日付		発行した日付を記入する。CCYY-MM-DD 方式（西暦年月日）で記入する。（CCYY：西暦の年数、MM：月、DD：日）	半角数字 － (HYPHEN-MINES)	10	□	◎
	受理日付		受理した日付を記入する。CCYY-MM-DD 方式（西暦年月日）で記入する。（CCYY：西暦の年数、MM：月、DD：日）	半角数字 － (HYPHEN-MINES)	10	□	◎
	完了日付		発注者又は請負人が処理・回答した日付を記入する。CCYY-MM-DD 方式(西暦年月日)で記入する。（CCYY：西暦の年数、MM：月、DD：日）	半角数字 － (HYPHEN-MINES)	10	□	○
	オリジナルファイル情報	打合せ簿オリジナルファイル名	打合せ簿のオリジナルファイル名を記入する。（拡張子を含む）	半角英数 大文字	12	□	◎
		打合せ簿オリジナルファイル日本語名	打合せ簿のファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報	打合せ簿オリジナルファイルの作成ソフトとバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎

	その他	請負者 説明文	請負人側で打合せ簿に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		発注者 説明文	発注者側で打合せ簿に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		予備	電子化が困難等の理由により受発注者で協議した結果、紙で納品する添付資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトメーカ用 TAG			ソフトウェアメーカが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

【記入者】□：電子成果品作成者が記入する項目。
▲：電子成果品作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。
【必要度】◎：必須記入。
○:条件付き必須記入。(データが分かる場合及び発注者からの指示があった場合に入力)
△：任意記入。
※複数ある場合にはこの項を必要な回数繰り返す。

【解説】

- 打合せ簿管理項目は、成果品の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- 打合せ簿管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- 付属資料１に管理ファイルの DTD、付属資料２に管理ファイルの XML 記入例を示す。
- 打合せ簿には主従・継承関係を持っている場合がある。これらの関係が有る場合は「シリアル番号」の項目の属性情報として定義している「上位・下位打合せ簿シリアル番号」に関連する打合せ簿の「シリアル番号」を記入する。
- 打合せ簿に関連するＣＡＤ図面と工事写真がある場合は「関連資料」を記入する。関連するＣＡＤ図面がある場合は、図面管理項目を参照して「図面ファイル名」を記入する。関連する写真がある場合は、写真管理項目を参照して「シリアル番号」を記入する。
- 「管理区分」の項目には、工事管理が効率よくできる区分を記入する。原則として 8 項目を記入内容としてあげているが、任意に付与することができる。
- 打合せ簿管理項目のオリジナルファイル情報は、１つの打合せ簿に使用されたオリジナルファイルを繰返し登録する。

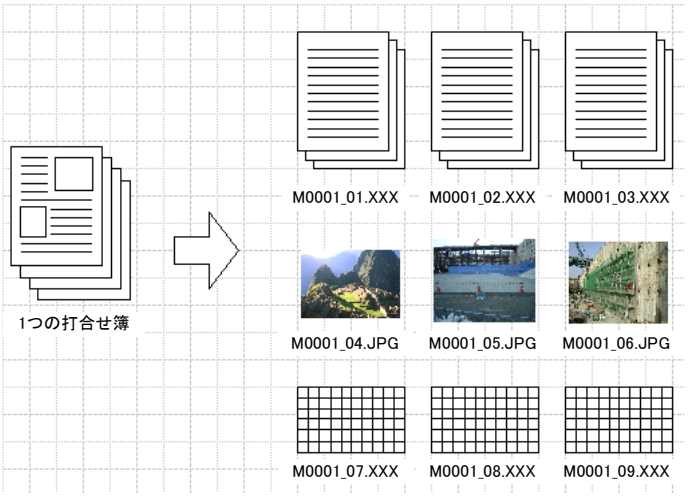


図 4-2　オリジナルファイル情報の登録

- 文書中に組み込んだ図、表、写真のオリジナルファイルは、電子成果品への格納は不要である。実体ファイルの形式は一般的なものが望ましく、一般的では無い場合には監督員と協議するものとする。
- 「品質管理資料」「出来形管理資料」は「打合せ簿情報」の「打合せ簿種類」に「提出」と記入し、「管理区分」に「品質管理」または「出来形管理」を記入する。

4-3 施工計画書管理項目

電子成果品に格納する施工計画書管理ファイル（PLAN.XML）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

施工計画書管理項目

分類	項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
施工計画書情報 ※	シリアル番号		施工計画書の通し番号を記入する。	半角数字	15	□	◎
	施工計画書名称		施工計画書の標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	オリジナルファイル情報 ※	施工計画書オリジナルファイル名	施工計画書の文書、図面等のオリジナルファイル名を記入する。（拡張子を含む）	半角英数大文字	12	□	◎
		施工計画書オリジナルファイル名	施工計画書ファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		施工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン	施工計画書オリジナルファイルの作成ソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容を記入する。もしくは施工計画書オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔に記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	その他	請負者説明文	請負人側で施工計画書に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		発注者説明文	発注者側で施工計画書に関して特記すべき事項がある場合（発注者から指示を受けた場合）は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		予備	電子化が困難等の理由により受発注者で協議した結果、紙で納品する資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトメーカ用 TAG			ソフトウェアメーカが管理のために使用する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字２文字で全角文字１文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

【記入者】□：電子成果品作成者が記入する項目。
▲：電子成果品作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。
【必要度】◎：必須記入。
○：条件付き必須記入。（データが分かる場合及び発注者からの指示があった場合に入力）
△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

※複数ある場合にはこの項を必要な回数繰り返す。

【解説】

- 施工計画書管理項目は、成果品の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- 施工計画書管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- 付属資料１に管理ファイルの DTD、付属資料２に管理ファイルの XML 記入例を示す。
- 文書中に組み込む図、表、写真のオリジナルファイルは、電子媒体への格納は不要である。実体ファイルの形式は一般的なものが望ましく、一般的では無い場合には監督員と協議するものとする。

4-4 実施仕様書管理項目

電子成果品（完成図書フォルダ）に格納する実施仕様書管理ファイル（ＢＳ．ＸＭＬ）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

実施仕様書管理項目

分類	項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
実施仕様書情報※1)	実施仕様書名称		実施仕様書の標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	オリジナルファイル情報※2)	実施仕様書オリジナル名 ファイル名	実施仕様書のオリジナルファイル名を記入する。(拡張子を含む)	半角英数 大文字	12	▲	◎
		実施仕様書オリジナルファイル日本語名	実施仕様書ファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		実施仕様書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報	実施仕様書オリジナルファイルを作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは実施仕様書オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔に記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	○
		施設コード※3)	施設コードを記入は任意扱いとするため、施設コードが発生しない場合は「Z」を記入する。施設コードを記入する場合は、「電子納品要領(案)機械設備工事編　施設機器コード」の付属資料3による。	半角英数字	17	□	◎
	その他	請負者説明文	請負人側で実施仕様書に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		発注者説明文	発注者側で実施仕様書に関して特記すべき事項がある場合(発注者から指示を受けた場合)は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		予備	電子化が困難等の理由により受発注者で協議した結果、紙で納品する資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトメーカ用 TAG			ソフトウェアメーカが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

※1)　実施仕様書情報以下は、実施仕様書情報の数分を複数繰り返し登録する。

※2)　ファイル情報は、ファイル情報の数分を複数繰り返し登録する。

※3)　施設コードは、施設コードの数分を複数繰り返し登録する。

【記入者】□：電子媒体作成者が記入する項目。

▲：電子媒体作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合及び発注者からの指示があった場合に入力）

△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

【解説】

- 実施仕様書管理項目は、成果品の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- 実施仕様書管理項目のデータ表現の定義は、「8-2　使用文字」に従うものとする。
- 付属資料 4 に管理ファイルの DTD、付属資料 5 に管理ファイルの XML 記入

例を示す。

4-5 計算書管理項目

電子成果品（完成図書）に格納する計算書管理ファイル（ＢＣ．ＸＭＬ）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

計算書管理項目

分類	項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
計算書情報 ※1)	計算書名称		計算書・検討書・数量表ファイルの標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	オリジナルファイル情報 ※2)	計算書オリジナルファイル名	計算書・検討書・数量表のオリジナルファイル名を記入する。(拡張子を含む)	半角英数	12	□	◎
		計算書オリジナルファイル日本語名	計算書・検討書・数量表のファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		計算書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報	計算書・検討書・数量表を作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは計算書オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔に記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	○
		施設コード※3)	施設コードを記入は任意扱いとするため、施設コードが発生しない場合は「Z」を記入する。施設コードを記入する場合は、「電子納品要領(案)機械設備工事編　施設機器コード」の付属資料3による。	半角英数字	17	□	◎
	その他	請負者説明文	請負人側で計算書に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		発注者説明文	発注者側で計算書に関して特記すべき事項がある場合(発注者から指示を受けた場合)は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		予備	電子化が困難等の理由により受発注者で協議した結果、紙で納品する資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトメーカ用 TAG			ソフトウェアメーカが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

※1)　計算書情報以下は、計算書情報の数分を複数繰り返し登録する。

※2)　ファイル情報は、ファイル情報の数分を複数繰り返し登録する。

※3)　施設コードは、施設コードの数分を複数繰り返し登録する。

【記入者】□：電子媒体作成者が記入する項目。

▲：電子媒体作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】◎：必須記入。

○:条件付き必須記入。(データが分かる場合及び発注者からの指示があった場合に入力)

△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

【解説】

- 計算書管理項目は、成果品の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- 計算書管理項目のデータ表現の定義は、「8-2　使用文字」に従うものとする。
- 付属資料 4 に管理ファイルの DTD、付属資料 5 に管理ファイルの XML 記入例を示す。

4-6 施工図面管理項目

電子成果品（完成図書フォルダ）に格納する施工図面管理ファイル（ＢＩ．ＸＭＬ）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

施工図面管理項目

分類	項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
施工図面情報 ※1)	施工図名称		施工図の標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	オリジナルファイル情報 ※2)	施工図オリジナルファイル名	施工図のオリジナルファイル名を記入する。(拡張子を含む)	半角英数 大文字	12	▲	◎
		施工図オリジナルファイル日本語名	施工図ファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		施工図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報	施工図オリジナルファイルを作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは施工図オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔に記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		施設コード※3)	施設コードに記入は任意扱いとするため、施設コードが発生しない場合は[Z]を記入する。 施設コードを記入する場合は、「電子納品要領(案)機械設備工事編　施設機器コード」の付属資料3による。	半角英数字	17	□	◎
	その他	請負者説明文	請負人側で施工図に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		発注者説明文	発注者側で施工図に関して特記すべき事項がある場合（発注者から指示を受けた場合）は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		予備	電子化が困難等の理由により受発注者で協議した結果、紙で納品する資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトメーカ用 TAG			ソフトウェアメーカが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字２文字で全角文字１文字に相当する。

※1)　施工図面情報以下は、施工図面情報の数分を複数繰り返し登録する。

※2)　ファイル情報は、ファイル情報の数分を複数繰り返し登録する。

※3)　施設コードは、施設コードの数分を複数繰り返し登録する。

【記入者】□：電子媒体作成者が記入する項目。

▲：電子媒体作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】◎：必須記入。

○:条件付き必須記入。（データが分かる場合及び発注者からの指示があった場合に入力）

△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する

【解説】

- 施工図管理項目は、電子成果品の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- 施工図管理項目のデータ表現の定義は「8-2　使用文字」に従う。
- 付属資料１に管理ファイルの DTD、付属資料２に管理ファイルの XML 記入例を示す。

4-7 機器図管理項目

電子成果品（完成図書）に格納する機器図管理ファイル（ＢＤ．ＸＭＬ）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

機器図管理項目

分類	項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
機器図情報 ※1)	機器図名称		機器図の標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	オリジナルファイル情報 ※2)	機器図オリジナルファイル名	機器図のオリジナルファイル名を記入する。（拡張子を含む）	半角英数 大文字	12	▲	◎
		機器図オリジナルファイル日本語名	機器図ファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		機器図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報	機器図オリジナルファイルを作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは機器図オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔に記入する	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		施設コード※3)	施設コードに記入は任意扱いとするため、施設コードが発生しない場合は[Z]を記入する。 施設コードを記入する場合は、「電子納品要領(案)機械設備工事編　施設機器コード」の付属資料3による。	半角英数字	17	□	◎
		機器コード※3)	機器コードに記入は任意扱いとするため、機器コードが発生しない場合は[ZZ]を記入する。 機器コードを記入する場合は、「電子納品要領(案)機械設備工事編　施設機器コード」の付属資料3による。	半角英数字	14	□	◎
	その他	請負者説明文	請負人側で施工図に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		発注者説明文	発注者側で施工図に関して特記すべき事項がある場合（発注者から指示を受けた場合）は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		予備	電子化が困難等の理由により受発注者で協議した結果、紙で納品する資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトメーカ用 TAG			ソフトウェアメーカが管理のために使用する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。

※1) 機器図情報以下は、機器図情報の数分を複数繰り返し登録する。

※2) ファイル情報は、ファイル情報の数分を複数繰り返し登録する。

※3) 施設コード及び機器コードは、施設コード及び機器コードの数分を複数繰り返し登録する。

【記入者】□：電子媒体作成者が記入する項目。

▲：電子媒体作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合及び発注者からの指示があった場合に入力）

△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

【解説】

- 機器図管理項目は、成果品の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- 機器図管理項目のデータ表現の定義は、「8-2　使用文字」に従うものとする。
- 付属資料１に管理ファイルの DTD、付属資料２に管理ファイルの XML 記入例を示す。

4-8 施工管理記録書管理項目

電子成果品（完成図書）に格納する施工管理記録書管理ファイル（ＢＥ．ＸＭＬ）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

施工管理記録書管理項目

分類	項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
施工管理記録書情報 ※1)	施工管理記録書名称		品質管理(試験成績書等)、出来形管理、工程管理の表題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	オリジナルファイル情報 ※2)	施工管理記録書オリジナルファイル名	施工管理記録書のオリジナルファイル名を記入する。(拡張子を含む)	半角英数 大文字	12	▲	◎
		施工管理記録書オリジナルファイル日本語名	施工管理記録書ファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		施工管理記録書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報	施工管理記録書オリジナルファイルを作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは機器図オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔に記入する	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		施設コード※3)	施設コードに記入は任意扱いとするため、施設コードが発生しない場合は[Z]を記入する。 施設コードを記入する場合は、「電子納品要領(案)機械設備工事編　施設機器コード」の付属資料3による。	半角英数字	17	□	◎
		機器コード※3)	機器コードに記入は任意扱いとするため、機器コードが発生しない場合は[ZZ]を記入する。 機器コードを記入する場合は、「電子納品要領(案)機械設備工事編　施設機器コード」の付属資料3による。	半角英数字	14	□	◎
	その他	請負者説明文	請負人側で施工図に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		発注者説明文	発注者側で施工図に関して特記すべき事項がある場合(発注者から指示を受けた場合)は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		予備	電子化が困難等の理由により受発注者で協議した結果、紙で納品する資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトメーカ用 TAG			ソフトウェアメーカが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。

※1）施工管理記録書情報以下は、施工管理記録書情報の数分を複数繰り返し登録する。

※2）ファイル情報は、ファイル情報の数分を複数繰り返し登録する。

※3）施設コード及び機器コードは、施設コード及び機器コードの数分を複数繰り返し登録する。

【記入者】□：電子媒体作成者が記入する項目。

▲：電子媒体作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合及び発注者からの指示があった場合に入力）

△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

【解説】

- 施工管理記録書管理項目は、成果品の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- 施工管理記録書管理項目のデータ表現の定義は、「8-2　使用文字」に従うものとする。
- 付属資料１に管理ファイルの DTD、付属資料２に管理ファイルの XML 記入例を示す。

4-9 取扱説明書管理項目

電子成果品（完成図書フォルダ）に格納する取扱説明書管理ファイル（ＢＭ．ＸＭＬ）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

取扱説明書管理項目

分類	項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
取扱説明書情報 ※1)	取扱説明書名称		取扱説明書、サービス体制ファイルの標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	オリジナルファイル情報 ※2)	取扱説明書オリジナルファイル名	取扱説明書のオリジナルファイル名を記入する。(拡張子を含む)	半角英数 大文字	12	▲	◎
		取扱説明書オリジナルファイル日本語名	取扱説明書ファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		取扱説明書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報	取扱説明書オリジナルファイルを作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは機器図オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔に記入する	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		施設コード※3)	施設コードに記入は任意扱いとするため、施設コードが発生しない場合は[Z]を記入する。 施設コードを記入する場合は、「電子納品要領(案)機械設備工事編　施設機器コード」の付属資料3による。	半角英数字	17	□	◎
		機器コード※3)	機器コードに記入は任意扱いとするため、機器コードが発生しない場合は[ZZ]を記入する。 機器コードを記入する場合は、「電子納品要領(案)機械設備工事編　施設機器コード」の付属資料3による。	半角英数字	14	□	◎
	その他	請負者説明文	請負人側で施工図に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		発注者説明文	発注者側で施工図に関して特記すべき事項がある場合（発注者から指示を受けた場合）は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		予備	電子化が困難等の理由により受発注者で協議した結果、紙で納品する資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトメーカ用 TAG			ソフトウェアメーカが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。

※1)　取扱説明書情報以下は、取扱説明書情報の数分を複数繰り返し登録する。

※2)　ファイル情報は、ファイル情報の数分を複数繰り返し登録す

※3)　施設コード及び機器コードは、施設コード及び機器コードの数分を複数繰り返し登録する。

【記入者】□：電子媒体作成者が記入する項目。

▲：電子媒体作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合及び発注者からの指示があった場合に入力）

△　：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

【解説】

- 取扱説明書管理項目は、成果品の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- 取扱説明書管理項目のデータ表現の定義は、「8-2　使用文字」に従うものとする。
- 付属資料１に管理ファイルの DTD、付属資料２に管理ファイルの XML 記入例を示す。

4-10 その他管理項目

電子成果品に格納するその他管理情報ファイル（ＯＴＨＲＳ．ＸＭＬ）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

その他資料管理項目

分類	項目名			記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
サブフォルダ情報 ※	その他サブフォルダ名			作成したその他サブフォルダ名（ORG001～nnn）を記入する。	半角英数大文字	6	▲	◎
	その他サブフォルダ日本語名			格納している資料の内容がわかるようにフォルダの日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	○
	その他資料情報 ※	その他資料名称		その他サブフォルダ名に格納している資料名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		オリジナルファイル情報	シリアル番号	シリアル番号は1より開始する。提出時の電子媒体を通して、一連のまとまった資料についてユニーク（重複）であれば中抜けしても良い。2番の目を“00002”の様に 0 を付けて表現してはいけない。	半角数字	15	□	◎
			オリジナルファイル名	その他資料のオリジナルファイル名を記入する。（拡張子を含む）	全角文字 半角英数字	12	▲	○
			オリジナルファイル日本語名	オリジナルファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
			オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報	オリジナルファイルを作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
			オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは機器図オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔に記入する	全角文字 半角英数字	127	□	◎
			予備	電子化が困難等の理由により受発注者で協議した結果、紙で納品する資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	□	△
		その他	請負者説明文	請負人側で施工図に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
			発注者説明文	発注者側で施工図に関して特記すべき事項がある場合（発注者から指示を受けた場合）は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトメーカ用 TAG				ソフトウェアメーカが管理のために使用する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	64	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。

【記入者】□：電子媒体作成者が記入する項目。

▲：電子媒体作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合及び発注者からの指示があった場合に入力）

△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

【解説】

- その他資料管理項目は、成果品の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- その他資料管理項目のデータ表現の定義は、「8-2　使用文字」に従うものとする。
- 付属資料１に管理ファイルの DTD、付属資料２に管理ファイルの XML 記入例を示す。
- その他管理ファイルにおいてＯＲＧサブフォルダ内のファイルを管理する場合は、ＯＲＧサブフォルダの直下にオリジナルファイルを格納する。ＯＲＧサブフォルダ内にフォルダを作成することは可能であるが、その際、その他管理ファイルでは、作成したフォルダおよびフォルダ内に格納されているファイルの管理は行わない（ＯＲＧサブフォルダレベルでの管理とする）。

5 ファイル形式

電子成果品のファイル形式は、以下のとおりとする。

- 工事管理ファイル、打合せ簿管理ファイル、施工計画書管理ファイル、その他管理ファイルのファイル形式は XML 形式(XML1.0 に準拠)とする。
- 図面管理ファイルは「CAD 製図基準(案)機械設備工事編」、写真管理ファイルは「デジタル写真管理情報基準(案)土木編・電気通信設備編・機械設備工事編」に準じる。
- 打合せ簿オリジナルファイルを作成するソフト及びファイル形式は、監督員と協議の上決定する。
- 施工計画書オリジナルファイルを作成するソフト及びファイル形式は、監督員と協議の上決定する。
- 施工図面・完成図フォルダに格納する図面ファイルのファイル形式は「CAD 製図基準(案)機械設備工事編」に従うものとする。
- 完成図書フォルダの各サブフォルダに格納するファイルのファイル形式はＰＤＦＦ形式とする。
- 台帳フォルダに格納するファイル形式はＸＭＬ形式とする。
- 写真ファイルのファイル形式は「デジタル写真管理情報基準（案）土木編・電気通信設備編・機械設備工事編」に準ずる。
- 工事履行報告書・段階確認書及びその他ファイルを作成するソフト及びファイル形式については、監督員と協議の上決定する。
- 各管理ファイルのスタイルシートの作成は任意とするが、作成する場合はＸＳＬに準ずる。

【解説】

- 本要領「3 フォルダ構成」に示したように、工事管理ファイルおよび各種管理情報ファイルのファイル形式は XML 形式とする。
- 打合せ簿、施工計画書オリジナルファイルとして登録されるポンチ絵等については、必ずしも「CAD 製図基準（案）機械設備工事編」に従う必要はない。
- 施工図面・完成図フォルダに格納する電子データのファイル形式の詳細は、付属資料３に従う。
- 各管理ファイルの閲覧性を高めるため、スタイルシートを用いてもよいが、ＸＳＬに準じて作成する。スタイルシートを作成した場合は、各管理ファイルと同じ場所に格納する。
- 拡張子が 4 文字、ファイル間でリンクや階層を持った資料など、本要領に寄りがたい場合は、ファイルを圧縮して電子媒体に格納する。圧縮ファイル形式は発注者、受注者で協議し決定する。

※XML　eXtensible Markup Language（拡張型構造化記述言語）

SGML の持つ拡張機能に Web で利用できるようにした記述言語(メタ言語)であり、1998 年 2 月に W3C(WWW コンソーシアム)おいて策定された。ユーザが任意でデータ(タグ)の要素・属性や論理構造を定義できる。

6 ファイルの命名規則

- ファイル名･拡張子は、半角英数大文字とする。
- ファイル名８文字以内、拡張子３文字以内とする。
- 工事管理ファイルは「ＩＮＤＥＸ＿ＭＣ．ＸＭＬ」とし、工事管理ファイルのＤＴＤは［ＩＮＤ＿ＭＣ０２．ＤＴＤ］(02 は版番号）とする。
- 打合せ簿管理ファイルは「ＭＥＥＴ．ＸＭＬ」とし、「ＭＥＥＴ０２．ＤＴＤ」(02 は版番号）とする。
- 施工計画書管理ファイルは「ＰＬＡＮ．ＸＭＬ」とし「ＰＬＡＮ０２．ＤＴＤ」(02 は版番号）とする。
- 完成図書のフォルダのサブフォルダに格納する管理ファイルは次のとおり。

  ※Ｂ実施仕様書管理ファイルは「ＢＳ．ＸＭＬ」とし、ＤＴＤは「ＳＰＣ０２．ＤＴＤ」02 は版番号）とする。

  ※Ｂ計算管理ファイルは「ＢＣ．ＸＭＬ」とし、ＤＴＤは「ＣＨＥＣＫ０２．ＤＴＤ」02 は版番号）とする。

  ※Ｂ施工管理ファイルは「ＢＩ．ＸＭＬ」とし、ＤＴＤは「ＩＮＳＴ０２．ＤＴＤ」02 は版番号）とする。

  ※Ｂ機器図管理ファイルは「ＢＤ．ＸＭＬ」とし、ＤＴＤは「ＤＥＶＩＣＥ０２．ＤＴＤ」02 は版番号）とする。

  ※Ｂ施工管理記録書ファイルは「ＢＥ．ＸＭＬ」とし、ＤＴＤは「ＥＸＡＭ０２．ＤＴＤ」02 は版番号）とする。

  ※Ｂ取扱説明書ファイルは「ＢＭ．ＸＭＬ」とし、ＤＴＤは「ＭＡＮＵＡＬ０２．ＤＴＤ」02 は版番号）とする。

- その他管理ファイルは「ＯＴＨＲＳ．ＸＭＬ」とし、ＤＴＤは「ＯＴＨＲＳ０２．ＤＴＤ」02 は版番号）とする。
- 各管理ファイルのスタイルシートのファイル名は「ＩＮＤ＿ＭＣ０２．ＸＳＬ」、「ＭＥＥＴ０２．ＸＳＬ」、「ＰＬＡＮ０２．ＸＳＬ」、「ＳＰＣ０２．ＸＳＬ」、「ＣＨＥＣＫ０２．ＸＳＬ」、「ＩＮＳＴ０２．ＸＳＬ」、「ＤＥＶＩＣＥ０２．ＸＳＬ」、「ＥＸＡＭ０２．ＸＳＬ」、「ＭＡＮＵＡＬ０２．ＸＳＬ」、「ＬＤＲ０２．ＸＳＬ」、「ＯＴＨＲＳ０２．ＸＳＬ」とする。

・特記仕様書オリジナルファイルの命名規則は次図の通り。

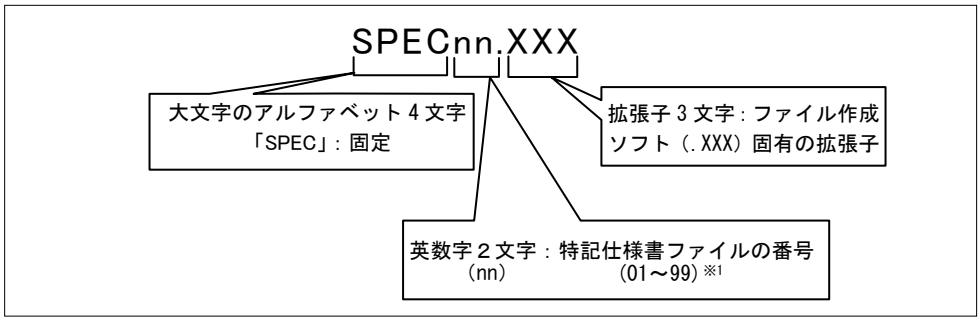


図 6-1　特記仕様書ファイルの命名規則

・打合せ簿オリジナルの命名規則は次図の通り。

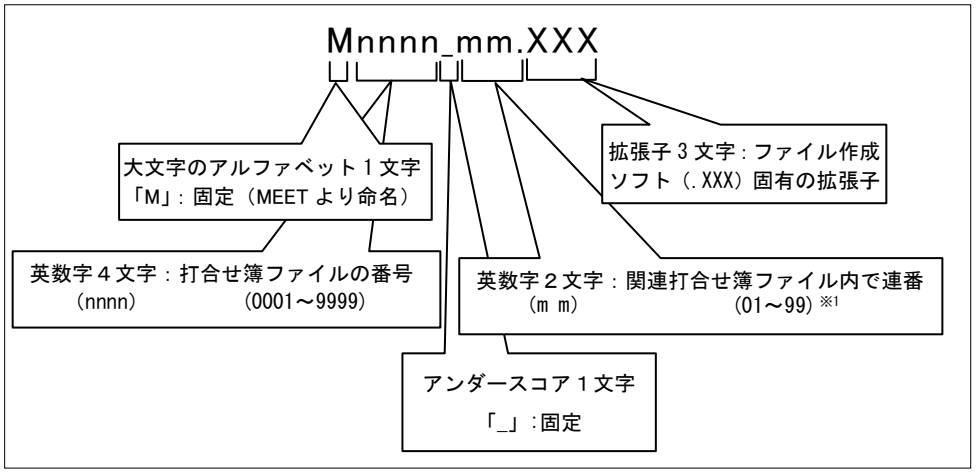


図 6-2　打合せ簿ファイルの命名規則

・施工計画書オリジナルファイルの命名規則は次図の通り。

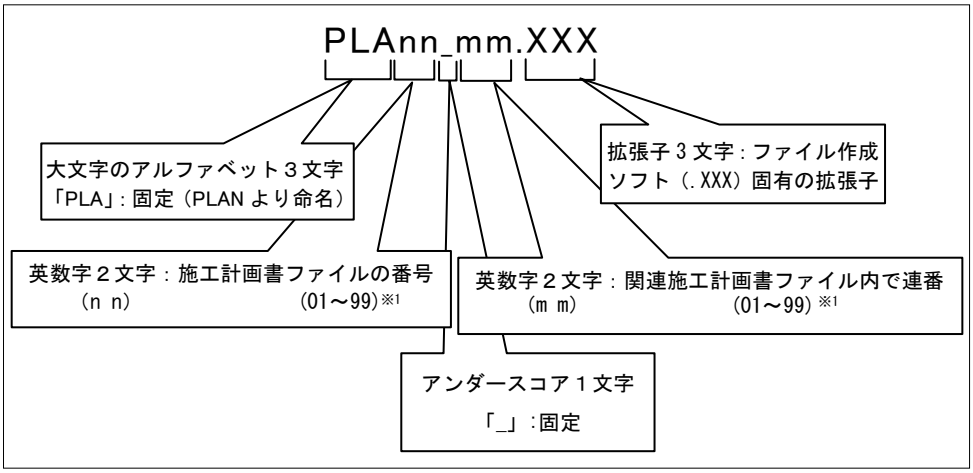


図 6-3　施工計画書ファイルの命名規則

・完成図書／B 実施仕様書ファイル

完成図書／B 実施仕様書フォルダに入れる B 実施仕様書ファイルについては、以下の命名規則に従うものとする。

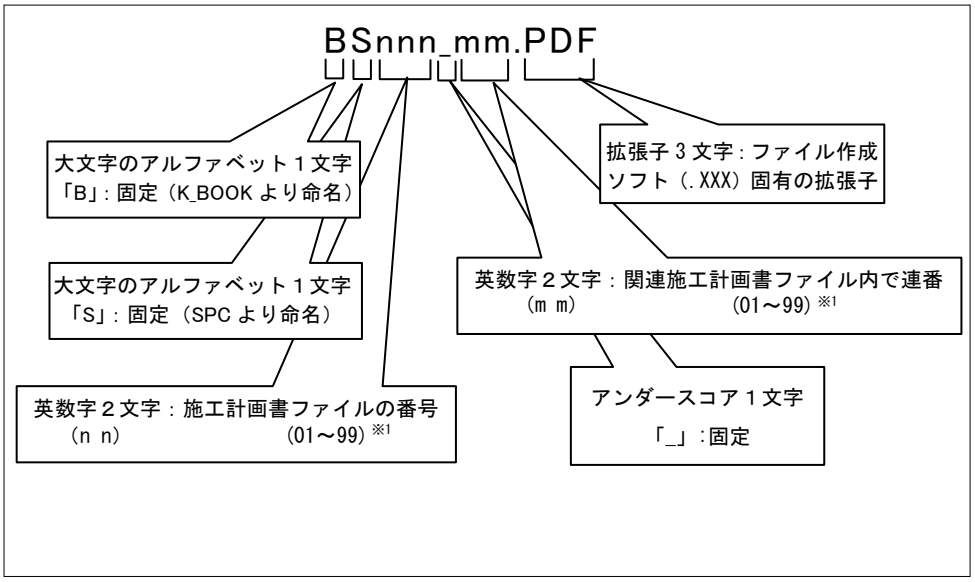


図 6-4　B 実施仕様書ファイルの命名規則

・施工計画書／施工計画書ファイル

施工計画書／施工計画書ファイルフォルダに入れる施工計画書ファイルについては、以下の命名規則に従うものとする。

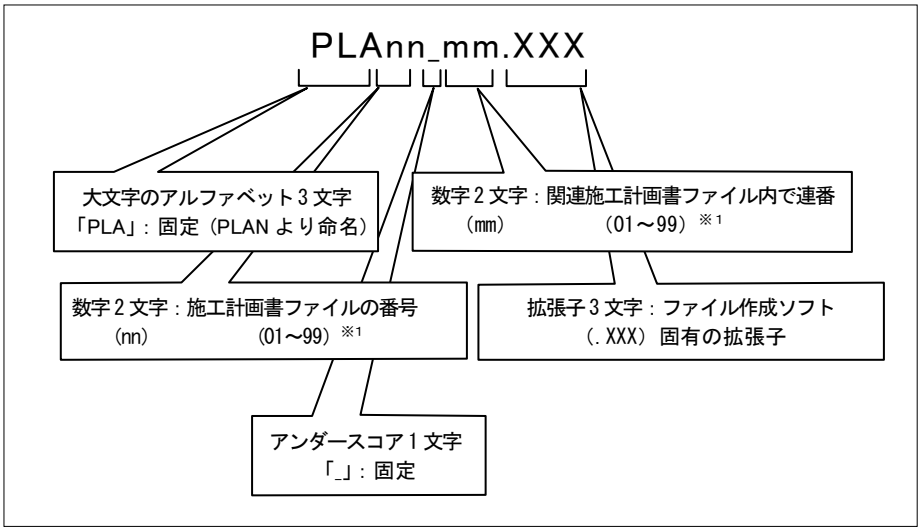


図 6-19　施工計画書ファイルの命名規則

・完成図書／B 実施仕様書ファイル

完成図書／B 実施仕様書フォルダに入れる B 実施仕様書ファイルについては、以下の命名規則に従うものとする。

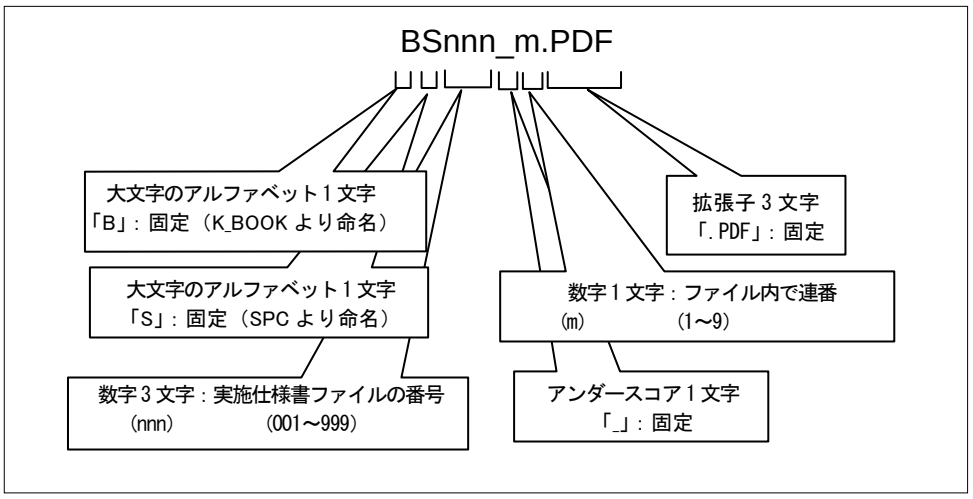


図 6-20　B 実施仕様書ファイルの命名規則

・完成図書／B 計算書・検討書・数量表ファイル

完成図書／B 計算書フォルダに入れる B 計算書・検討書・数量表ファイルについては、以下の命名規則に従うものとする。

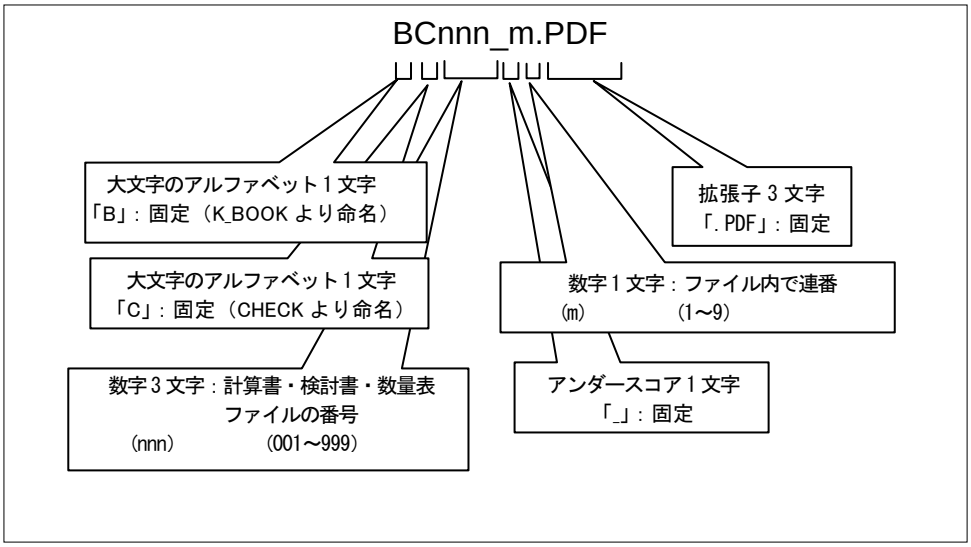


図 6-5　B 計算書・検討書・数量表ファイルの命名規則

・完成図書／B 施工図ファイル

完成図書／B 施工図フォルダに入れる B 施工図ファイルについては、以下の命名規則に従うものとする。

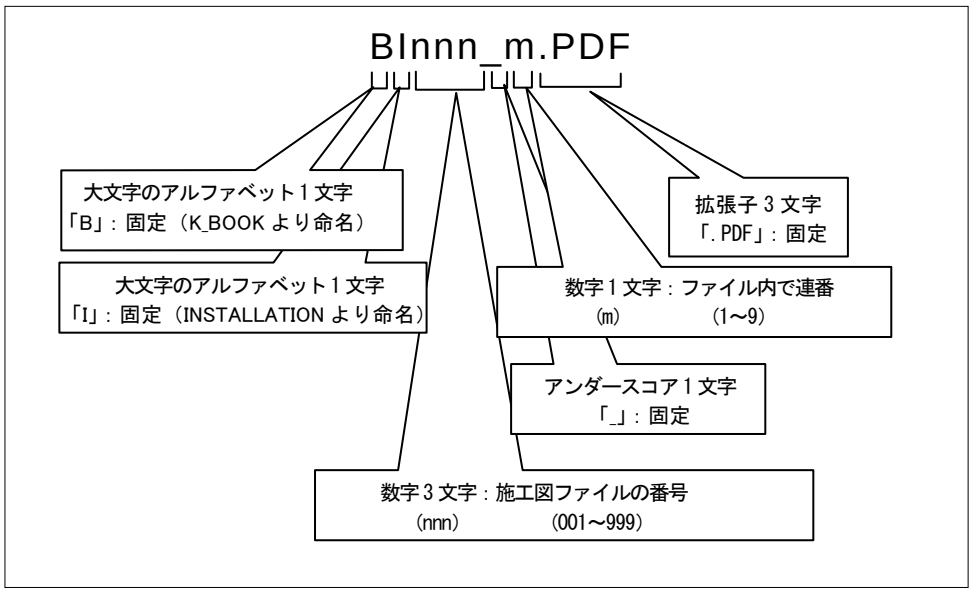


図 6-6　B 施工図ファイルの命名規則

・完成図書／B 機器図ファイル

完成図書／B 機器図フォルダに入れる B 機器図ファイルについては、以下の命名規則に従うものとする。

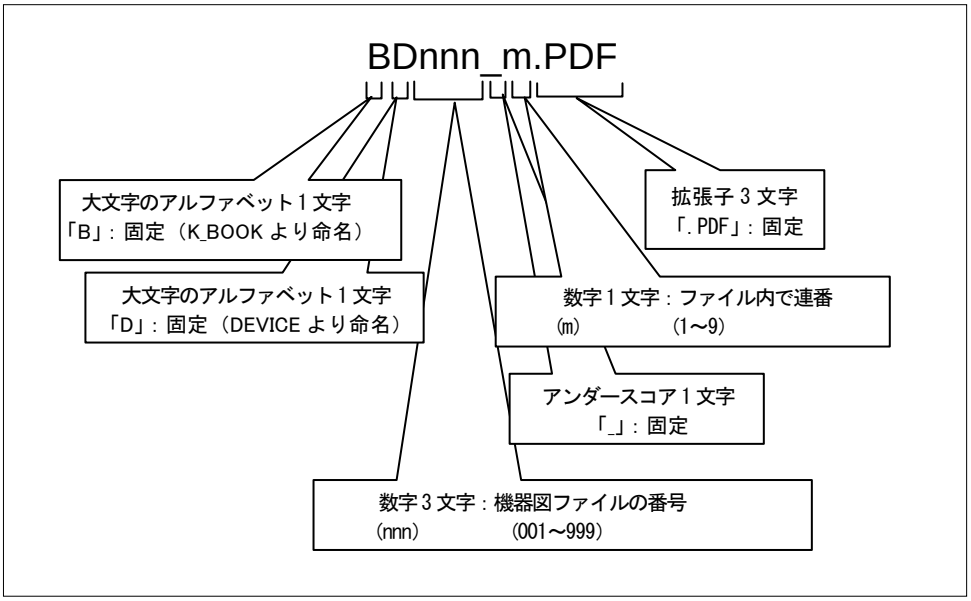


図 6-7　B 機器図ファイルの命名規則

・完成図書／B 施工管理記録書ファイル

完成図書／B 施工管理記録書フォルダに入れる B 施工管理記録書（工程管理・出来形・工場試験・現地試験）ファイルについては、以下の命名規則に従うものとする。

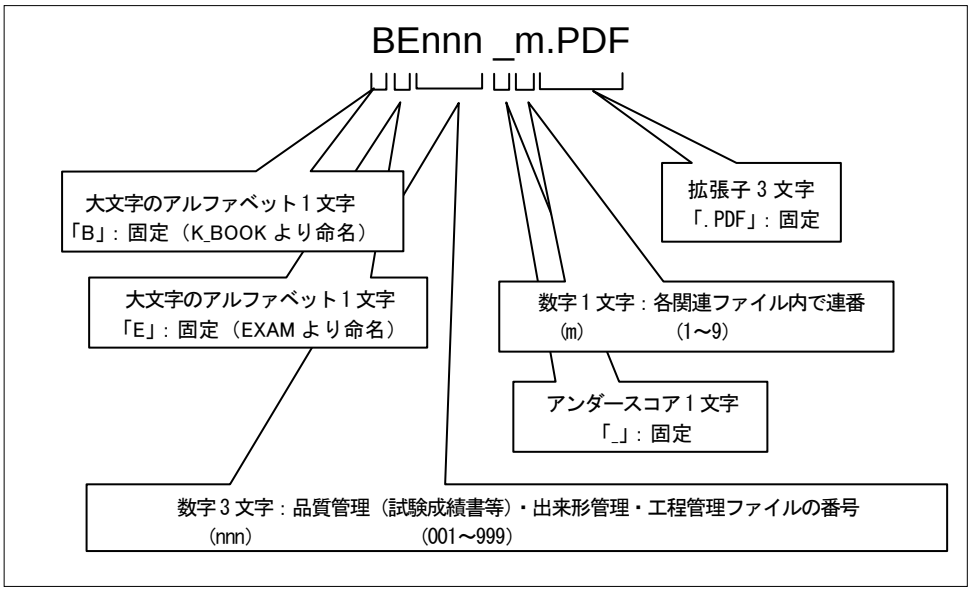


図 6-8　B 施工管理記録ファイルの命名規則

・完成図書／B 取扱説明書ファイル

完成図書／B 取扱説明書フォルダに入れる B 取扱説明書（全体設備取扱説明書、機器取扱説明書、サービス体制等）ファイルについては、以下の命名規則に従うものとする。

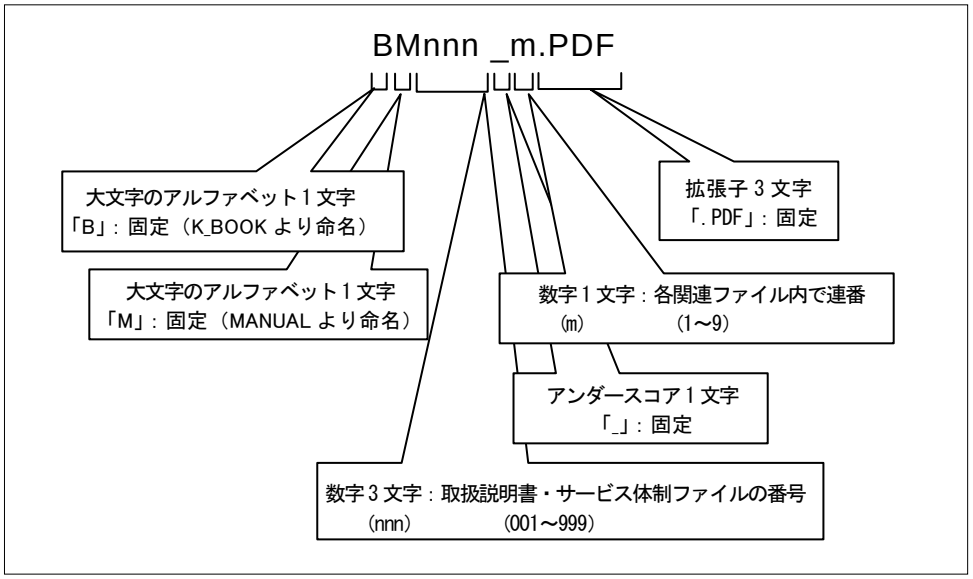


図 6-9　B 取扱説明書ファイルの命名規則

【解説】

(1)　共通規則

・ファイル名の文字数は、半角(1 バイト文字)で 8 文字以内、拡張子 3 文字以内とする。ファイル名に使用する文字は、半角（1 バイト文字）で、大文字のアルファベット「A～Z」、数字「0～9」、アンダースコア「_」とする。

・オリジナルファイルの通し番号は、工事の経緯がわかるように日付昇順に付番号することを基本とする。

・「ORGnnn」サブフォルダに格納するファイル名は、上記の規則に準じ、監督員と協議する。

(2)　オリジナルファイル

1 つの文書に対し、オリジナルファイルが複数存在する場合がある。この場合、ファイル名から内容が想定できるように、ファイル名の付け方を規定し、01 からの連番により、ファイルを区別することを基本とするが、欠番があっても構わない。

例）ワープロソフトファイル：M0001_01.XXX
ワープロソフトファイル：M0001_02.XXX
表計算ソフトファイル　：M0001_03.XXX

(3) 連番の扱い （※1 について）

連番が 100 を超える場合は、以下のようにアルファベットを用いる。

例）100～109 の場合…A0～A9　　110～119 の場合…B0～B9

120～129 の場合…C0～C9

7 電子媒体

7-1 電子媒体

電子媒体へ格納された情報は、次の条件を満たさなければならない。

1　情報の真正性が確保されていること。
2　情報の見読性が確保されていること。
3　情報の保存性が確保されていること。

【解説】

- 電子成果品が第三者により書き換えられないようにするため、電子媒体に格納する成果品には、真正性、見読性及び保存性を確保する必要がある。
- 真正性の確保とは、正当な人が格納した情報（文書、図面等）に対して第三者の確認により作成の責任と所在が明確であるとともに、故意または過失による虚偽記入、書き換え、消去等が防止されていることである。
- 見読性の確保とは、電子媒体に格納されている情報（文書、図面等）を必要・目的に応じてパソコン等電子機器を用いて速やかに確認可能な状態を確保することである。
- 保存性の確保とは、電子媒体に格納された情報（文書、図面等）が、規程で定められた期間において真正性と見読性を満足した状態で保存することである。
- 上記の３条件を満たす媒体として、CD-R（一度しか書き込みができないもの）の使用を原則とする。
- CD-R の論理フォーマットは、ISO9660（レベル１）を原則とする。
- 基本的には、１枚の CD-R に情報を格納する。
- 複数枚の CD-R になる場合は、「7-3 媒体が複数に渡る場合の処置」に従う。
- 当面、電子媒体は、CD-R を原則とする。しかし、成果品容量が膨大になる場合は、発注者、受注者の協議により格納する電子媒体（一度しか書き込みができない電子媒体）を別途決定することができる。

● 7-2 電子媒体の表記規則

- 電子媒体には、「工事番号」、「工事名称」、「作成年月」、「発注者名」、「請負人名」、「何枚目／全体枚数」、「ウイルスチェックに関する情報」、「フォーマット形式」を明記する。
- 電子媒体を収納するケースの背表紙には、「工事名称」、「作成年月」を横書きで明記する。

【解説】

- CD-R には、必要項目を表面に直接印刷、ラベル印刷したもの（シール）を貼付、または油性フェルトペンで表記し、表面に損傷を与えないように注意する。
- シールのよって温湿度の変化で伸縮し、CD-R に損傷を与えることがあるので伸縮性の低いシールを選択するよう注意する。

図 7-1　CD-R への表記例

- 「ウイルスチェックに関する情報」は、使用した「ウイルス対策ソフト名」「ウイルス定義年月日」もしくは「パターンウイルス名」、「チェック年月日」を明記する。ウイルス対策の詳細は「8-1 ウイルス対策」に示す。
- プラスチックケースのラベルの背表紙には、以下の例のように記載する。工事名が長く書ききれない場合は頭から書けるところまで記入する。

例：平成〇年度〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇工事　平成〇年〇月

（長い場合）

平成〇年度〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇　平成〇年〇月

7-3 成果品が複数枚に渡る場合の処置

- 電子成果品は、原則 1 枚の電子媒体に格納する。
- データが容量的に 1 枚の電子媒体に納まらず複数枚になる場合は、同一の工事管理ファイル（INDEX_MC.XML）を各電子媒体のルート直下に格納する。ただし、基礎情報の「メディア番号」には該当する番号を記入する。
- 各フォルダにおいても同様に、同一の管理ファイルを各電子媒体に格納する。

【解説】

- 成果品を複数枚の媒体に分けて格納する場合の例を下図に示す。

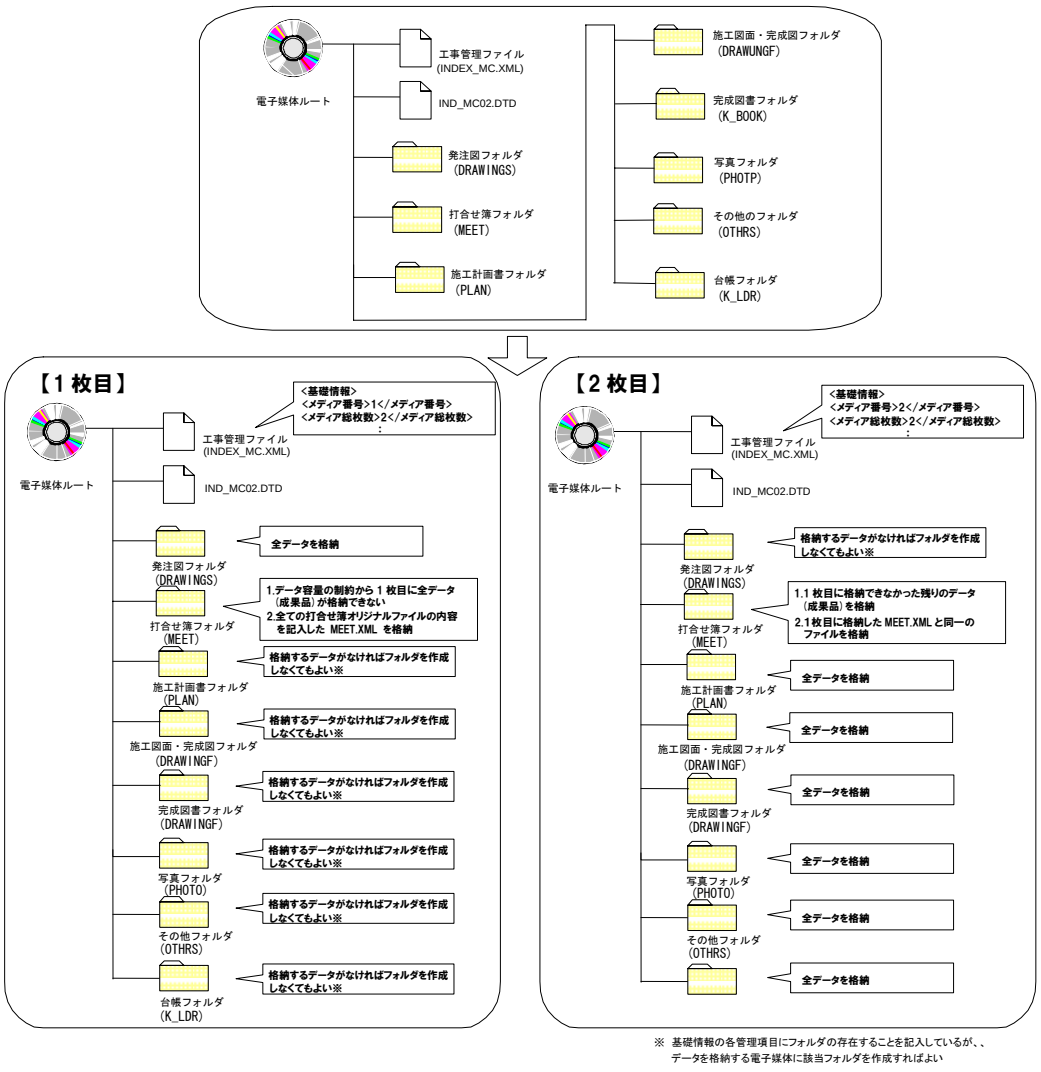


図 7-2　成果品の複数枚の電子媒体への格納例

- 工事管理ファイルの基礎情報の「メディア番号」は、ラベルに明記してある何枚目／総枚数と整合を取る。

8 その他留意事項

8-1 ウイルス対策

- 請負人は、納品すべき成果品が完成した時点で、ウイルスチェックを行う。
- ウイルス対策ソフトは特に指定はしないが、信頼性の高いものを利用する。
- 最新のウイルスも検出できるように、ウイルス対策ソフトは常に最新のデータに更新（アップデート）したものを利用する。
- 電子媒体の表面には、「使用したウイルス対策ソフト名」、「ウイルス（パターンファイル）定義年月日またはパターンファイル名」、「チェック年月日（西暦表示)」を明記する。

8-2 使用文字

- 本規定は、管理ファイル(XML 文書)を対象とする。
- 半角文字を JIS X 0201 で規定されている文字から片仮名用図形文字を除いたラテン文字用図形文字のみとする。
- 全角文字を JIS X0208 で規定されている文字から数字とラテン文字を除いた文字のみとする。

【解説】

(1) 文字の定義

本要領(案)で用いている文字に関わる用語を次のように定義する。

1) 全角文字

JIS X0208 で規定されている文字から数字とラテン文字を除いた文字を全角文字という。

2) 半角英数字

JIS X 0201 で規定されている文字から片仮名用図形文字を除いた文字を半角英数字という。

3) 半角英数大文字

「半角英数字」からラテン小文字(LATIN SMALL LETTER A～Z)を除いた文字を半角英数大文字という。

4) 半角数字

JIS X 0201 で規定されている文字のうちの数字（DIGIT ZERO～NINE）及び小数点（.）を半角数字という。

(2) 留意事項

長期的な見読性を確保するため、使用できる文字を必要最小限に規定している。使用文字の対象は管理ファイルとしているが、オリジナルファイルにおいても可能な限り準じることが望ましい。

もともと OS に備わっておらず、利用者が独自に作成した外字は、他の端末では表示できないので使用を認めない。地名や人名などの表現で特殊文字が必要な時(利用者が作成した外字や機種依存文字の使用が必要な場合等)は、ひらがなもしくは片仮名などの標準化された全角文字で表現する。

8-3 オリジナルファイルの電子化について

- 図表等は、基本的には文書ファイルにリンクまたは貼り付けて管理する。
- 貼り付けられた図表等は、管理ファイルで管理を行わず文書内容で図表等を判断できればよい。
- 貼り付けていない図表等は文書ファイルと分離した形で管理ファイルにおいて管理する。なお、管理ファイルでは、図表等の位置（ページ数、図表番号等）を管理しない。

【解説】

オリジナルファイルに貼り付けられた図表は、管理ファイルによる管理を行わないとともに図表等の位置も管理しない。

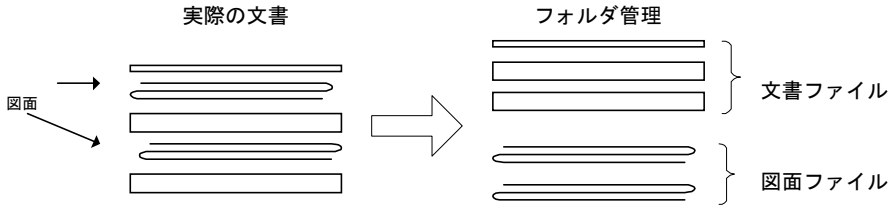


図 8-1　図表等の取り扱いイメージ

8-4 電子化が困難な資料の取り扱い

電子化が難しい書類の取り扱いは、発注者、請負人で協議し決定する。

【解説】

電子化が難しい書類としては、品質証明書、カタログ、見本など、電子化されていない資料（発注時に紙で出された資料）がある。

・付属資料１　管理ファイルのＤＴＤ

１工事管理ファイルの DTD

成果品の電子媒体に格納する工事管理ファイル（INDEX_MC.XML）の DTD（IND_MC02.DTD）を以下に示す。

```
<!--IND_MC02.DTD / 2006/03-->

<!ELEMENT constdata (基礎情報,工事件名等,場所情報?,施設情報,発注者情報,請負者情報,予備*,
ソフトメーカ用 TAG*)>
<!ATTLIST constdata DTD_version CDATA #FIXED "02">

<!-- 基礎情報  -->
<!ELEMENT 基礎情報 (メディア番号,メディア総枚数,適用要領基準、発注図フォルダ名?,特記仕様書
オリジナルファイルフォルダ名?,打合せ簿フォルダ名?,打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名?,
施工計画書フォルダ名?,施工計画書オリジナルファイルフォルダ名?,施工図面完成図フォルダ名?,
完成図書フォルダ名?,B実施仕様書フォルダ名?,B計算書フォルダ名?,B施工図フォルダ名?,B機器図
フォルダ名?,B 施工管理記録書フォルダ名?,B 取扱説明書フォルダ名?,写真フォルダ名?,その他フォ
ルダ名?,その他オリジナルファイルフォルダ情報*台帳フォルダ名?)>
<!ELEMENT メディア番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT メディア総枚数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 適用要領基準 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発注図フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 特記仕様書オリジナルファイルフォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 打合せ簿フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施工計画書フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施工計画書オリジナルファイルフォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施工図面完成図フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 完成図書フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT B 実施仕様書フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT B 計算書フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT B 施工図フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT B 機器図フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT B 施工管理記録書フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT B 取扱説明書フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 写真フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT その他フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT その他オリジナルフォルダ情報（その他オリジナルファイルフォルダ名、その他オリジナ
ルファイルフォルダ日本語名）
<!ELEMENT その他オリジナルファイルフォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT その他オリジナルファイルフォルダ日本語名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 台帳フォルダ名 (#PCDATA)>
```

<!-- 工事件名等 -->
<!ELEMENT 工事件名等 (発注年度,工事番号,工事名称,施工金額,工事実績システムバージョン番号,工事分野,工事業種,工種-工法型式+,住所情報+,工期開始日,工期終了日,工事内容)>
<!ELEMENT 発注年度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 工事番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 工事名称 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施工金額 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 工事実績システムバージョン番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 工事分野 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 工事業種 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 工期開始日 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 工期終了日 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 工事内容 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工種-工法型式 (工種+,工法型式+)>
<!ELEMENT 工種 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 工法型式 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 住所情報 (住所コード+,住所+)>
<!ELEMENT 住所コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 住所 (#PCDATA)>

<!-- 場所情報 -->
<!ELEMENT 場所情報 (測地系?,水系-路線情報*、境界座標情報?)>
<!ELEMENT 測地系 (#PCDATA)>

<!-- 水系-路線情報 -->
<!ELEMENT 水系-路線情報 (対象水系路線名?,現道-旧道区分?,対象河川コード*,左右岸上下線コード*,測点情報*,距離標情報*)
<!ELEMENT 対象水系路線名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 現道-旧道区分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 対象河川コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 左右岸上下線コード (#PCDATA)>

<!- 測点情報 -->
<!ELEMENT 測点情報(起点側測点-n?, 起点側測点-m?, 終点側測点-n?, 終点側測点-m?)>
<!ELEMENT 起点側測点-n (#PCDATA)>
<!ELEMENT 起点側測点-m (#PCDATA)>
<!ELEMENT 終点側測点-n (#PCDATA)>
<!ELEMENT 終点側測点-m (#PCDATA)>

<!- 距離標情報 -->
<!ELEMENT 距離標情報(起点側距離標-n?, 起点側距離標-m?, 終点側距離標-n?, 終点側距離標-m?)>
<!ELEMENT 起点側距離標-n (#PCDATA)>
<!ELEMENT 起点側距離標-m (#PCDATA)>
<!ELEMENT 終点側距離標-n (#PCDATA)>
<!ELEMENT 終点側距離標-m (#PCDATA)>

<!- 境界座標情報 -->
<!ELEMENT　境界座標情報(西側境界座標経度, 東側境界座標経度, 北側境界座標経度, 南側境界座標経度)>
<!ELEMENT 西側境界座標経度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 東側境界座標経度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 北側境界座標緯度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 南側境界座標緯度 (#PCDATA)>

<!-- 施設情報　-->
<!ELEMENT 施設情報 (台帳フォルダ)>
<!ELEMENT 台帳フォルダ (#PCDATA)>

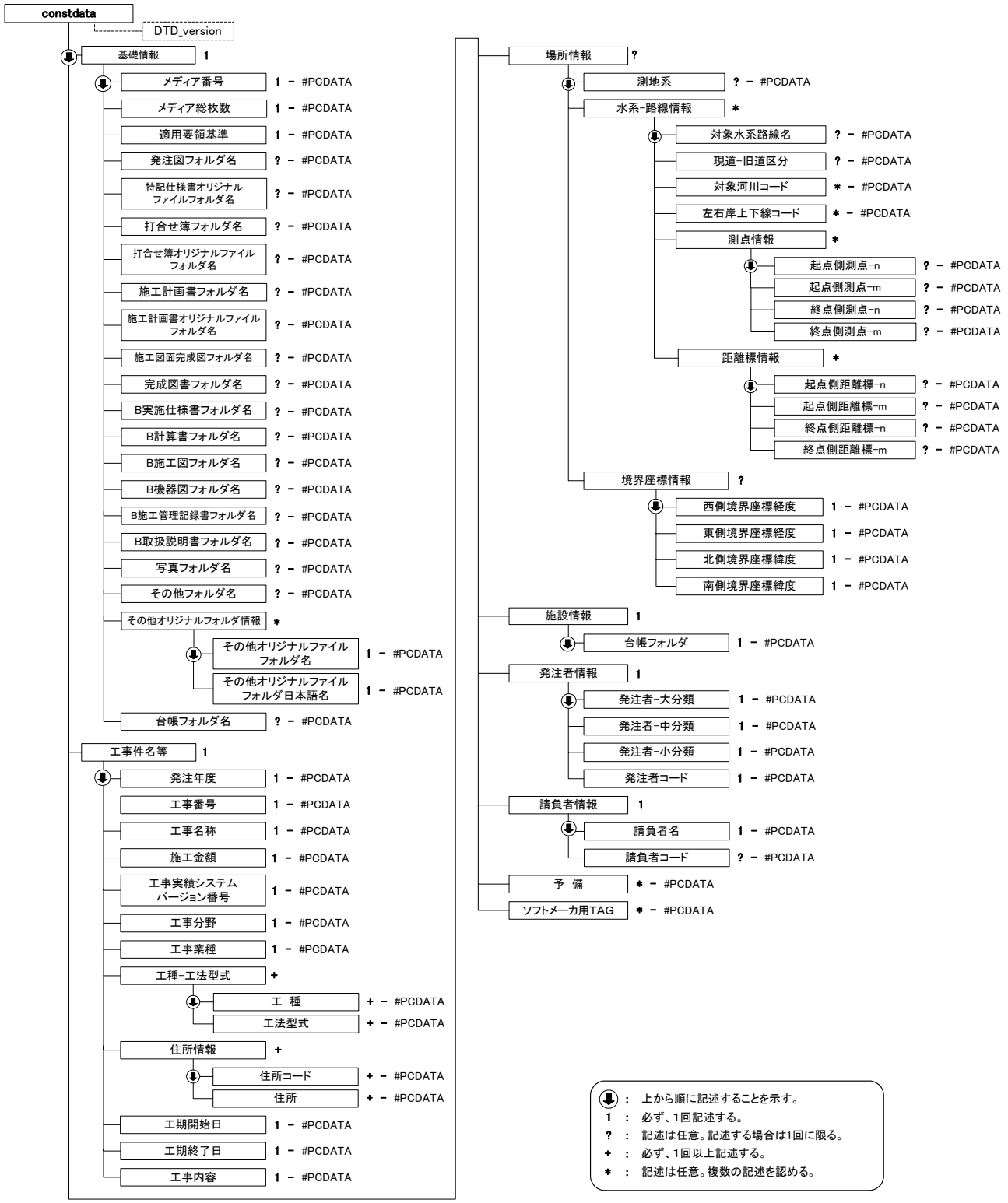
<!-- 発注者情報 -->
<!ELEMENT 発注者情報 (発注者-大分類,発注者-中分類,発注者-小分類,発注者コード)>

<!ELEMENT 発注者-大分類 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発注者-中分類 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発注者-小分類 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発注者コード (#PCDATA)>

<!-- 請負者情報 -->
<!ELEMENT 請負者情報 (請負者名,請負者コード?)>
<!ELEMENT 請負者名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 請負者コード (#PCDATA)>

<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ソフトメーカ用 TAG (#PCDATA)>

IND_MC02.DTDの構造図

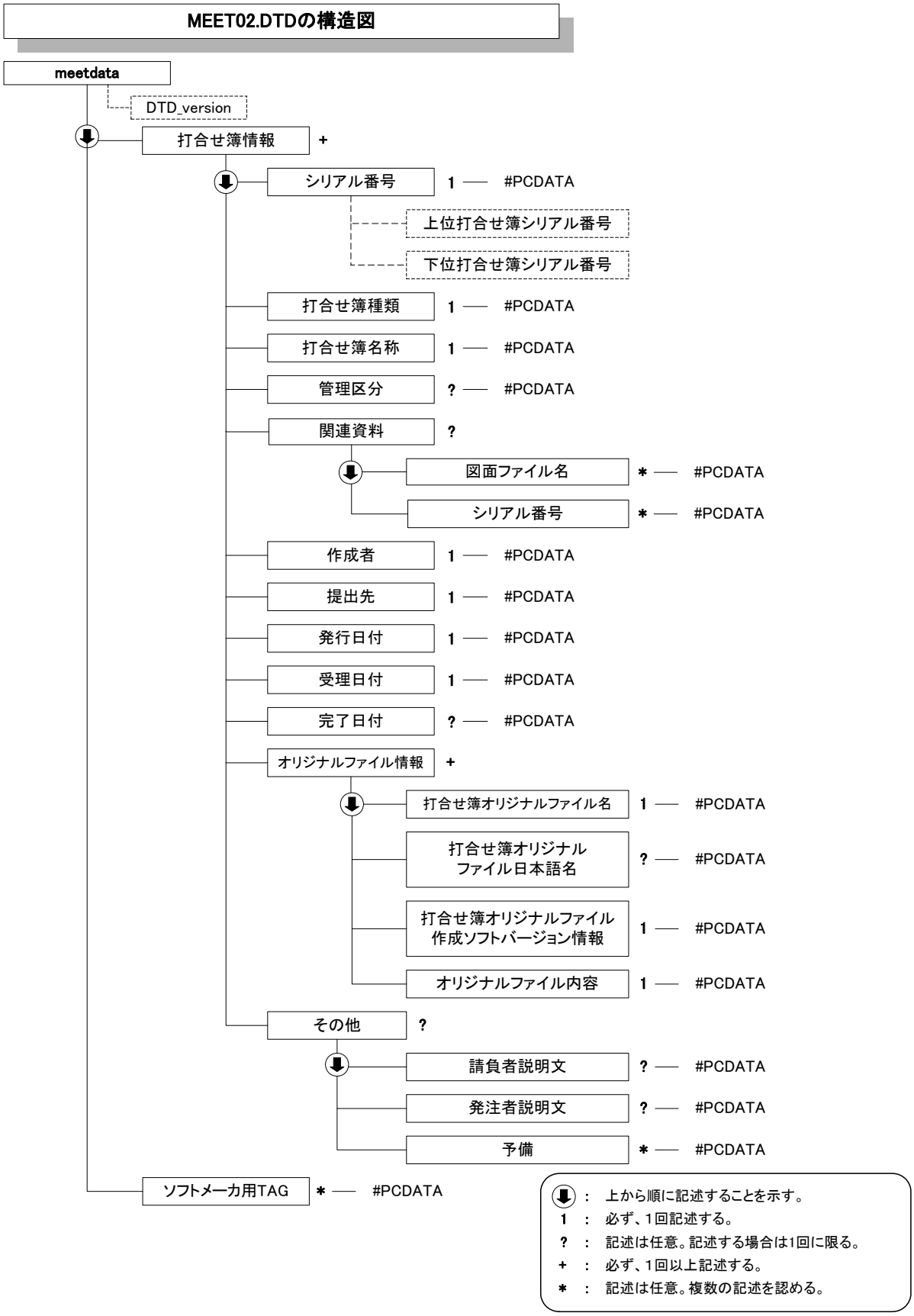


2 打合せ簿管理ファイルの DTD

成果品の電子媒体に添付する打合せ簿管理ファイル（MEET.XML）の DTD（MEET0２.DTD）を以下に示す。

```
<!--MEET0２.DTD / 2006/03-->
<!ELEMENT meetdata (打合せ簿情報+,ソフトメーカ用 TAG*)>
<!ATTLIST meetdata DTD_version CDATA #FIXED "02">

<!-- 打合せ簿情報  -->
<!ELEMENT 打合せ簿情報 (シリアル番号,打合せ簿種類,打合せ簿名称,管理区分?,関連資料?,作成者,
提出先,発行日付,受理日付,完了日付?,オリジナルファイル情報+,その他?)>
<!ELEMENT シリアル番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT シリアル番号 上位打合せ簿シリアル番号 NMTOKEN  #IMPLIED>
<!ELEMENT シリアル番号 下位打合せ簿シリアル番号 NMTOKEN  #IMPLIED>
<!ELEMENT 打合せ簿種類 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 打合せ簿名称 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 管理区分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 打合せ簿番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 作成者 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 提出先 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発行日付 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 受理日付 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 完了日付 (#PCDATA)>

<！--  関連資料  -->
<!ELEMENT 関連資料(図面ﾌｧｲﾙ名* シリアル番号*)>
<!ELEMENT 図面ファイル名(*PCDATA)>

<!- オリジナルファイル情報  -->
<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (打合せ簿オリジナルファイル名,打合せ簿オリジナルファイル
日本語名,打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報,オリジナルファイル内容) >
<!ELEMENT 打合せ簿オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 打合せ簿オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>

<!- その他  -->
<!ELEMENT その他 (請負者説明文?,発注者説明文?,予備*)>
<!ELEMENT 請負者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカ用 TAG (#PCDATA)>
```

MEET02.DTDの構造図

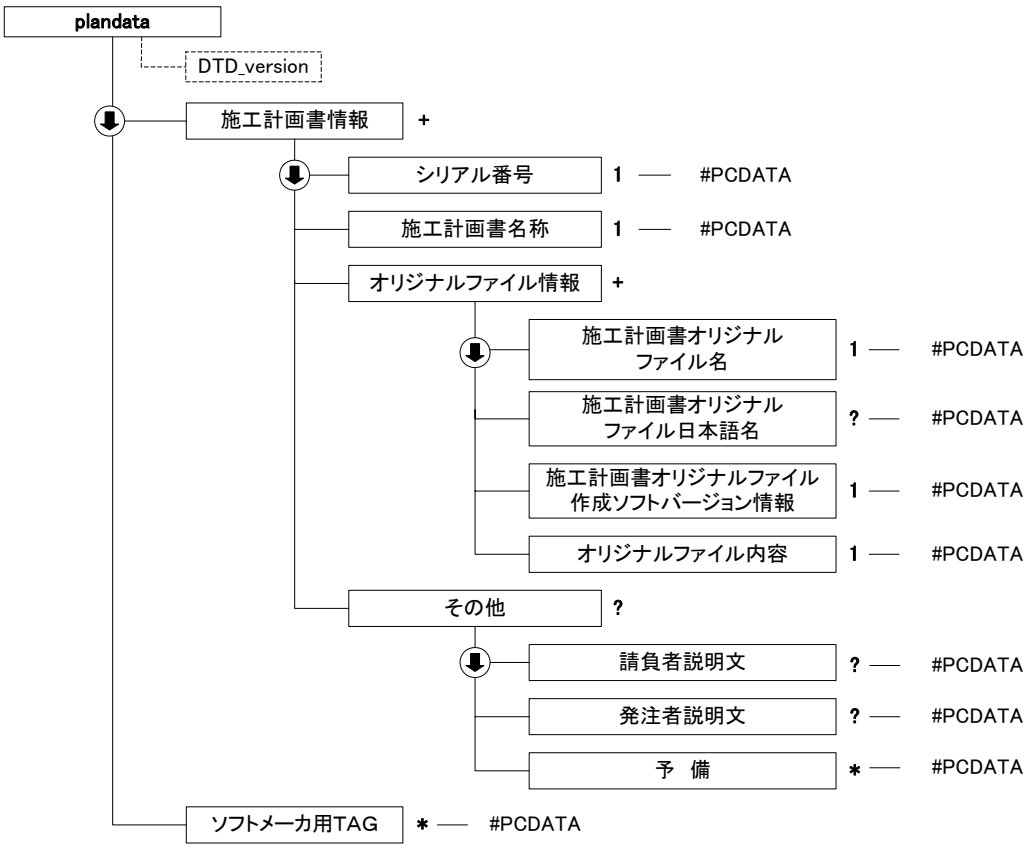


3 施工計画書管理ファイルの DTD

成果品の電子媒体に添付する施工計画書管理ファイル（PLAN.XML）の DTD（PLAN02.DTD）を以下に示す。

```
<!--PLAN02.DTD / 2006/03-->
<!ELEMENT plandata (施工計画書情報+,ソフトメーカ用 TAG*)>
<!ATTLIST plandata DTD_version CDATA #FIXED "02">

<!-- 施工計画書情報  -->
<!ELEMENT 施工計画書情報 (シリアル番号,施工計画書名称,オリジナルファイル情報+,その他?)>
<!ELEMENT シリアル番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施工計画書名称 (#PCDATA)>

<!--  オリジナルファイル情報  -->
<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (施工計画書オリジナルファイル名,施工計画書オリジナルファイル日本語名,施工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報,オリジナルファイル内容)>
<!ELEMENT 施工計画書オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施工計画書オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>

<!-- その他 -->
<!ELEMENT その他 (請負者説明文?,発注者説明文?,予備*)>
<!ELEMENT 請負者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカ用 TAG (#PCDATA)>
```

PLAN02.DTDの構造図



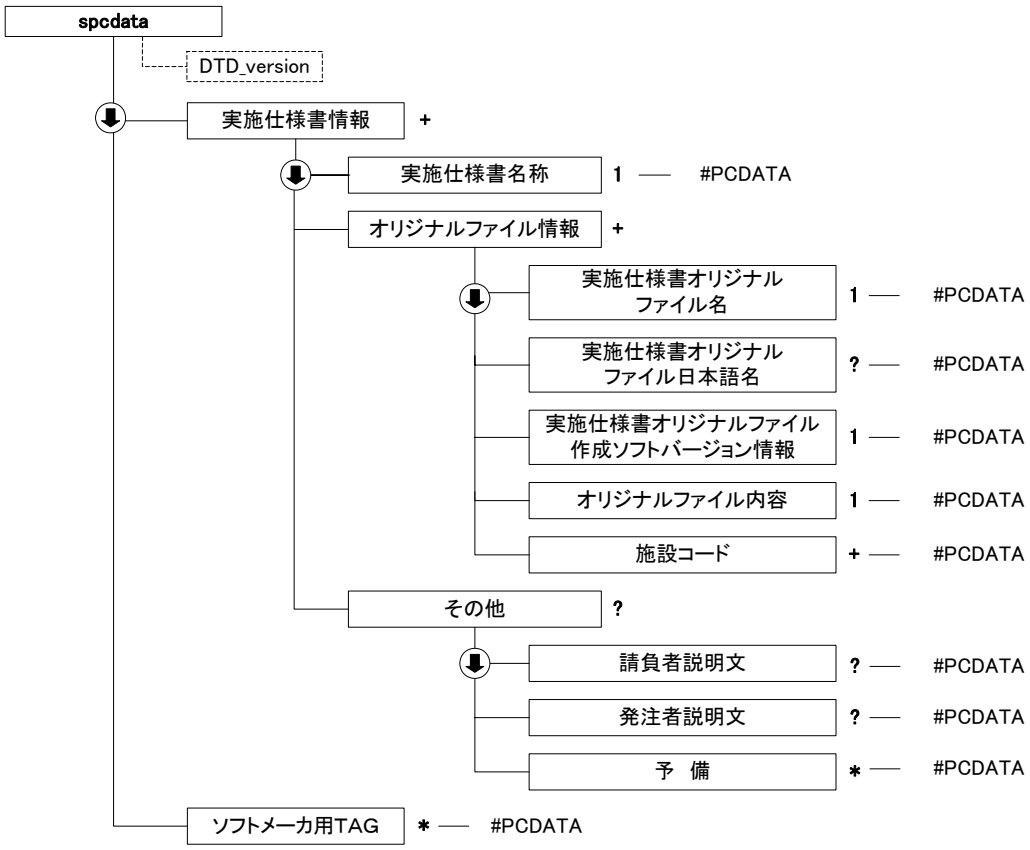
⬇ ： 上から順に記述することを示す。
1 ： 必ず、1回記述する。
? ： 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
+ ： 必ず、1回以上記述する。
* ： 記述は任意。複数の記述を認める。

4　B 実施仕様書管理ファイルの DTD

成果品の電子媒体（完成図書フォルダ）に添付する実施仕様書管理ファイル（BS.XML）の DTD（SPC02.DTD）を以下に示す。

```
<!--SPC02.DTD / 2006/03-->

<!ELEMENT specdata (実施仕様書情報+,ソフトメーカ用 TAG*)>
<!ATTLIST specdata DTD_version CDATA #FIXED "02">

<!ELEMENT 実施仕様書情報 (実施仕様書名称,オリジナルファイル情報+,その他?)>

<!ELEMENT 実施仕様書名称 (#PCDATA)>

<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (実施仕様書オリジナルファイル名,実施仕様書オリジナルファイル日本語名？、実施仕様書オリジナルファイル作成フォフトバージョン情報,オリジナルファイル内容?,施設コード+)>
<!ELEMENT 実施仕様書オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 実施仕様書オリジナルファイル日本語名(#PCDATA)>
<!ELEMENT 実施仕様書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施設コード (#PCDATA)>

<!ELEMENT その他 (請負者説明文?,発注者説明文?,予備*)>

<!ELEMENT 請負者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカ用 TAG (#PCDATA)>
```

SPC02.DTDの構造図



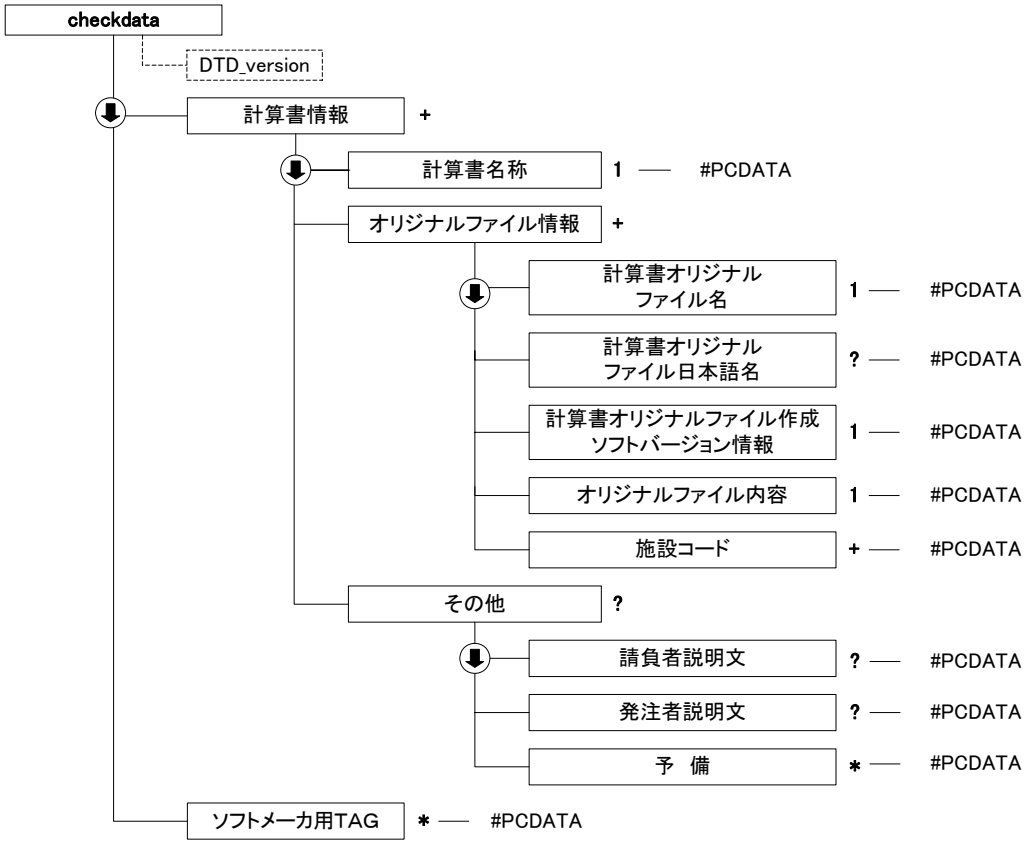
⬇ ： 上から順に記述することを示す。
1 ： 必ず、1回記述する。
? ： 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
+ ： 必ず、1回以上記述する。
* ： 記述は任意。複数の記述を認める。

5　B 計算書管理ファイルの DTD

成果品の電子媒体（完成図書フォルダ）に添付する計算書管理ファイル（BC.XML）の DTD（CHECK02.DTD）を以下に示す。

```
<!--CHECK02.DTD / 2006/03-->
<!ELEMENT checkdata (計算書情報+,ソフトメーカ用 TAG*)>
<!ATTLIST checkdata DTD_version CDATA #FIXED "02">

<!ELEMENT 計算書情報 (計算書名称,オリジナルファイル情報+,その他?)>

<!ELEMENT 計算書名称 (#PCDATA)>

<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (計算書オリジナルファイル名,計算書オリジナルファイル日本語名?,計算書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報,オリジナルファイル内容,施設コード+)>
<!ELEMENT 計算書オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 計算書オリジナルファイル日本語名(#PCDATA)
<!ELEMENT 計算書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施設コード (#PCDATA)>

<!ELEMENT その他 (請負者説明文?,発注者説明文?,予備*)>

<!ELEMENT 請負者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカ用 TAG (#PCDATA)>
```

CHECK02.DTDの構造図



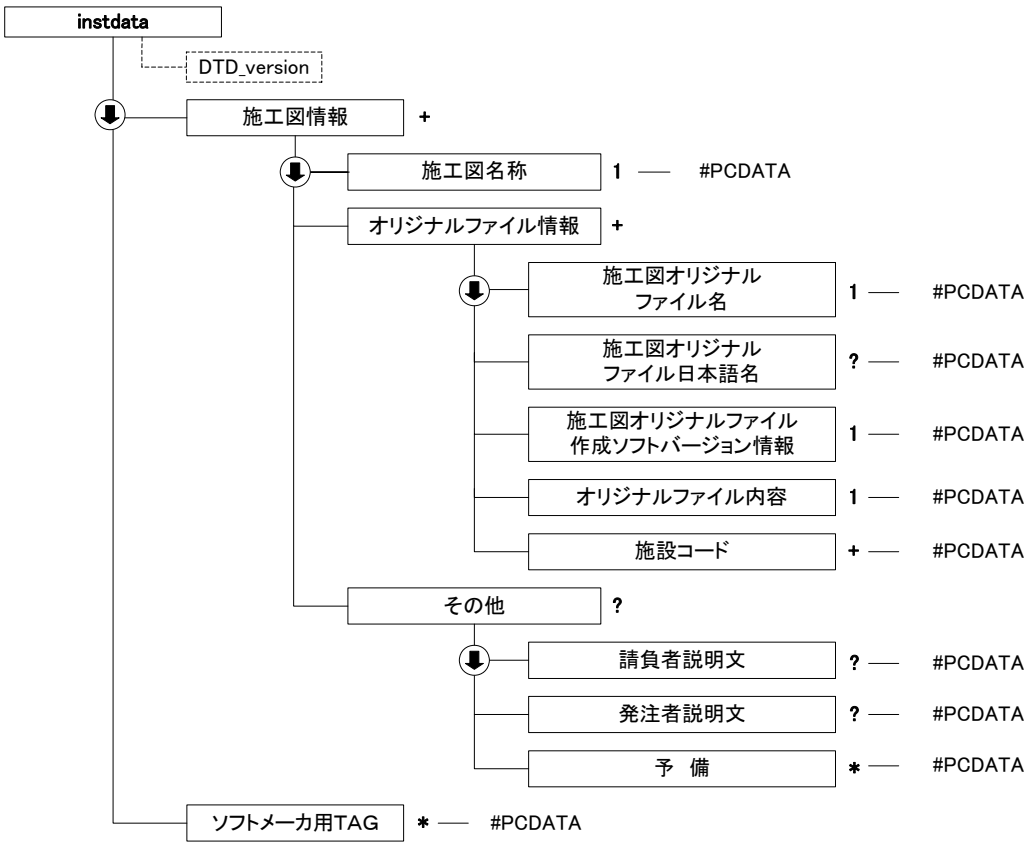
⇩ ： 上から順に記述することを示す。
1 ： 必ず、1回記述する。
? ： 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
+ ： 必ず、1回以上記述する。
* ： 記述は任意。複数の記述を認める。

6　B 施工図面管理ファイルの DTD

成果品の電子媒体（完成図書フォルダ）に添付する施工図管理ファイル（BI.XML）の DTD（INST02.DTD）を以下に示す。

```
<!--INST02.DTD / 2006/03-->

<!ELEMENT instdata (施工図情報+,ソフトメーカ用 TAG*)>
<!ATTLIST instdata DTD_version CDATA #FIXED "02">

<!ELEMENT 施工図情報 (施工図名称,オリジナルファイル情報+,その他?)>

<!ELEMENT 施工図名称 (#PCDATA)>

<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (施工図オリジナルファイル名,施工図オリジナルファイル日本語名?,施工図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報,オリジナルファイル内容,施設コード+)>
<!ELEMENT 施工図オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施工図オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)
<!ELEMENT 施工図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施設コード (#PCDATA)>


<!ELEMENT その他 (請負者説明文?,発注者説明文?,予備*)>

<!ELEMENT 請負者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカ用 TAG (#PCDATA)>
```

INST02.DTDの構造図



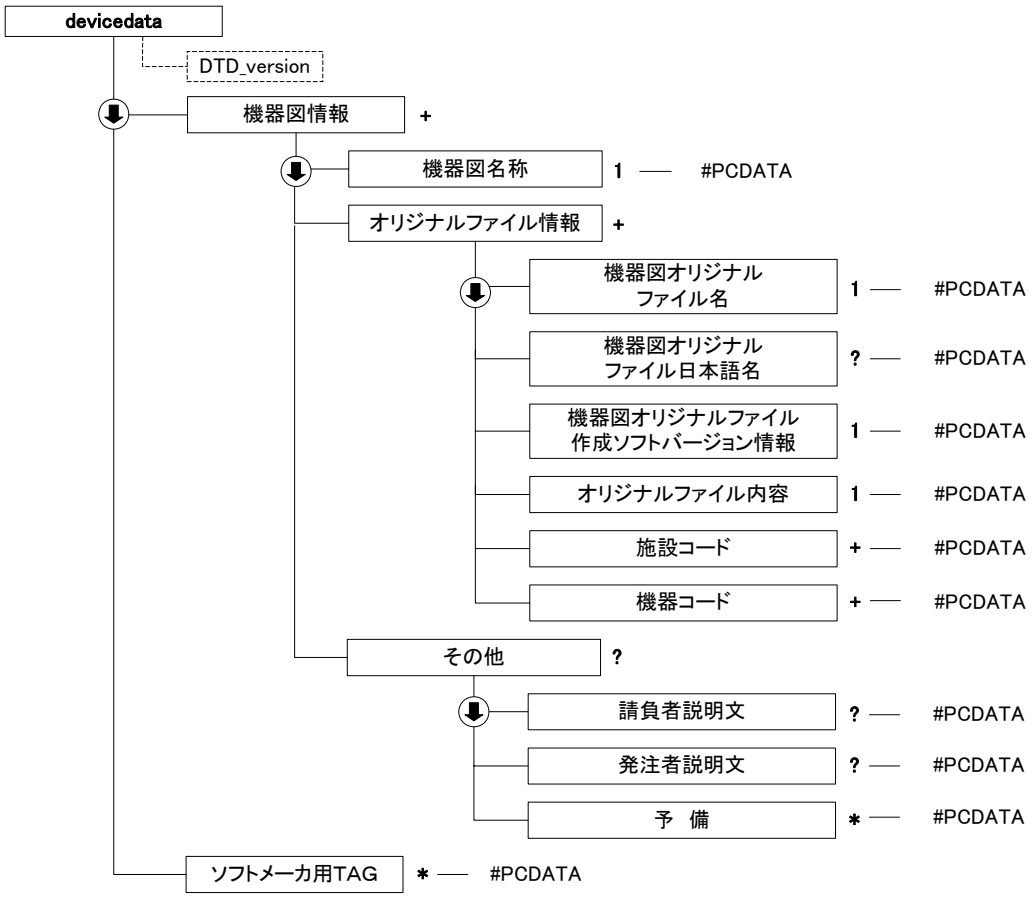
⬇ ： 上から順に記述することを示す。
1 ： 必ず、1回記述する。
? ： 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
+ ： 必ず、1回以上記述する。
* ： 記述は任意。複数の記述を認める。

7　B 機器図管理ファイルの DTD

成果品の電子媒体（完成図書フォルダ）に添付する機器図管理ファイル（BD.XML）の DTD（DEVICE02.DTD）を以下に示す。

```
<!--DEVICE02.DTD / 2006/03-->
<!ELEMENT devicedata (機器図情報+,ソフトメーカ用 TAG*)>
<!ATTLIST devicedata DTD_version CDATA #FIXED "02">

<!ELEMENT 機器図情報 (機器図名称,オリジナルファイル情報+,その他?)>

<!ELEMENT 機器図名称 (#PCDATA)>

<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (機器図オリジナルファイル名,機器図オリジナルファイル日本語名?,機器図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報,オリジナルファイル内容,施設コード+,機器コード+)>
<!ELEMENT 機器図オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 機器図オリジナルファイル日本語名　(#PCDATA)
<!ELENENT 機器図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報　(#PCDATA)
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施設コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 機器コード (#PCDATA)>


<!ELEMENT その他 (請負者説明文?,発注者説明文?,予備*)>

<!ELEMENT 請負者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカ用 TAG (#PCDATA)>
```

DEVICE02.DTDの構造図



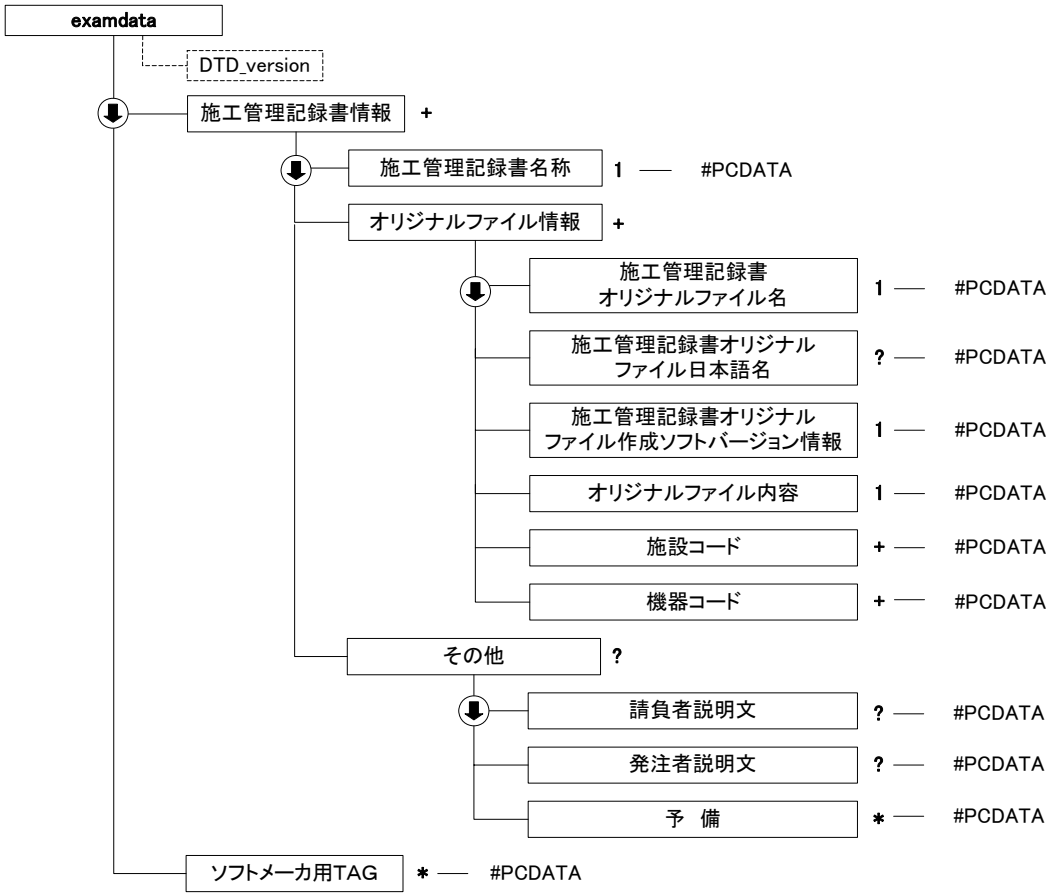
：上から順に記述することを示す。
1 ： 必ず、1回記述する。
? ： 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
+ ： 必ず、1回以上記述する。
* ： 記述は任意。複数の記述を認める。

8　B 施工管理記録書管理ファイルの DTD

成果品の電子媒体（完成図書フォルダ）に添付する施工管理記録書管理ファイル（BE.XML）の DTD（EXAM02.DTD）を以下に示す。

```
<!--EXAM02.DTD / 2006/03-->

<!ELEMENT examdata (施工管理記録書情報+,ソフトメーカ用 TAG*)>
<!ATTLIST examdata DTD_version CDATA #FIXED "02">

<!ELEMENT 施工管理記録書情報 (施工管理記録書名称,オリジナルファイル情報+,その他?)>

<!ELEMENT 施工管理記録書名称 (#PCDATA)>

<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (施工管理記録書オリジナルファイル名,施工管理記録書オリジナルファイル日本語名?,施工管理記録書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報,オリジナルファイル内容,施設コード+,機器コード+)>
<!ELEMENT 施工管理記録書オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施工管理記録書オリジナルファイル日本語名　(#PCDATA)
<!ELEMENT 施工管理記録書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施設コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 機器コード (#PCDATA)>


<!ELEMENT その他 (請負者説明文?,発注者説明文?,予備*)>

<!ELEMENT 請負者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカ用 TAG (#PCDATA)>
```

EXAM02.DTDの構造図



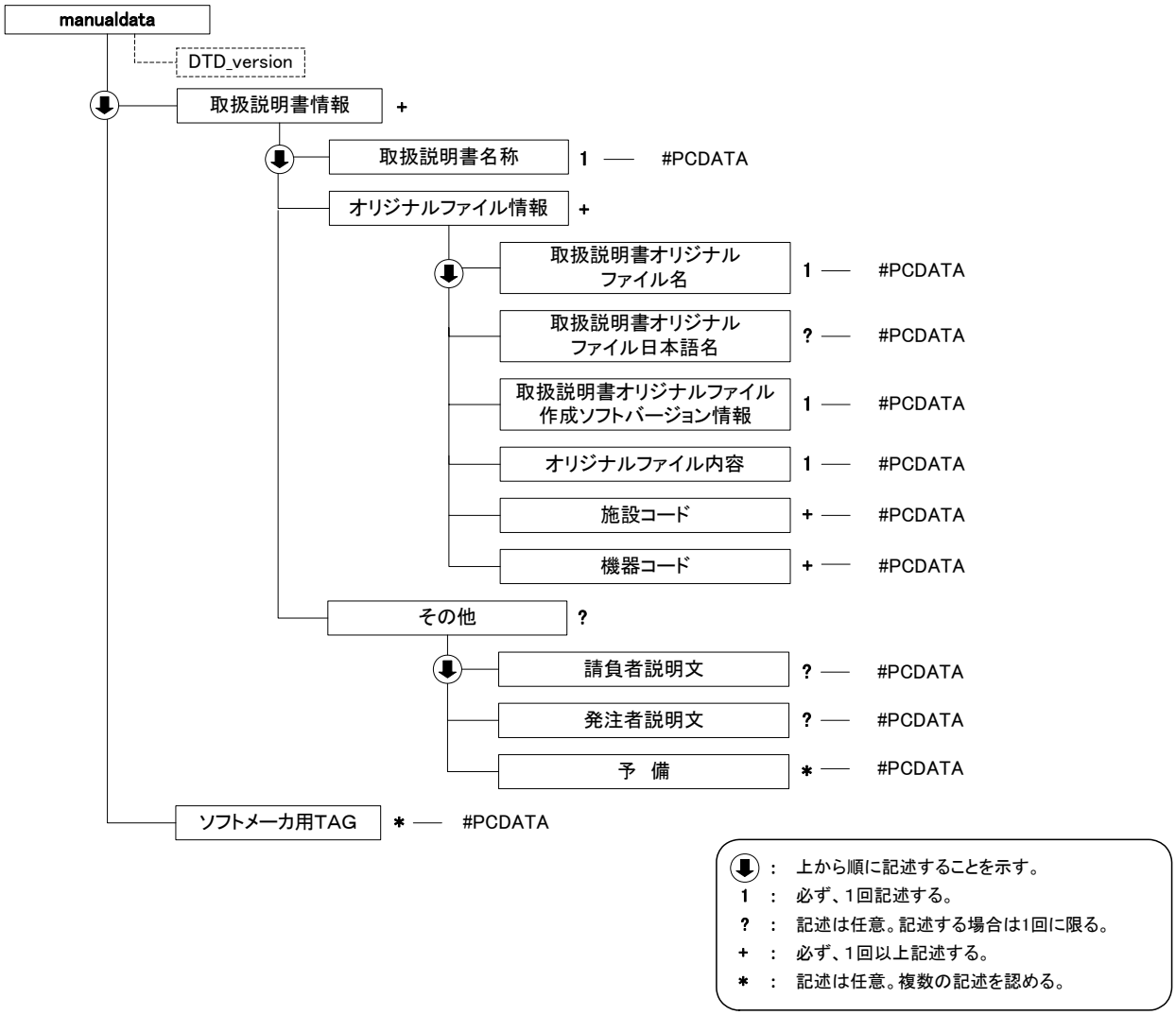
- ⬇ ： 上から順に記述することを示す。
- 1 ： 必ず、1回記述する。
- ? ： 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
- + ： 必ず、1回以上記述する。
- * ： 記述は任意。複数の記述を認める。

9　B 取扱説明書管理ファイルの DTD

成果品の電子媒体（完成図書フォルダ）に添付する取扱説明書管理ファイル（BM..XML）の DTD（MANUAL02.DTD）を以下に示す。

```
<!--MANUAL02.DTD / 2006/03-->

<!ELEMENT manualdata (取扱説明書情報+,ソフトメーカ用 TAG*)>
<!ATTLIST manualdata DTD_version CDATA #FIXED "02">

<!ELEMENT 取扱説明書情報 (取扱説明書名称,オリジナルファイル情報+,その他?)>

<!ELEMENT 取扱説明書名称 (#PCDATA)>

<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (取扱説明書オリジナルファイル名,取扱説明書オリジナルファイル日本語名?,取扱説明書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報,オリジナルファイル内容,施設コード+,機器コード+)>
<!ELEMENT 取扱説明書オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 取扱説明書オリジナルファイル日本語名(#PCDATA)
<!ELEMENT 取扱説明書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施設コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 機器コード (#PCDATA)>

<!ELEMENT その他 (請負者説明文?,発注者説明文?,予備*)>

<!ELEMENT 請負者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカ用 TAG (#PCDATA)>
```

MANUAL02.DTDの構造図

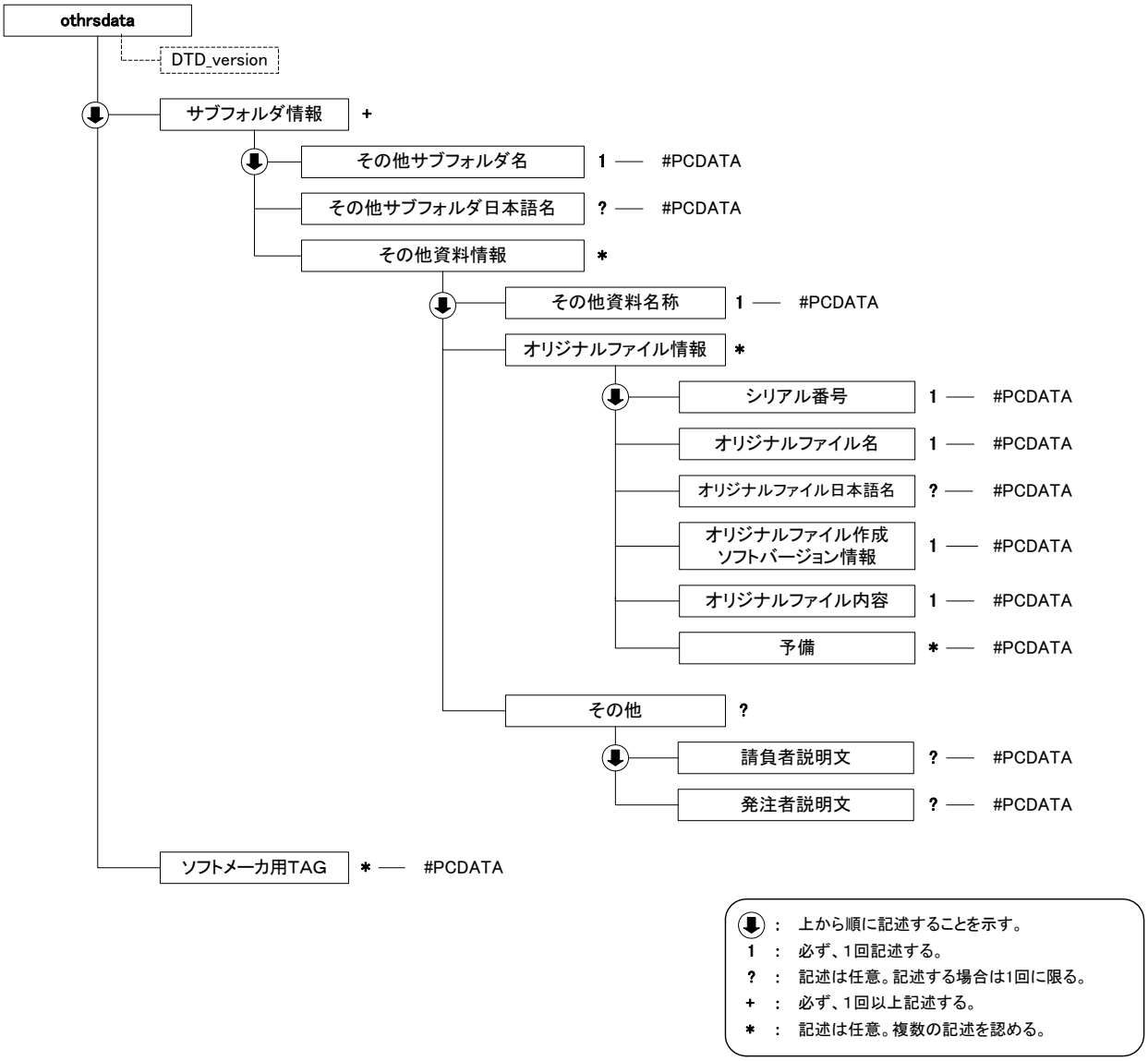


10 台帳管理ファイルの DTD

成果品の電子媒体に添付する他資料管理ファイル（OTHRS.XML）の DTD（OTHRS02.DTD）を以下に示す。

```
<!- OTHRS02.DTD / 2006/03-->

<!ELEMENT othrsdata (サブフォルダ情報+,ソフトメーカ用 TAG*)>
<!ATTLIST othrsdata DTD_version CDATA #FIXED "02">

<!-- サブフォルダ情報  -->
<!ELEMENT サブフォルダ情報（その他サブフォルダ名,その他サブフォルダ日本語名？その他資料情報*)>
   <!ELEMENT その他サブフォルダ名 (#PCDATA)>
   <!ELEMENT その他サブフォルダ日本語名  (#PCDATA)

<!- その他資料情報  -->
<!ELEMENT その他資料情報(その他資料名称,オリジナルファイル情報,その他？)>

  <!ELEMENT その他資料名称(#PCDATA)>

<!--オリジナルファイル情報 -->
<!ELEMENT オリジナルファイル情報（シリアル番号,オリジナルファイル名, オリジナルファイル日本語名,オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報,オリジナルファイル内容?,予備*)>
<!ELEMENT シリアル番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>

<-- その他 -->
<!ELEMENT その他 (請負者説明文?,発注者説明文?)>
<!ELEMENT 請負者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカ用 TAG (#PCDATA)>
```

OTHRS02.DTDの構造図



：　上から順に記述することを示す。
1　：　必ず、1回記述する。
?　：　記述は任意。記述する場合は1回に限る。
+　：　必ず、1回以上記述する。
*　：　記述は任意。複数の記述を認める。

・付属資料２　管理ファイルのＸＭＬ記入例

１　工事管理ファイルの XML 記入例

成果品の電子媒体に格納する工事管理ファイル（INDEX_MC.XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE constdata SYSTEM "IND_MC01.DTD">
<constdata DTD_version="02">
  <基礎情報>
    <メディア番号>2</メディア番号>
    <メディア総枚数>3</メディア総枚数>
    <適用要領基準>200804-01</適用要領基準>
    <発注図フォルダ名>DRAWINGS</発注図フォルダ名>
    <特記仕様書オリジナルファイルフォルダ名>DRAWINGS/SPEC</特記仕様書オリジナルファイルフォルダ名>
    <打合せ簿フォルダ名>MEET</打合せ簿フォルダ名>
    <打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名>MEET/ORG</打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名>
    <施工計画書フォルダ名>PLAN</施工計画書フォルダ名>
    <施工計画書オリジナルファイルフォルダ名>PLAN/ORG</施工計画書オリジナルファイルフォルダ名>
    <施工図面完成図フォルダ名>DRAWINGF</施工図面完成図フォルダ名>
    <完成図書フォルダ名>K_BOOK</完成図書フォルダ名>
    <B 実施仕様書フォルダ名>K_BOOK/B_SPC</B 実施仕様書フォルダ名>
    <B 計算書フォルダ名>K_BOOK/B_CHECK</B 計算書フォルダ名>
    <B 施工図フォルダ名>K_BOOK/B_INST</B 施工図フォルダ名>
    <B 機器図フォルダ名>K_BOOK/B_EVICE</B 機器図フォルダ名>
    <B 施工管理記録書フォルダ名>K_BOOK/B_EXAM</B 施工管理記録書フォルダ名>
    <B 取扱説明書フォルダ名>K_BOOK/B_MANUAL</B 取扱説明書フォルダ名>
    <写真フォルダ名>PHOTO</写真フォルダ名>
    <その他フォルダ名>OTHRS</その他フォルダ名>
      <その他オリジナルフォルダ情報>
      <その他オリジナルファイルフォルダ名>OTHRS/ORG001</その他オリジナルファイルフォルダ名>
      <その他オリジナルファイルフォルダ日本語名>維持管理システム登録データ</その他オリジナルファイルフォルダ日本語名>
      </その他オリジナルフォルダ情報>
    <台帳フォルダ名>K_LDR</台帳フォルダ名>
    </基礎情報>

  <工事件名等>
    <発注年度>2008</発注年度>
    <工事番号>0512311234</工事番号>
    <工事名称>〇〇排水機場ポンプ設備工事</工事名称>
    <施工金額>360000000</施工金額>
    <工事実績システムバージョン番号>6.0</工事実績システムバージョン番号>
    <工事分野>機械</工事分野>
    <工事分野>機械</工事分野>
    <工事業種>機械器具設置工事</工事業種>
```

```
  <工種-工法型式>
    <工種>機械器具設置工事</工種>
    <工法型式>ポンプ設備工</工法型式>
  </工種-工法型式>
  <住所情報>
    <住所コード>14104</住所コード>
    <住所>神奈川県横浜市中区港町１－1</住所>
  </住所情報>
  <工期開始日>2008-06-06</工期開始日>
  <工期終了日>2009-03-13</工期終了日>
  <工事内容>ポンプおよび付属設備一式</工事内容>
</工事件名等>

<場所情報>
  <測地系>01</測地系>
  <水系-路線情報>
    <対象水系路線名>国道〇号線</対象水系路線名>
    <現道-旧道区分>1</現道-旧道区分>
    <対象河川コード>8606040001</対象河川コード>
    <左右岸上下線コード>10</左右岸上下線コード>
    <測点情報>
      <起点側測点-n>0015</起点側測点-n>
      <起点側測点-m>008</起点側測点-m>
      <終点側測点-n>0018</終点側測点-n>
      <終点側測点-m>005</終点側測点-m>
    </測点情報>
    <距離標情報>
      <起点側距離標-n>031</起点側距離標-n>
      <起点側距離標-m>045</起点側距離標-m>
      <終点側距離標-n>036</終点側距離標-n>
      <終点側距離標-m>067</終点側距離標-m>
    </距離標情報>
    <境界座標情報>
      <西側境界座標経度>1393808</西側境界座標経度>
      <東側境界座標経度>1394011</東側境界座標経度>
      <北側境界座標緯度>0352655</北側境界座標緯度>
      <南側境界座標緯度>0352426</南側境界座標緯度>
    </境界座標情報>
</場所情報>

<施設情報>
    <台帳フォルダ>1</台帳フォルダ>
</施設情報>

<発注者情報>
  <発注者-大分類>横浜市</発注者-大分類>
  <発注者-中分類>〇〇局</発注者-中分類>
  <発注者-小分類>〇〇課</発注者-小分類>
  <発注者コード>050100110001P001</発注者コード>
</発注者情報>

<請負者情報>
  <請負者名>〇〇建設△△組共同企業体</請負者名>
```

```
    <請負者コード>1234567</請負者コード>
</請負者情報>

<予備></予備>

<ソフトメーカ用 TAG></ソフトメーカ用 TAG>

</constdata>
```

2　打合せ簿管理ファイルのＸＭＬ記入例

成果品の電子媒体に格納する工事管理ファイル（MEET.XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE meetdata SYSTEM "MEET02.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="MEET02.XSL"?>
<meetdata DTD_version="02">

 <打合せ簿情報>
    <シリアル番号下位打合せ簿シリアル番号="2">1</シリアル番号>
    <打合せ簿種類>通知</打合せ簿種類>
    <打合せ簿名称>○○○に関する協議</打合せ簿名称>
    <管理区分>品質管理</管理区分>
    <関連資料>
      <図面ファイル名>COPL001Z.P21</図面ファイル名>
      <シリアル番号>200</シリアル番号>
    </関連資料>
    <作成者>請負人:現場代理人</作成者>
    <提出先>発注者</提出先>
    <発行日付>2008-07-06</発行日付>
    <受理日付>2008-07-14</受理日付>
    <完了日付>2008-08-01</完了日付>

    <オリジナルファイル情報>
      <打合せ簿オリジナルファイル名>M0001_01.XXX</打合せ簿オリジナルファイル名>
      <打合せ簿オリジナルファイル日本語名>○○○に関する打合せ簿 0001_01.XXX</打合せ簿オリジナルファイル日本語名>
      <打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>○○ソフト_2005</打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>○○○の通知に関する事項の鑑</オリジナルファイル内容>
    </オリジナルファイル情報>

    <オリジナルファイル情報>
      <打合せ簿オリジナルファイル名>M0001_02.XXX</打合せ簿オリジナルファイル名>
      <打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>△□○表計算ソフト_2005</打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>○○○の通知に関する事項の本文</オリジナルファイル内容>
    </オリジナルファイル情報>

<その他>
      <請負者説明文></請負者説明文>
      <発注者説明文></発注者説明文>
      <予備>○○のカタログ</予備>
    </その他>
</打合せ簿情報>

<打合せ簿情報>
    <シリアル番号上位打合せ簿シリアル番号="1" 下位打合せ簿シリアル番号="1">2</シリアル番号>
    <打合せ簿種類>提出</打合せ簿種類>
    <打合せ簿名称>請負代金内訳書及び工程表</打合せ簿名称>
    <管理区分>施工管理</管理区分>
```

<関連資料>
<図面ファイル名>COPL002Z.P21</図面ファイル名>
<シリアル番号>225</シリアル番号>
<シリアル番号>225</シリアル番号>
</関連資料>
<作成者>請負人:現場代理人</作成者>
d <提出先>発注者</提出先>
<発行日付>2008-07-06</発行日付>
<受理日付>2008-07-14</受理日付>
<完了日付>2008-08-01</完了日付>

<オリジナルファイル情報>
<打合せ簿オリジナルファイル名>M0002_01.XXX</打合せ簿オリジナルファイル名>
<打合せ簿オリジナルファイル日本語名>工程表.XXX</打合せ簿オリジナルファイル日本語名
>
<打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>△▽○表計算ソフト_2005</打合
せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
<オリジナルファイル内容>工程表</オリジナルファイル内容>
</オリジナルファイル情報>

<オリジナルファイル情報>
<打合せ簿オリジナルファイル名>M0002_02.XXX</打合せ簿オリジナルファイル名>
<打合せ簿オリジナルファイル日本語名>請負代金内訳書.XXX</打合せ簿オリジナルファイル
日本語名>
<打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>△□○表計算ソフト_2005</打合
せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
<オリジナルファイル内容>請負代金内訳書</オリジナルファイル内容>
</オリジナルファイル情報>

<その他>
<請負者説明文></請負者説明文>
<発注者説明文></発注者説明文>
<予備></予備>
</その他>
</打合せ簿情報>

<打合せ簿情報>
<シリアル番号上位打合せ簿シリアル番号="2">3</シリアル番号>
<打合せ簿種類>指示</打合せ簿種類>
<打合せ簿名称>中間技術検査の中止について</打合せ簿名称>
<作成者>発注者:主任監督員</作成者>
<発行日付>2008-10-06</発行日付>
<受理日付>2008-10-18</受理日付>

<オリジナルファイル情報>
<打合せ簿オリジナルファイル名>M0003_01.XXX</打合せ簿オリジナルファイル名>
<打合せ簿オリジナルファイル日本語名>20081006 中間技術検査の注視.XXX</打合せ簿オリ
ジナルファイル日本語名>
<打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>□□○ソフト_2005</打合せ簿オ
リジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
<オリジナルファイル内容>本文</オリジナルファイル内容>
</オリジナルファイル情報>
<その他></その他>

</打合せ簿情報>

<ソフトメーカ用 TAG></ソフトメーカ用 TAG>

</meetdata>

3　施工計画管理ファイルのＸＭＬ記入例

成果品の電子媒体に格納する工事管理ファイル（PLAN.XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE plandata SYSTEM "PLAN02.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="PLAN02.XSL"?>
<plandata DTD_version="02">

  <施工計画書情報>
    <シリアル番号>1</シリアル番号>
    <施工計画書名称>○○○施工計画書</施工計画書名称>

    <オリジナルファイル情報>
      <施工計画書オリジナルファイル名>PLA01_01.XXX</施工計画書オリジナルファイル名>
      <施工計画書オリジナルファイル日本語名>○○○施工計画書.XXX</施工計画書オリジナルファイル日本語名>
      <施工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>○○ソフト_2005</施工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>工事概要</オリジナルファイル内容>
    </オリジナルファイル情報>

    <オリジナルファイル情報>
      <施工計画書オリジナルファイル名>PLA01_02.XXX</施工計画書オリジナルファイル名>
      <施工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>△△表計算ソフト_2005</施工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>計画工程</オリジナルファイル内容>
    </オリジナルファイル情報>

    <オリジナルファイル情報>
      <施工計画書オリジナルファイル名>PLA01_03.XXX</施工計画書オリジナルファイル名>
      <施工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>○○ソフト_2005</施工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>施工方法</オリジナルファイル内容>
    </オリジナルファイル情報>

    <その他>
      <請負者説明文></請負者説明文>
      <発注者説明文></発注者説明文>
      <予備>紙資料：○□△図</予備>
    </その他>
  </施工計画書情報>

  <ソフトメーカ用 TAG></ソフトメーカ用 TAG>

  </plandata>
```

4　実施仕様書管理ファイルのＸＭＬ記入例

成果品の電子媒体に格納する完成図書管理ファイル（BS.XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE specdata SYSTEM "SPC02.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="SPEC02.XSL"?>
<specdata DTD_version="02">

  <実施仕様書情報>
    <実施仕様書名称>○○○実施仕様書</実施仕様書名称>

    <オリジナルファイル情報>
      <実施仕様書オリジナルファイル名>BS001_1.PDF</実施仕様書オリジナルファイル名>
      <実施仕様書オリジナルファイル日本語名>○○○実施仕様書.XXX</実施仕様書オリジナル
ファイル日本語名>
      <実施仕様書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>PDF 作成ソフト_5.0</実施仕
様書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>実施仕様書</オリジナルファイル内容>
      <施設コード>>405010011000 1P001</施設コード>
    </オリジナルファイル情報>

    <その他>
      <請負者説明文/>
      <発注者説明文/>
      <予備/>
      </その他>
      </実施仕様書情報>

  <ソフトメーカ用 TAG/>

  </specdata>
```

5　計算書管理ファイルの XML 記入例

成果品の電子媒体に格納する計算書管理ファイル（BC.XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE checkdata SYSTEM "CHECK02.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="CHECK02.XSL"?>
<checkdata DTD_version="02">

<計算書情報>
    <計算書名称>○○計算書</計算書名称>

    <オリジナルファイル情報>
      <計算書オリジナルファイル名>BC001_1.PDF</計算書オリジナルファイル名>
      <計算書オリジナルファイル日本語名>○○計算書.XXX</計算書オリジナルファイル日本語名>
      <計算書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>○○ソフト_2005</計算書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>○○計算書</オリジナルファイル内容>
      <施設コード>>4050100110001P001</施設コード>
    </オリジナルファイル情報>

    <その他>
      <請負者説明文/>
      <発注者説明文/>
      <予備/>
    </その他>

  </計算書情報>

  <ソフトメーカ用 TAG/>

  </checkdata>
```

6　施工図面管理ファイルのＸＭＬ記入例

成果品の電子媒体に格納する施工図面管理ファイル（BI.XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE instdata SYSTEM "INST02.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="INST02.XSL"?>
<instdata DTD_version="02">

<施工図情報>
    <施工図名称>○○装置図</瀬構図名称>
    <オリジナルファイル情報>
      <施工図オリジナルファイル名>BI001_1.PDF</施工図オリジナルファイル名>
      <施工図オリジナルファイル日本語名>○○装置図.XXX</施工図オリジナルファイル日本語名>
      <施工図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>PDF 作成ソフト_5.0</施工図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>○○○装置図(1/2)</オリジナルファイル内容>
      <施設コード>>40501001 0001P001</施設コード>
    </オリジナルファイル情報>

    <その他>
      <請負者説明文/>
      <発注者説明文/>
      <予備/>
    </その他>
    </施工図情報>

  <ソフトメーカ用 TAG/>

</instdata>
```

7　機器図管理ファイルのＸＭＬ記入例

成果品の電子媒体に格納する機器図管理ファイル（BD.XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE devicedata SYSTEM "DEVICE02.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="DEVICE02.XSL"?>
<devicedata DTD_version="02">

<機器図情報>
    <機器図名称>○○機器構成図</機器図名称>
    <オリジナルファイル情報>
      <機器図オリジナルファイル名>BD001_1.PDF</機器図オリジナルファイル名>
      <機器図オリジナルファイル日本語名>○○機器構成図.XXX</機器図オリジナルファイル日本
語名>
      <機器図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報> PDF 作成ソフト_5.0</機器図オリジ
ナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>○○○機器図(1/2)</オリジナルファイル内容>
      <施設コード>>40501001 10001P001</施設コード>
      <機器コード>PP010010000100</機器コード>
    </オリジナルファイル情報>

    <その他>
      <請負者説明文></請負者説明文>
      <発注者説明文></発注者説明文>
      <予備></予備>
    </その他>

  </機器図情報>

  <ソフトメーカ用 TAG/>

  </devicedata>
```

8　施工管理記録書管理ファイルのＸＭＬ記入例

成果品の電子媒体に格納する施工管理記録書管理ファイル（BE.XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE devicedata SYSTEM "EXAM02.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="EXAM02.XSL"?>
<examdata DTD_version="02">

<施工管理記録書情報>
    <施工管理記録書名称>〇〇試験成績書</施工管理記録書名称>
    <オリジナルファイル情報>
      <施工管理記録書オリジナルファイル名>BE001_1.PDF</施工管理記録書オリジナルファイル名>
      <施工管理記録書オリジナルファイル日本語名>〇〇試験成績書.XXX</施工管理記録書オリジナルファイル日本語名>
      <施工管理記録書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報> PDF 作成ソフト_5.0</施工管理記録書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>〇〇〇試験成績書(1/2)</オリジナルファイル内容>
      <施設コード>>4050100110001P001</施設コード>
      <機器コード>PP010010000100</機器コード>
    </オリジナルファイル情報>

    <その他>
      <請負者説明文></請負者説明文>
      <発注者説明文></発注者説明文>
      <予備></予備>
    </その他>

  </施工管理記録書>

  <ソフトメーカ用 TAG/>

  </examdata>
```

9　取扱説明書管理ファイルのＸＭＬ記入例

成果品の電子媒体に格納する取扱説明書管理ファイル（BM.XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE devicedata SYSTEM "MANUAL02.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="MANUAL02.XSL"?>
<manualdata DTD_version="02">

<取扱説明書情報>
    <取扱説明書名称>〇〇取扱説明書</取扱説明書名称>
    <オリジナルファイル情報>
      <取扱説明書オリジナルファイル名>BM001_1.PDF</取扱説明書オリジナルファイル名>
      <取扱説明書オリジナルファイル日本語名>〇〇取扱説明書.XXX</取扱説明書オリジナルファイル日本語名>
      <取扱説明書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報> PDF 作成ソフト_5.0</取扱説明書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>〇〇〇取扱説明書(1/2)</オリジナルファイル内容>
      <施設コード>>4050100110001P001</施設コード>
      <機器コード>PP010010000100</機器コード>
    </オリジナルファイル情報>

    <その他>
      <請負者説明文></請負者説明文>
      <発注者説明文></発注者説明文>
      <予備></予備>
    </その他>
    </取扱説明書>

    <ソフトメーカ用 TAG/>

    </manualdata>
```

10　その他資料管理ファイルのＸＭＬ記入例

成果品の電子媒体に格納する台帳管理ファイル（OTHRS.XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE devicedata SYSTEM "OTHRS02.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="OTHRS02.XSL"?>
<othrsdata DTD_version="02">

<サブフォルダ情報>
    <その他サブフォルダ名>ORG001</その他サブフォルダ名>
    <その他サブフォルダ日本語名>○○システム入力データ</その他サブフォルダ日本語名>
    <その他資料情報>
      <その他資料名称>維持管理○○データ</その他資料名称>
      <その他>
      <請負者説明文></請負者説明文>
      <発注者説明文>維持管理において○○システムに入力するデータを格納する。</発注者説明
文>
      </その他>
    </その他資料情報>
  </サブフォルダ情報>

<サブフォルダ情報>
     <その他サブフォルダ名>ORG002</その他サブフォルダ名>
     <その他サブフォルダ日本語名>段階確認書</その他サブフォルダ日本語名>
      <その他資料情報>
      <その他資料名称>○○に関する段階確認書</その他資料名称>
      <オリジナルファイル情報>
      <オリジナルファイル名>CHK01_01.XXX</オリジナルファイル名>
      <オリジナルファイル日本語名>20081201 段階確認書.XXX</オリジナルファイル日本語名>
      <オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>○△ソフト_2005</オリジナルファイル作
成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>>○○に関する段階確認書</オリジナルファイル内容>
      <予備></予備>
    </オリジナルファイル情報>
    <その他>
      <請負者説明文></請負者説明文>
      <発注者説明文>段階確認書が重要書類であることから格納する。</発注者説明文>
    </その他>
  </サブフォルダ情報>

  <ソフトメーカ用 TAG></ソフトメーカ用 TAG>

</othrsdata>
```

付属資料３　図面・書類等の格納例

1. 水門設備工事　図面、書類　提出リストと格納フォルダ（例）

フォルダ名

B_SPC:完成図書/実施仕様書、B_CHECK:完成図書/計算書、B_INST:完成図書/施工図、
B_DEVICE:完成図書/機器図、B_EXAM:完成図書/施工管理記録書、B_MANUAL:完成図書/取扱説明書、
DRAWINGF:施工図面・完成図

CAD：CADデータ（原則として SXF（P21）形式）、 PDF：PDFデータ、 ×：提出不要

項目	機器名	図　面　名　称	完成図書 フォルダ	施工図 フォルダ
			PDF	CAD
実施仕様書		実施仕様書	B_SPC	—
設計計算書		設計計算書	B_CHECK	—
数量表		重量総括表	B_CHECK	—
		塗装面積総括表	B_CHECK	—
		仕上り重量表	B_CHECK	—
		購入品一覧表	B_CHECK	—
設計図面	全体	全体配置図	B_INST	DRAWINGF
		一般図	B_INST	DRAWINGF
		箱抜き及び挿し筋配置図	B_INST	DRAWINGF
		水密詳細図	B_INST	DRAWINGF
	戸当り	戸当り組立図	B_INST	DRAWINGF
		戸当り製作図	B_INST	DRAWINGF
		戸当り伸縮継手	B_INST	DRAWINGF
		アンカ金物製作図	B_INST	DRAWINGF
	扉体	扉体組立図	B_INST	DRAWINGF
		扉体製作図	B_INST	DRAWINGF
		水密ゴム製作図	B_INST	DRAWINGF
		水密ゴム押え板製作図	B_INST	DRAWINGF
		主ローラ製作図	B_INST	DRAWINGF

項目	機器名	図　面　名　称	完成図書 フォルダ	施工図 フォルダ
			PDF	CAD
設計図面	扉体	サイドローラ製作図	B_INST	DRAWINGF
		シーブ・軸製作図	B_INST	DRAWINGF
		給油配管図	B_DEVICE	DRAWINGF
	開閉(昇降)装置	開閉装置組立図	B_INST	DRAWINGF
		開閉装置駆動部組立図	B_INST	DRAWINGF
		開閉装置従動部組立図	B_INST	DRAWINGF
		荷重分布図	B_INST	DRAWINGF
		アンカ金物配置および製作図	B_INST	DRAWINGF
		機械台詳細図	B_INST	DRAWINGF
		ドラム詳細図	B_INST	DRAWINGF
		歯車詳細図	B_INST	DRAWINGF
		軸詳細図	B_INST	DRAWINGF
		軸受詳細図	B_INST	DRAWINGF
		ドラム軸受詳細図	B_INST	DRAWINGF
		シーブ詳細図	B_INST	DRAWINGF
		シーブブラケット及び軸詳細図	B_INST	DRAWINGF
		休止装置組立図	B_INST	DRAWINGF
		休止装置詳細図	B_INST	DRAWINGF
		ロープ端末装置	B_DEVICE	—
		非常上限検出装置	B_DEVICE	DRAWINGF
		開度指示装置組立図	B_DEVICE	DRAWINGF
		開度指示装置詳細図	B_DEVICE	—

項目	機器名	図　面　名　称	完成図書 フォルダ	施工図 フォルダ
			PDF	CAD
設計図面	開閉(昇降)装置	カップリング	B_DEVICE	—
		ブレーキホイール	B_DEVICE	—
		集中給油配置図	B_DEVICE	DRAWINGF
	開閉(昇降)装置	ギヤカバー詳細図	B_INST	DRAWINGF
		減速機組立図	B_DEVICE	—
		切替装置組立図	B_DEVICE	—
		ワイヤロープ及びソケット	B_DEVICE	—
		シリンダ架台組立図	B_INST	DRAWINGF
		油圧シリンダ組立図	B_DEVICE	—
		シリンダ詳細図	B_DEVICE	—
		開度計組立図	B_DEVICE	—
		開度計詳細図	B_DEVICE	—
		油圧シリンダ点検台	B_INST	DRAWINGF
		油圧ユニット外形図	B_DEVICE	—
		油圧回路図	B_DEVICE	—
		油圧配管組立図	B_DEVICE	DRAWINGF
		油圧配管詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF
	制御設備	盤外形図	B_DEVICE	DRAWINGF
		盤内配置図	B_DEVICE	—
		操作フローチャート	B_DEVICE	DRAWINGF
		単線結線図	B_DEVICE	DRAWINGF
		展開接続図	B_DEVICE	—

項目	機器名	図　面　名　称	完成図書 フォルダ	施工図 フォルダ
			PDF	CAD
設計図面	制御設備	配線系統図	B_DEVICE	DRAWINGF
		電路布設図	B_INST	DRAWINGF
		電気機器図	B_DEVICE	—
		配線ピット配置図	B_DEVICE	—
		配線ピット組立図	B_DEVICE	—
		配線ピット詳細図	B_DEVICE	—
	付属設備	付属設備組立図	B_INST	DRAWINGF
		付属設備詳細図	B_INST	DRAWINGF
		付属設備機器図	B_DEVICE	—
取扱説明書		操作説明書	B_MANUAL	—
		主要機器取扱説明書	B_MANUAL	—
		メーカ取扱説明書	B_MANUAL	—
		点検整備要領	B_MANUAL	—
		チェックシート	B_MANUAL	—
		油脂リスト	B_MANUAL	—
		工具・予備品一覧表	B_MANUAL	—
		サービス連絡体制	B_MANUAL	—

項目	機器名	図　面　名　称	完成図書 フォルダ	施工図 フォルダ
			PDF	CAD
施工管理記録	工場	原寸検査	B_EXAM	—
		材料検査	B_EXAM	—
		溶接検査	B_EXAM	—
		仮組立検査	B_EXAM	—
		機器性能検査	B_EXAM	—
		塗装検査	B_EXAM	—
	現場	据付基準点検査	B_EXAM	—
		工事材料検査	B_EXAM	—
		据付寸法検査	B_EXAM	—
		溶接検査	B_EXAM	—
		据付機能検査	B_EXAM	—

2. 揚排水ポンプ設備工事　図面、書類　提出リストと格納フォルダ（例）

フォルダ名

DRAWINGS/SPEC:発注図/特記仕様書オリジナルファイル、PLAN:施工計画書

B_SPC:完成図書/実施仕様書、B_CHECK:完成図書/計算書、B_INST:完成図書/施工図、

B_DEVICE:完成図書/機器図、B_EXAM:完成図書/施工管理記録書、B_MANUAL:完成図書/取扱説明書、

DRAWINGF:施工図面・完成図

CAD：CADデータ（原則として SXF（P21）形式）、 PDF：PDFデータ、 ×：提出不要

項目	機器名	図　面　名　称	完成図書 フォルダ	施工図 フォルダ
			PDF	CAD
契約仕様書			DRAWINGS/SPEC	—
全体		製作仕様書	B_SPC	—
		設計計算書	B_CHECK	—
		一般平面図	B_INST	DRAWINGF
		据付平面図	B_INST	DRAWINGF
		据付断面図	B_INST	DRAWINGF
		機器構成図	B_INST	DRAWINGF
		全体フロー図	B_INST	DRAWINGF
		検査試験要領書	B_CHECK	—
		塗装要領書	B_CHECK	—
		写真撮影要領書	×	×
		工程管理表	×	×
（機器単体）	主ポンプ ファン	組立断面図	B_DEVICE	DRAWINGF
		外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		ケーシング製作図	×	×
		羽根車製作図	×	×
		主軸製作図	×	×
		軸受製作図	×	×
		その他部品製作図	×	×
		木型図	×	×

項目	機器名	図　面　名　称	完成図書 フォルダ	施工図 フォルダ
			PDF	CAD
（機器単体）	主ポンプ ファン	購入部品構造図	B_DEVICE	—
		組立要領図	B_DEVICE	—
	減速機	構造図	B_DEVICE	DRAWINGF
		外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		センサー給油系統図	B_DEVICE	DRAWINGF
		歯車製作図	×	×
		軸製作図	×	×
		軸受製作図	×	×
		購入部品構造図	B_DEVICE	—
		組立要領図	B_DEVICE	—
	原動機	外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		機器構成図	B_DEVICE	DRAWINGF
		部品製作図	×	×
		潤滑油システムフローシート	B_DEVICE	DRAWINGF
		燃料システムフローシート	B_DEVICE	DRAWINGF
		タイムスケジュール	B_DEVICE	DRAWINGF
		始動停止シーケンスブロック図	B_DEVICE	DRAWINGF
		制御盤詳細図（外形図）	B_DEVICE	DRAWINGF
		サイレンサー外形構造図	B_DEVICE	DRAWINGF
	弁 ダンパー	外形寸法図	B_DEVICE	—
		組立断面図	B_DEVICE	—
		駆動部詳細図	B_DEVICE	—

項目	機器名	図　面　名　称	完成図書 フォルダ	施工図 フォルダ
			PDF	CAD
		弁胴弁体他製作図	×	×
	主配管・主ダクト	配管寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		配管製作図	×	×
		伸縮管構造図	B_DEVICE	—
	補助機器	外形寸法図	B_DEVICE	—
		組立断面図	B_DEVICE	—
	電気品全体	システム構成図	B_DEVICE	—
		システム系統図	B_DEVICE	—
		電源系統図	B_DEVICE	—
		単線接続図	B_DEVICE	DRAWINGF
		操作制御フロー図	B_DEVICE	DRAWINGF
		計装フロー図	B_DEVICE	DRAWINGF
		管理項目表	B_DEVICE	—
	盤関係	製作仕様書	B_DEVICE	—
		容量計算書	B_DEVICE	—
		盤外形図	B_DEVICE	DRAWINGF
		盤内配置図	B_DEVICE	—
		規定値一覧表	B_DEVICE	—
		外部端子図	B_DEVICE	—
		三線接続図	B_DEVICE	—
		展開接続図	B_DEVICE	—

項目	機器名	図　面　名　称	完成図書 フォルダ	施工図 フォルダ
			PDF	CAD
（機器単体）	コンピュータ	機能設計図	B_DEVICE	—
		システム機器構成図	B_DEVICE	—
		詳細設計図	×	×
	運転管理装置	製作仕様書	B_DEVICE	—
		ネットワーク構成図	B_DEVICE	DRAWINGF
		外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		内部配置図	B_DEVICE	—
		外部端子図	B_DEVICE	—
	計装機器	機器仕様書	B_DEVICE	—
		外形寸法図	B_DEVICE	—
	除塵装置	全体配図	B_DEVICE	DRAWINGF
		強度計算書	B_DEVICE	—
		外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
	除塵機	スクリーン詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF
		上部詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF
		駆動部詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF
		購入部品寸法図	B_DEVICE	—
		手摺梯子詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF
		製缶加工組立図	×	×
	コンベア	外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		購入部品寸法図	B_DEVICE	—
		製缶加工組立図	×	×

項目	機器名	図　面　名　称	完成図書 フォルダ	施工図 フォルダ
			PDF	CAD
（機器単体）	ホッパ	外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		給油装置図	B_DEVICE	—
		手摺架台詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF
		製缶加工組立図	×	×
		購入部品寸法図	B_DEVICE	—
	クレーン	強度計算書	B_DEVICE	—
		外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		全体組立図	B_DEVICE	DRAWINGF
		クラブ組立図	B_DEVICE	DRAWINGF
		歩道手摺詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF
		購入部品寸法図	B_DEVICE	—
（工事図）		輸送計画書	PLAN	—
		据付要領書	PLAN	—
		機器組立要領書	PLAN	—
		基礎図	B_INST	DRAWINGF
		基礎詳細図	B_INST	DRAWINGF
		ピット図	B_INST	DRAWINGF
		ピット金物詳細図	B_INST	DRAWINGF
		小配管系統図	B_INST	DRAWINGF
		小配管図	B_INST	DRAWINGF
		小配管詳細図	B_INST	DRAWINGF
		小配管サポート図	B_INST	DRAWINGF

項目	機器名	図　面　名　称	完成図書 フォルダ	施工図 フォルダ
			PDF	CAD
（工事図）		ダクト配置図	B_INST	DRAWINGF
		ダクト取付図	B_INST	DRAWINGF
		盤据付図	B_INST	DRAWINGF
		全体配線図	B_INST	DRAWINGF
		配線表	B_INST	DRAWINGF
		クレーン取付図	B_INST	DRAWINGF
		試運転要領書	B_CHECK	—
（管理用図書）		機器試験表	B_EXAM	—
		据付記録	B_EXAM	—
		施工管理記録書	B_EXAM	—
		試運転記録	B_EXAM	—
		官公庁等届書	B_EXAM	—
		運転操作概要書	B_MANUAL	—
		取扱説明書	B_MANUAL	—
		油脂リスト	B_MANUAL	—
		メーカリスト	B_MANUAL	—
		予備品リスト	B_MANUAL	—
		工具リスト	B_MANUAL	—
		緊急連絡先	B_MANUAL	—

付属資料４　場所情報の記入方法

場所情報に関わる記入方法を以下に示す。

(1) 工事件名等

1)住所コード

CORINS 登録工事の場合は、着工時にそれぞれのシステムに記入した該当データを各管理項目に記入する。CORINS の登録対象外の工事の場合は、下記 URL で公開されているコード表を参照し、該当するコードを記入する。

CORINS　施工場所コード

http://www.nilim-ed.jp.calsec/corins.html

http://www.ct.jacic.or.jp/corins/index.html

(2)「住所コード」と「住所」の XML 表記例

- 対象地区が 1 市区町村内の 1 箇所である場合

```
<住所コード>14104</住所コード>
<住所>横浜市中区港町 1-1</住所>
```

- 対象地区が 1 市区町村内の 2 箇所である場合

```
<住所コード>14104</住所コード>
<住所>横浜市中区港町 1-1</住所>
<住所>横浜市中区山下町 1-1</住所>
```

該当地区の数を繰り返す。

- 対象地区が複数市区町村の場合（該当する住所が全て列記可能な場合）

```
<住所コード>14104</住所コード>
<住所コード>14101</住所コード>
<住所コード>14107</住所コード>
<住所>横浜市中区港町 1-1</住所>
<住所>横浜市鶴見区鶴見中央 1-1</住所>
<住所>横浜市磯子区東町 1-1</住所>
    :                    :                    :
```

該当市区町村数分繰り返す。

- 対象地区が複数市区町村の場合（設計図書等の住所で代表する場合）

```
<住所コード>14104</住所コード>
<住所コード>14101</住所コード>
<住所コード>14107</住所コード>
<住所>横浜市中区港町他地内</住所>
```

- 対象地区が 1 都道府県全域の場合

```
<住所コード>14000</住所コード>
<住所>神奈川県</住所>
```

- 対象地区が発注者の管内全域等の広域に渡る場合

```
<住所コード>14101</住所コード>
<住所コード>14102</住所コード>
<住所コード>14103</住所コード>
<住所コード>14104</住所コード>
<住所コード>14105</住所コード>
<住所>横浜市内</住所>
```

住所コードは、管内の該当地域の数を繰り返す（当該地域の範囲により、県コード・市区町村コードを選択できる）。

- 特定の地域に該当しない場合

```
<住所コード>99999</住所コード>
<住所>対象地域なし</住所>
```

(3) 場所情報

1)「対象河川コード」のＸＭＬ表記例

```
<対象河川コード>860604nnnn</対象河川コード>
```

淀川の例である。なお下４桁（nnnn）は河川番号を示しており、
「河川コード仕様書（案)」を準拠し、0001 から連番により付与する。

2)「左右岸上下線河川コード」のＸＭＬ表記例

・対象地域が道路の上り線に位置する場合

```
<左右岸上下線コード>10</左右岸上下線コード>
```

・対象地域が河川の両岸に位置する場合

```
<左右岸上下線コード>01</左右岸上下線コード>
<左右岸上下線コード>02</左右岸上下線コード>
```

両岸の場合は左岸と右岸を列記する。

3)「距離標」の XML 表記例

・起点側からの距離標が 31K45、終点側の距離標が 36K67 の場合

```
<起点側距離標-n>031</起点側距離標-n>
<起点側距離標-m>045</起点側距離標-m>
<終点側距離標-n>036</終点側距離標-n>
<終点側距離標-m>067</終点側距離標-m>
```

4)境界座標（緯度経度）

「境界座標」は世界測地系（日本測地系 2000）に準拠する。その範囲は対象範囲を囲む矩形の領域を示し、西側及び東側の経度と北側及び南側の緯度を各々度（3 桁）分（2 桁）秒（2 桁）で表される 7 桁の数値を記入する。特定の地域に該当しない工事については、「99999999」（対象地域なし）を各項目に記入する。「境界座標」は「対象領域の外側」を記入する。なお、対象領域が南緯及び西経の場合は頭文字に「－」(HYPHEN-MINES)を記入する。

境界座標（緯度・経度）の値が明確である場合は、受発注者間で確認の上、その値を管理項目に記入する。境界座標（緯度・経度）の値が不明確である場合は、地形図等から読み取るなどして、その値を管理項目に記入する。その時の精度は、工事範囲にもよるが百 m 程度を目安とする（経緯度の 1 秒は地上距離で約 30m に相当する)。工事範囲が大きくなれば一般に精度も粗くなるが、可能な範囲の精度で取得することが望ましい。

なお、座標の調査方法については、次頁に示すような方法により調査できる。

5)「境界座標」の XML 表記例

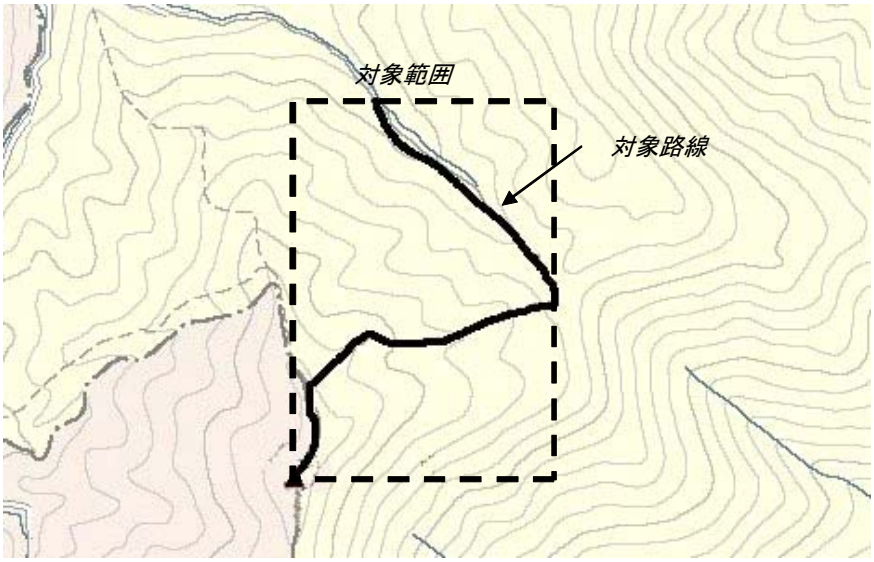
・対象地域が明らかな場合

```
<西側境界座標経度>393808</西側境界座標経度>
<東側境界座標経度>394011</東側境界座標経度>
<北側境界座標緯度>352655</北側境界座標緯度>
<南側境界座標緯度>352462</南側境界座標緯度>
```

【境界座標の調査方法（例）】

① 地形図閲覧サービス（国土地理院）による境界座標の調査方法

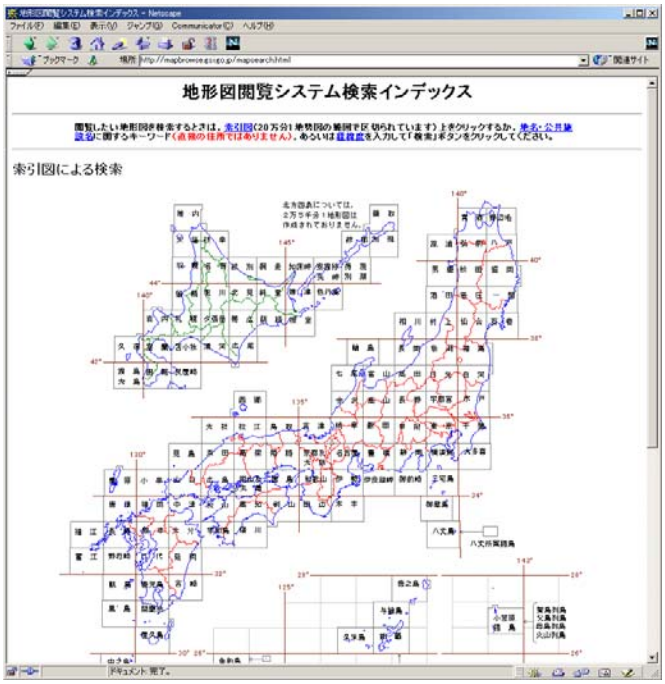
1. 工事対象範囲を地図等におとし、左下隅および右上隅を確認する。対象範囲が路線区間である場合は、対象路線の外側を工事対象範囲とする。



図付 3-1　工事対象範囲の取得方法

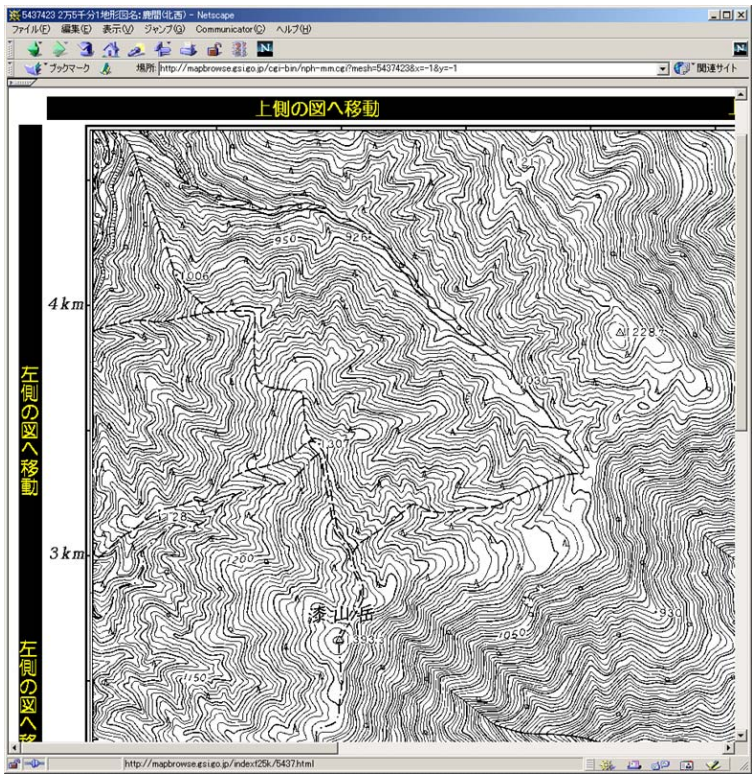
2. Webブラウザにより下記URLのホームページに接続すると、「地形図閲覧システム検索インデックス」が表示される。

http://mapbrowse.gsi.go.jp/mapsearch.html



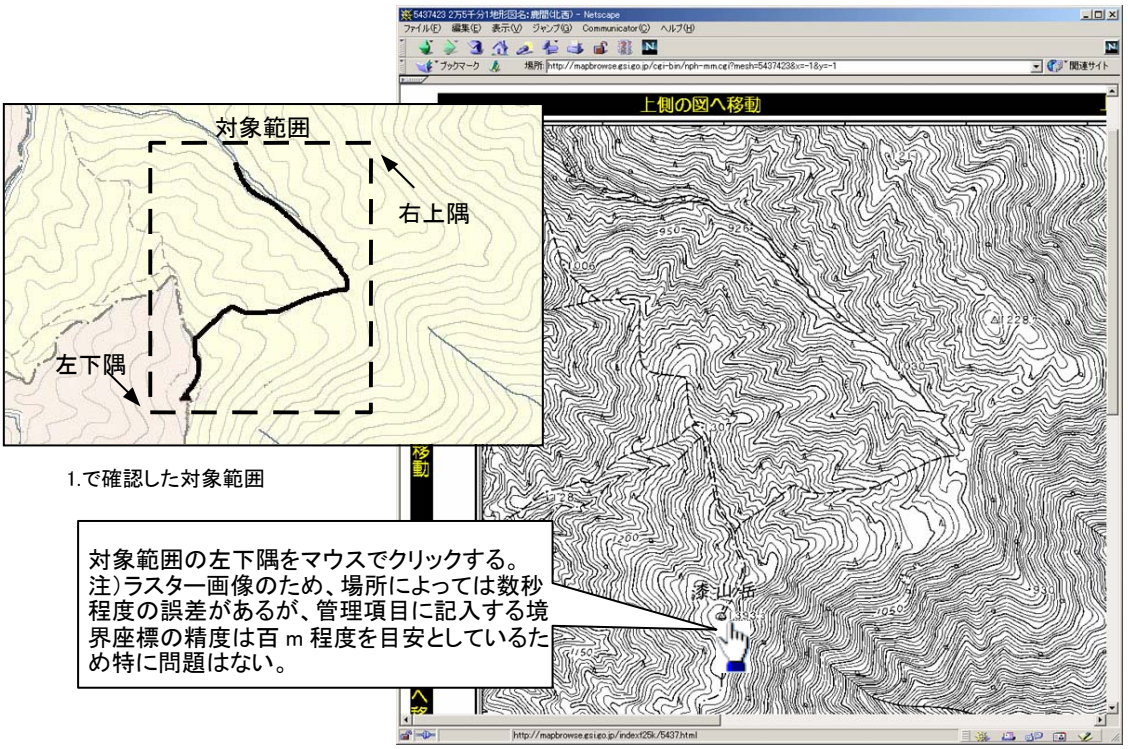
図付 3-2　地形図閲覧システム検索インデックス

3. 「地形図閲覧システム検索インデックス」から、該当する地域をマウスで選択する。
4. 次に表示される図郭選択画面で範囲を絞り込み、該当する地域をマウスで選択する。
5. 最後に 1/50,000 地形図名の分割選択画面が表示されるため、該当する地域名をマウスで選択する。
6. 該当地域の 1/25,000 地形図の画像が表示される。表示範囲が対象範囲と異なる場合は、ウィンドウのスクロールバーで表示範囲を移動する。スクロールバーの移動可能範囲よりも外側に対象範囲が位置する場合は、画面の中の移動ボタンをクリックして表示図面を変更する。または、操作 2～4 に戻って範囲を選択し直す。



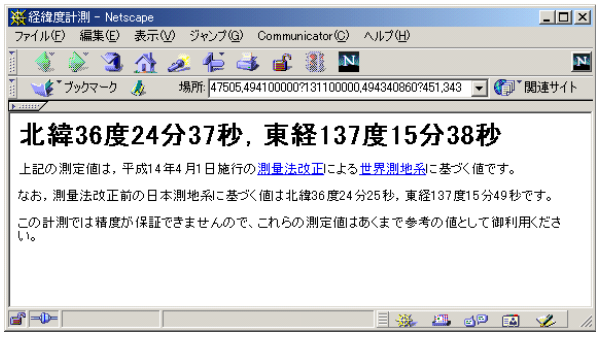
図付 3-3　地形図表示画面

7. 表示された地形図上で、1 で確認した対象範囲の<u>左下隅</u>をマウスでクリックする。



図付 3-4　対象範囲の左下の指示

8. クリックした地点の緯度経度が表示される。表示された北緯を「南側境界座標緯度」、東経を「西側境界座標経度」に記入する。

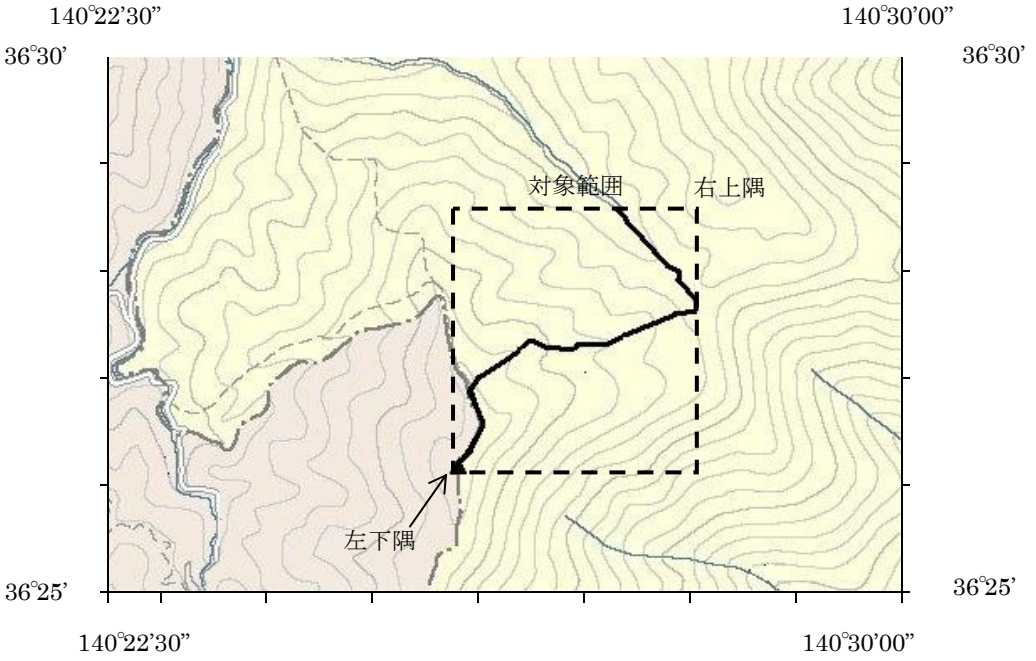


図付 3-5　緯度経度の表示

9. 7、8 と同様の手順で対象範囲の右上隅をマウスでクリックし、表示された北緯を「北側境界座標緯度」、東経を「東側境界座標経度」に記入する。

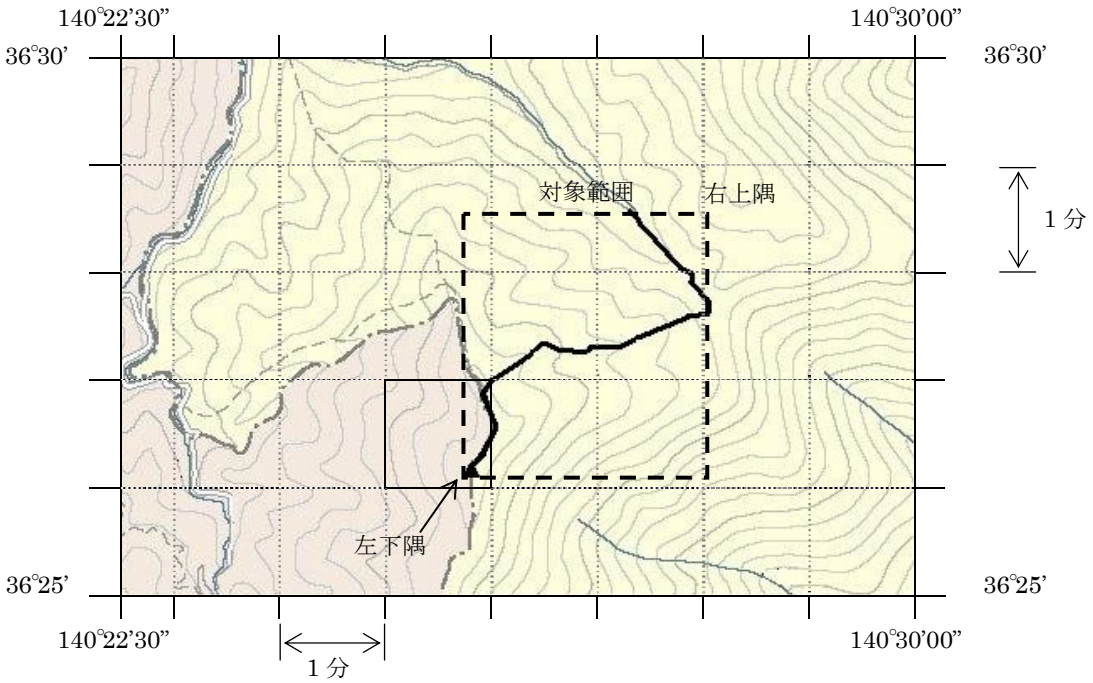
② 地形図による境界座標の調査方法

1. 工事対象範囲を地形図（1/25,000、1/50,000、1/200,000）におとし、<u>左下隅</u>および<u>右上隅</u>を確認する。対象範囲が路線区間である場合は、対象路線の外側を工事対象範囲とする。



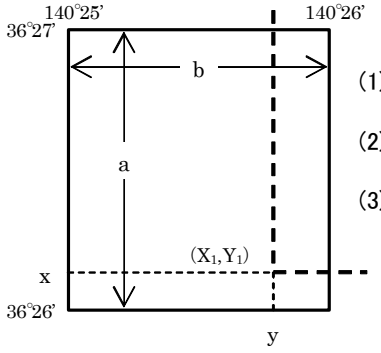
図付 3-6　工事対象範囲の取得方法

2. 地形図が 1/25,000 の場合には、図郭線上に 1 分ごとの目盛りがきざまれているので、これらの目盛りを使用し、下図のように経緯度 1 分ごとのメッシュ（方眼）を作図する。



図付 3-7　メッシュ図（1/25,000 地形図）

3. 対象範囲の左下隅を含むメッシュ（二重線で囲まれた部分）を下図のように取り出し、比例配分等により秒数を計算し、<u>左下隅</u>（X_1,Y_1）の座標を求める。求められた北緯 X_1 を「南側境界座標緯度」に、東経 Y_1 を「西側境界座標経度」に記入する。



(1)スケール等で地形図上からa、bの距離を求める。
a＝7.5cm　　b＝6.0cm
(2)同様にx,yの距離を求める。
x＝1.25cm　　y＝5.0cm
(3)下記計算により(X1、Y1)を求める。
北緯＝ 36° 26’＋60”×1.25÷7.5＝ 36° 26’10”
東経＝140° 25’＋60”×5.0 ÷6.0＝140° 25’50”

図付 3-8　メッシュ拡大図

4. 右上隅も同様の手順で、北緯を「北側境界座標緯度」に、東経を「東側境界座標経度」に記入する。

③　都道府県の東西南北端点と重心の経度緯度の調査方法

各都道府県の東西側の経度、南北側の緯度については、下記 URL のホームページを参照して記入することができる。

（参照先：都道府県の東西南北端点と重心の経度緯度）
国土地理院
http://www.gsi.go.jp/KOKUJYOHO/CENTER/center.html

④　既知の平面直角座標を変換する方法

平面図等で既に対象範囲の平面直角座標が判明している場合は、それらの値を緯度経度に変換して境界座標に記入することができる。

（インターネット上で利用可能な変換プログラム例）
国土地理院
http://vldb.gsi.go.jp/sokuchi/surveycalc/main.html

付属資料５　XML 文書作成における留意点

XML 文書の作成にあたっての留意点を以下に示す。

- XML 文書における文字セットは、「8-2 使用文字」によるものとする。
- XML 文書の文字符号化方式は、XML 文書の標準符号化方式である Unicode 形式の UTF-16、または UTF-8 を基本とすべきであるが、コンピュータシステムの現状を鑑み、当面は Shift_JIS とする。
- 提出する XML 文書には、DTD を埋め込む方式をとらず、外部ファイル参照方式を採用する。
- XML の予約文字（JIS X 0201（ラテン文字用図形文字）の不等号（より小）（<)、不等号（より大）(>)、アンパサンド（&)、アポストロフィー（’)、引用符（”)）については、実体参照を用いることで使用することができる。以下に実体参照を示す。

表付 5-1　実体参照

記号	実体参照
”	"
&	&
’	'
＜	<
＞	>

- XML 文書の作成は、「JIS X 4159:2002 拡張可能なマーク付け言語(XML)」、「標準情報(TR)TR X 0015:1999XML 日本語プロファイル」を参照すること。

本要領の訂正履歴

- 平成 22 年 5 月 12 日訂正
- 平成 22 年 8 月 9 日訂正
- 平成 23 年 1 月 12 日訂正